

ISSN 1343-439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第13号



全日本大学ソフトボール連盟

信じる
ものが、
ある。

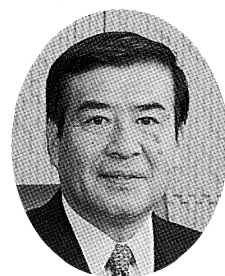
2009 Mizuno Softball

ミズノアドバイザースタッフ
上野由岐子 (ルネサステクノロジ)



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
一 谷 宣 宏

学連機関誌「ウインドミル」の第13号の発刊にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

平成21年度の諸行事も滞りなく終了し、その成果をここに機関誌としてまとめ上げました。皆様にお届けできる運びとなりましたことを大変嬉しく思っております。平成21年度も大学選手権大会を核にし、各ブロックの活性化、ソフトボール競技の充実を目指す研究等多くの有意義な活動が展開されました。各地区のソフトボールにかける情熱がひしひしと感じられる思いで一杯です。本機関誌は、唯単にゲームの記録を残すのみでなく、ソフトボールに関する貴重な論文・技術論を掲載し皆様のお役に立てばの願いから創刊されたものであることを再認識して頂き、学生ソフトボールの在り方、将来性を確認していこうではありませんか。そのような意味で、機関誌「ウインドミル」から得る情報・研究成果を大切にしていきたいと存じます。

さて、何はさておいても、学生の世界選手権大会を日本で開催することが当面の私の願いであります。夢を実現するために、全日本大学ソフトボール連盟の担う役割の大きさを皆さんと共有して参りましょう。

最後になりましたが、学連機関誌「ウインドミル」第13号の発刊にあたり、ご尽力頂きました広報記録部会をはじめとする、関係各位のみな様に敬意を表しご挨拶いたします。

ウインドミル

第13号

目 次

ごあいさつ ●会長 一谷 宣宏	1
〔巻 頭 言〕 ●学生スポーツとしてのソフトボール	4
副会長 中野 元	
〔事業報告〕 ●平成21年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 末井 健作	
〔特 集〕 ●ワールドゲームズ	6
久保田 豊司 他	
●2009年ニュージーランド遠征	18
末井 健作 他	
〔研究紹介〕 ●ソフトボールの投球動作（オーバースロー）に おける手の大きさが球速とコントロールに及ぼ す影響について	30
木田 京子	
〔卒業論文紹介〕 ●大学男子ソフトボール競技における投手・打者に 関する研究	34
高橋速水・佐藤祐輔・豊永 諒・石寄祥悟・藤田隼人 他	
●大学男女ソフトボール選手における スイングスピードの男女差	37
佐藤祐輔・高橋速水 他	
●大学女子ソフトボール投手の試合中における ボールスピードと身体機能の変化に関する研究	40
朝田 豊永 他	
全国大会の記録 ●文部大臣杯第44回全日本大学男子選手権大会	44
●文部大臣杯第44回全日本大学女子選手権大会	52
●第55回全日本総合男子選手権大会	61
●第61回全日本総合女子選手権大会	62
共催大会の記録 ●第23回東日本大学選手権大会	63
●第40回西日本大学選手権大会	65

後援大会の結果●第8回トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯	-----	67
●第11回千葉オープンフェスティバル	-----	69
●第10回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	69
●第6回北信越大学オープン大会	-----	71
●第40回関東大学選手権大会	-----	72
●第1回秋季東海オープン	-----	75
各地区の大会結果●北海道・東北地区 選手権大会	-----	76
●関東地区 春季リーグ戦	-----	76
第17回関東学生選手権大会	-----	79
秋季リーグ戦	-----	80
●北信越地区 選手権大会	-----	82
新人選手権大会	-----	82
●東京地区 春季リーグ戦	-----	83
秋季リーグ戦	-----	85
●東海地区 春季リーグ戦	-----	88
第6回東海地域大学選手権大会	-----	92
秋季リーグ戦	-----	94
●近畿地区 春季リーグ戦	-----	98
秋季リーグ戦	-----	103
●中国地区 インカレ予選会	-----	108
選手権大会	-----	109
●四国地区 春季大会	-----	109
インカレ予選会	-----	110
秋季大会	-----	110
●九州地区 春季大会	-----	111
秋季大会	-----	113
普及活動実績報告●近畿地区	-----	114
●四国地区	-----	116
調査研究委員会●原稿等の募集・投稿規定	-----	116
広報記録委員会●全日本大学ソフトボール連盟表彰	-----	117
●第9回東海オープン出場チーム募集	-----	117
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	120
●平成21年度加盟大学一覧	-----	122
編集後記	-----	124

【巻頭言】 学生スポーツとしてのソフトボール

副会長 中 野 元 （熊本学園大学）

日本のスポーツは、学校体育や企業スポーツを基盤とした「する」スポーツを中心に発達してきました。

近年、少子高齢化やバブル崩壊後の長期的な経済不況、急速な高度情報化など、社会背景の変化とともに、企業スポーツ等の衰退、子どもたちの体力低下などスポーツ界も多くの課題に直面しております。

このような社会背景の変化とそれに伴う価値観の多様化、ライフスタイルの急激な変化は、人々のスポーツへの関わり方にも大きな変化をもたらし、「する」スポーツだけでなく、「みる」・「ささえる」などのさまざまな関わり方が存在するようになってきています。

スポーツ文化を豊かに享受する能力とは、プレイヤーが自らスポーツをすることに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマンシップとフェアプレーに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことです。

これらの能力を育成するためスポーツの指導者は、自らがスポーツ文化を理解し、プレイヤーとお互いに尊敬しあい、プレイヤーの

立場に立ち、サポートしなければなりません。

また、これまでの指導は、個々人が持つスポーツの目的を合理的に達成するための方法としてスポーツ技術・戦術に関する指導が中心となっていました。スポーツの行い方や取り組み方、とりわけスポーツに意義と価値を与えるスポーツ観、競技規則だけでなくスポーツマンシップとフェアプレーに代表されるマナー・エチケットなどの道徳的規範を指導することがスポーツ文化の豊かな享受能力を育成していくためには重要なことです。

近年、国民の1人ひとりが自己の能力や興味・関心、ライフスタイルなどに応じて主体的にスポーツを実施していくという生涯スポーツ社会の実現を図るために、多様なニーズを抱合し、多様な活動が可能となる地域に密着した総合型地域スポーツクラブの育成が重要視され注目されています。(財)日本ソフトボール協会とともに、(財)日本体育協会が進める「ソフトボール指導員」等の資格は、それに寄与するものであり、資格取得の過程を通して幅広い知識・技能の習得と指導者としての資質の向上並びにスポーツ文化への貢献が期待されています。学連としてもこれに積極的に関与して参りたいと存じます。

【事業報告】 平成21年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末 井 健 作（兵庫県立大学）

本学連の事業である文部科学大臣杯第44回全日本大学ソフトボール選手権大会は（主管：宮崎県ソフトボール協会、宮崎市ソフトボール協会）、「スポーツランドみやざき」の中核都市として、夢・感動あるスポーツ都市づくりを推進している宮崎市において開催されました。男子の主会場となった宮崎県総合運動公園はプロ野球読売ジャイアンツのキャンプ地として、また女子会場の生目の杜運動公園はソフトバンクホークスのキャンプ地として使われている素晴らしい環境と施設で、選手の熱気溢れるプレイと詰め掛けた多くのソフトボールファンの応援で大いに盛り上がった大会となりました。このように素晴らしい施設の提供とスムーズで献身的な大会運営で心に残る大会を主管くださいました宮崎県ソフトボール協会・宮崎市ソフトボール協会及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後の開催においては、今回のように会場に照明施設があること、観覧席があること、会場が隣接されていること等にも配慮して大会運営に当たりたいと思います。

男子は日本体育大学が投打共にバランスがとれ、大会2連覇で通算28回目の優勝を、女子も東北福祉大学が力強さとチームワークの良さを遺憾なく発揮し大会2連覇で通算3回目の優勝を果たしました。本大会は男女とも新旧の争いがさらに激しさを増し、レベルの高い戦いが今後も続くことが予測されますが、本学連はさらに選手の品格と技術の向上を目指し、ソフトボール界を代表する大会となるよう努めたいと思います。また、学生役員は開・閉会式の宣言、監督会議の受付、各会場での情報収集等のサポートなどを務めました。特に、開会式終了直後に行われた第8回ワールドゲームズ（台湾・高雄市）に出場し、金メダルを獲

得した大学女子選抜チームの優秀選手表彰の司会進行という大任も果たしました。今後は学生役員の役割がさらに重要になります。

2009年2月には4回目となる本学連男子選抜チームをニュージーランドに派遣し、技術の習得は固よりホームステイを通じて国際交流を深めることができました。今後も、男女いずれも国際大会への派遣は継続することが重要です。近い将来、日本において世界大学選手権大会の開催を視野に入れた事業の計画も検討する必要があります。

後援した東日本、西日本大学選手権大会およびオープン大会（5地区：7大会）は、関係者のご協力により成功裡に終えることができました。本大会は主管くださるソフトボール協会関係者の皆さんと連携しながら、さらに充実した大会に発展させていただきたいと思います。オープン大会は全地区（9地区）での実施を目指しています。各地区にはリーグ戦や大会等がありますが、地区を越えたオープン大会の開催が大学ソフトボールの普及と発展に繋がることを期待しています。また、各地区の学生役員の組織の確立と学生役員相互の連携を図ることが求められています。本学連役員の皆様のご協力をお願いします。

本学連は、「ソフトボールに関する研究（ソフトボールを科学する）」を発展させることも重要な役割であり、今後、若い指導者の意欲的な研究活動を期待しています。

加盟大学は地域との連携と普及を図るため、ソフトボールの指導を推進してください。学生の皆さんには、ソフトボールの指導を通じて社会への貢献と普及活動に協力してくれることを切望しています。今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【特 集】 第8回ワールドゲームズ2009 in 高雄

大学女子日本代表 金メダル獲得！ チーム一丸の戦いでついに『頂点』に

●代表選手

No.	守 備	氏 名	所 属	年 齢
1	投 手	長 南 友 子	東北福祉大学	4
2	〃	重 藤 恵 理 佳	日本体育大学	4
3	〃	西 岡 里 恵	園田学園女子大学	3
4	捕 手	石 田 奈 々	東北福祉大学	4
5	〃	岡 田 佳 織	山梨学院大学	2
6	内野手	粕 張 舞	東北福祉大学	3
7	〃	小 柳 薫	東京女子体育大学	4
8	〃	井 上 愛	東北福祉大学	3
9	〃	森 田 涼	園田学園女子大学	3
10	〃	谷 池 紫 穂	園田学園女子大学	4
11	〃	西 川 友 理	東京女子体育大学	4
12	外野手	森 さやか	東京女子体育大学	3
13	〃	大 村 英 利 佳	大阪国際大学	3
14	〃	田 邊 奈 那	環太平洋大学	3
15	〃	浜 渦 聡 美	環太平洋大学	2

●スタッフ

- ・ヘッドコーチ：久保田 豊司（大阪国際大学）
- ・コーチ：舟山 健一（東北福祉大学）
木田 京子（園田学園女子大学）
- ・総務兼マネージャー：人見 いずみ（淑徳大学）
- ・トレーナー：種田 祥子（日本協会）

●大会概要

7月17日（金）～20日（月）、台湾・高雄で「第8回ワールドゲームズ2009 in 高雄」が開催され、大会には、日本、台湾、カナダ、韓国、ロシア、シンガポールの6カ国が参加。全チームによるシングルラウンドロビン（1回戦総当たり）方式の予選リーグを実施。上位4チームがページシステム（敗者復活戦を含むトーナメント）で行われる決勝トーナメントに進出し、最終順位を決定する試合方式で覇が競われた。

大会初日（17日／金）、まず初戦のシンガポール戦を15－1のスコアで圧勝。幸先のよいスター

トを切ったが、続く台湾戦は、地元の熱い声援にも後押しされた「優勝候補の大本命」の前に、投打ともいいところなく、0－6と完敗。

大会2日目（18日／土）、カナダに13－1でコールド勝ちし、再び勢いを取り戻すと、続く韓国戦は2－0の完封勝利。通算成績を3勝1敗とし、決勝トーナメントを有利に戦える2位以上の通過が見えてきた。

大会3日目（19日／日）、予選リーグ最終戦となるロシア戦では、1点を先制されながら、試合後半に打線が爆発。6－2で勝利を収め、通算4勝1敗の2位で予選リーグを通過。決勝トーナメントに駒を進め、予選リーグでは完敗を喫した台湾と再戦した。この試合でも、3回表に先制されながら、終盤6回裏に同点に追いつき、1－1の同点のまま、延長タイブレーカーに突入。延長8回裏、キャプテン・小柳薫（東京女子体育大）が執念のサヨナラ安打。「優勝候補の大本命」を死闘の末に下し、翌日の決勝進出を決めた。

大会最終日（20日／月）、敗者復活戦に回り、韓国を7－0で破って勝ち上ってきた台湾との『最後の決戦』に臨み、総力戦を展開した。初回到1点を先制されながら、3回表、田邊奈那（環太平洋大）の絶妙なセーフティーバントが相手守備の乱れを誘い、一気に同点。森田涼（園田学園女子大）、森さやか（東京女子体育大）の安打で一死一・三塁とし、「頼れる主砲」小柳薫（東京女子体育大）が逆転のタイムリー。4回裏に同点に追いつかれたが、7回表にも再び森田涼（園田学園女子大）の二塁打、犠打で一死三塁のチャンスを作り、森さやか（東京女子体育大）のピッチャー強襲安打で勝ち越し。さらに敵失でチャンスを広げ、井上愛（東北福祉大）のタイムリーで台湾を突き放した。

守っては、長南友子（東北福祉大）、重藤恵理佳（日本体育大）、西岡里恵（園田学園女子大）とすべての投手をつぎ込む継投策で台湾を2点に

抑え、最終回の二死満塁の一打逆転のピンチも、台湾の応援一色に染まる「完全アウェー」の雰囲気の中で、今大会4勝を挙げたエース・長南友子（東北福祉大）がリエントリーして台湾の反撃を断ち、全員総力の戦いで『金メダル』を勝ち取った。

過去3回、大学女子日本代表が挑んできた世界女子大学選手権、ユニバーシアードでは、常に「ベスト4の壁」に阻まれ、銅メダルに終わっていた。しかし、今大会では、それらの国際大会を戦い抜いてきた国際経験豊かなスタッフが中心となり、チームをまとめあげ、戦前の予想を覆し、ついに『頂点』に登り詰めた。

チーム一丸となった戦いで堂々と勝ち得た金メダル。この輝かしい結果はもちろん喜ばしい限りだが、今後この『金メダル』を経験したメンバーが、『新たなルート』を作り出し、日本を代表する選手あるいは指導者と成長していくことも大いに期待できそうだ。その意味でも、今大会での『優勝』は、その結果以上に重要な意味を持つ『勝利』といえそうだ。

●第8回WG2009 in 高雄 全試合結果

◆7月17日(金)予選リーグ

シンガポール 1 0 0 0 0 : 1
日 本 6 8 0 1 x : 15

○長南・西岡一石田・岡田

〔三塁打〕森〔二塁打〕小柳、粕張

日本 0 0 0 0 0 0 0 : 0
台湾 2 0 0 0 2 2 x : 6

●重藤・長南一石田

〔三塁打〕井上

◆7月18日(土)

日 本 3 1 1 3 5 : 13
カナダ 0 0 0 0 1 : 1

○長南・西岡一石田・岡田

〔三塁打〕森、井上〔二塁打〕粕張

韓国 0 0 0 0 0 0 0 : 0
日本 0 0 2 0 0 0 x : 2

○重藤・西岡一石田

◆7月19日(日)

日 本 0 0 0 2 3 1 0 : 6
ロシア 0 0 1 0 0 0 1 : 2

○長南一岡田

〔三塁打〕井上〔二塁打〕森

第8回ワールドゲームズ2009 in 高雄 予選リーグ戦結果

チーム	日 本	台 湾	カ ナ ダ	韓 国	ロ シ ア	シンガポール	勝	分	敗	順位
日 本		● 0 - 6	○ 13 - 1	○ 2 - 0	○ 6 - 2	○ 15 - 1	4	0	1	2
台 湾	○ 0 - 6		○ 11 - 0	○ 8 - 1	○ 3 - 0	○ 18 - 0	5	0	0	1
カ ナ ダ	● 1 - 13	● 0 - 11		● 0 - 7	○ 5 - 4	○ 6 - 3	2	0	3	5
韓 国	● 0 - 2	● 1 - 8	○ 7 - 0		● 2 - 3	○ 13 - 0	2	0	3	3
ロ シ ア	● 2 - 6	● 0 - 3	● 4 - 5	○ 3 - 2		○ 11 - 4	2	0	3	4
シンガポール	● 1 - 15	● 0 - 18	● 3 - 6	● 0 - 13	● 4 - 11		0	0	5	6

※3～5位は同率チーム同士の対戦失点数により決定

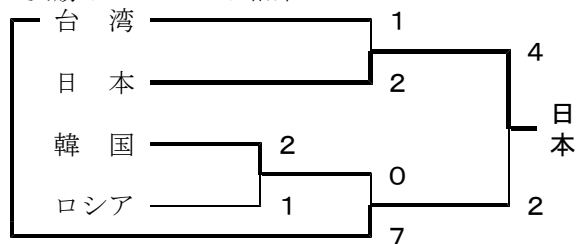
◆7月19日(日)決勝トーナメント／1位・2位戦

台湾 0 0 1 0 0 0 0 0 : 1
日本 0 0 0 0 0 1 0 1 x : 2
西岡・重藤・○長南一岡田・石田

◆7月20日(月)決勝戦

日本 0 0 2 0 0 0 2 : 4
台湾 1 0 0 1 0 0 0 : 2
長南・○重藤・西岡・長南一石田・岡田
〔二塁打〕森田

決勝トーナメント結果



※以上、(財)日本ソフトボール協会HPより引用

ワールドゲームズ参加スタッフのレポート

「金メダル」

監督 久保田 豊 司（大阪国際大学）

これまで大学女子の日本代表チームは、FISU主催の競技別世界選手権が実施された第1回世界女子大学ソフトボール選手権大会(2004／アメリカ)・第2回大会(2006／チャイニーズ・タイペイ)・第24回ユニバーシアード競技大会(2007／タイ・バンコク)の世界大会において全て3位銅メダルの戦績であった。しかし、大学女子日本代表チームは、ついに「第8回ワールドゲームズ2009 in 高雄」で念願の金メダルを獲得した。ファイナル終了後、日ソ女子強化委員長の吉野先生、大学連盟理事長の末井先生とこれまで歩んできた国際大会への思いが私の頭の中を過ぎった。

金メダルまでの道のりを振り返ってみると、大学連盟としては、加盟大学の協力を得ながら男女ともに継続して海外遠征を行い選手に国際経験を積ませてきたこと（**継続と強化**）、コーチングスタッフとしては、前回大会と同じメンバーでありスタッフ間の連携ができていたことと、戦略・戦術、コンディショニング、チームマネジメント等、科学的な知識や考え方の共通認識が持っていたこと（**経験と科学**）、強化合宿としては、日本女子リーグ1部のトヨタ自動車、日立ソフトウェア、豊田自動織機らの日本リーグ勢、また、飛龍高校男子ソフトボール部、男子大学生バッテリーの胸を借りて強化試合・打撃練習を行いスピード・パワーの対応と強化が図れたこと（**協力と強化**）、現地では、スタッフ・選手が一体となりコンディショニングの調整に努め、最高のパフォーマンスが試合に発揮できたこと（**連携と調整**）、試合では、ユニバーシアード競技大会で国際試合を経験した選手が状況に応じた守備・打撃を行い大活躍したこと（**育成と経験**）、などが勝因としてあげられる。

ワールドゲームズでは、スポーツ指導場面で実践されている**太字のキーワード**が大きな意味を持っていたこと、また、その内容が各方面の協力を得て達成できたからこそ金メダルが獲得できたものと強く実感した。大会の報告・感想などは選手のレポート、日本ソフトボール協会HP（大学女子日本代表大会報告）を読んでいただきたい。

最後に、ワールドゲームズへの参加に関して、大学生及びスタッフにこのような貴重な機会の場を提供して下さいました(財)日本ソフトボール協会、及び関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。出場した選手たちは、このワールドゲームズで経験したことを伝え継ぐ「メッセンジャー」として、幅広く活躍してくれるものと信じています。

「ワールドゲームズ」

コーチ 舟山健一（東北福祉大学）

7月17日(金)～20日(月)、台湾・高雄で開催された「第8回ワールドゲームズ2009 in 高雄」で大学女子日本代表が金メダルを獲得した。

今大会の勝因の大きな一つに、2006年の第二回世界大学選手権・2007年ユニバーシアードと、同じスタッフで挑めたということが上げられる。走塁を含めた攻め・バッテリーを含めた守りを役割分担し、それぞれのポジションで力を発揮させるということがスタッフ内で徹底できていた。

国際大会で勝ち抜くには「高いレベルでの攻守のバランス」は絶対条件といえる。過去の国際大会では、いくら相手チームの分析や細かい戦略を立てても、やはり力がある相手には通用しなかった。ある程度の戦えるチームが出来た上で「ボールゲーム」という駆け引き・心理戦が始まる。合宿の段階で、高いレベルでの攻守のバランスがとれたチーム作り→ボールゲームへという方向性が

スタッフ内で定まっていたことで、「選手がやるべきこと」が明確になり、短期間で勝ちきれぬチームができたといえる。

国際大会

今大会に限らず、国際大会は神経戦である。海外の選手とは、体格差があり視覚で圧倒される、規格外のパワーを持つ相手と対戦するというのを考えると、一球一球神経をすり減らしながらの試合となる。さらに、今回は真夏の台湾での大会である。高温多湿、蒸し風呂の中のような気候で、神経戦に加え今回は消耗戦ともいえる大会でもあった。

コンディショニング

2006年の同じ台湾で開催された世界選手権では、暑さと蓄積疲労で半分近くの選手がダウンしてしまった。この反省を踏まえ、合宿の段階で暑さ対策、現地での過ごし方をシュミレーションし心理的・身体的準備をして現地に入ることができた。現地では、ホテルと会場が近くにあったということもあり、ダブルの試合の合間にはホテルに帰り休ませた。選手には大きな負担となる洗濯もスタッフ総出で行い、選手を休ませることを徹底した。コンディショニングはトレーナーに一任ということではなく、グラウンド内外でスタッフと選手が連携を上手くはかり、体調不良者を出すことなく大会を終えることができた。

まとめ

選手・スタッフの金メダルへの執念が、チームの一体感を生み勝ちることが出来たといえる。大会に挑むにあたりご尽力賜りました日本協会はじめ各大学関係者、そしてご声援くださいました全ての皆様に感謝申し上げ報告といたします。

「ワールドゲームズに参加して」

コーチ 木田 京子（園田学園女子大学）

ワールドゲームズ2009に大学選抜チームスタッフとして出場し、今まで大学選抜が国際大会で突

破できなかった壁を破ることが出来、大変感激しました。一生懸命、選手の日々成長する姿、スタッフもそれぞれの役割に徹し団結した協力体制がすばらしかったと感銘しています。良い体験をありがとうございました。

今回の大会に参加して、以前から国際大会でよく感じさせられていた体格差やスピードやパワーの違いは感じなかったのが正直な感想でした。他国の代表選手がトップチームではないケースもあったのは確かですが、日本人選手も以前に比べると他国の選手にひけをとらないパワーやスピードも身に付けてきた感がありました。生活環境の変化やトレーニング等の進化により日本人の骨格・体格であっても、ソフトボールに必要な体力は身につけることが可能ではないかと思います。

コンディショニングについては高温多湿の台湾開催で非常に難しかった状況でした。外気温や発汗だけでも体力が消耗し、排気ガスも多くて環境は良いとは言えませんでした。宿舎が近いことでうまく休息をとることが出来ました。選手たちの動きの確認や疲れの調節をうまくトレーナーが整えてくださったと思います。また、監督が先頭に立ち、スタッフ総出での洗濯や買い物等、選手たちの安全や休息のために協力できたことが良いコンディショニングの一因であったことも否めないと思います。

このように勝因はさまざまなことありますが、試合の中で言えば、日本の技術の高さやゲームメイクの巧みさがうまく絡んだと感じています。日本人特有の緻密な技術力の高さが、競った試合の中で発揮されたことが多く、また、試合を重ねるごとに、最小失点目指してコンビネーションのとれた守備とホームベースを踏むことに執着した攻撃が試合展開の中でバランスが取れてきました。そして学生らしく励まし合い、強い気持ちを常に持ち続けチームスポーツとしてのすばらしいところが発揮されたチームだったことが勝因であったと思います。

最後にワールドゲームズ出場に際し、たくさんの激励や祝福のお言葉をいただきました。大学ソ

フトボール連盟の皆様をはじめ関係各位の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

「経験」の大切さ

マネージャー 人見 いずみ（淑徳大学）

15名の選手が選考会を通して選ばれ、強化合宿を経て本大会に臨んだ。

今大会を通して、大学選抜というのは選ばれた15名という少ない数の選手たちをいかに機能させるかが、タイプの異なる様々な他国チームとの勝負に勝っていく大きなポイントであると感じた。

「全員が戦力」という当たり前に思えるようなことを実現していくために、まず欠かせないことが各自のコンディションを維持させることであった。気候も文化も環境も異なる異国の地では暑さ対策や食文化の違いによる栄養対策に加え、文化や国民性の違いから行動スケジュールの変更を余儀なくされることもしばしばあり、さらには試合のスケジュールさえも直前になって度々変更されるなど、ただでもタイトな試合スケジュールの中で

このようなことが試合に影響しないようにチームとして細心の注意をはらうことが重要であった。次に15名の選手が出来る限りベストなパフォーマンスを発揮できるような意識を持たせること、どの一人にも“控え”という意識を絶対に持たせないようにすることが重要だと感じた。様々な国との連戦においては相手チームによっても戦い方が変わる為、優勝を狙うにはそれぞれの選手が自分の特徴を生かしその役割を果たしていくことで戦い方の幅も広がり、チームとしての対応力に繋がると感じた。今大会の投手陣に象徴されるように一人の選手が“大車輪の活躍”ということではなく、三人の投手がそれぞれ自覚と責任を持ってそれぞれの役割を果たすなど、野手陣においてもそのような雰囲気チーム全体にあったことが好結果に繋がったのではないかなと思う。

過去の大学カテゴリーとしての国際試合の中で培った経験が、監督、コーチ陣を通してチームに生かされた結果としての“優勝”だったように感じた大会であり、今回初めてスタッフとして経験させていただいたことに感謝し、今後の大学ソフトボールの発展に微力ながら貢献していきたいと思っています。

ワールドゲームズ参加選手のレポート

ここでは、選手が第8回ワールドゲームズ2009 in高雄で得た貴重な体験を、国際試合に出場して、日本チーム・外国人選手との違い、コンディショニング（体調管理）、後輩または海外で試合をするためのアドバイス等について報告します。

小柳 薫（東京女子体育大学4年生）

ワールドゲームズに参加させていただいて感じたことは、台湾で開催するということで気温や湿度が日本とは違い慣れるのに苦労しました。そして、台湾との試合では完全アウェイ。そうした中

で自分のプレーに集中できたのはスタッフの方々のおかげだと感じました。試合前のアップでは、各自ランニング、股関節や肩関節のストレッチ、そして全体で瞬発的な動きのアップをして調子をあげていきました。反省すべき点は、最終日の決勝では体調が悪くチームに迷惑をかけてしまったことです。

今回、外国のチームと戦って思ったことは、黄色ボールは予想以上に飛ばないことでした。そして、台湾以外のピッチャーは変化球を投げる数が少なかったと思います。台湾以外の外国と日本とでは、ピッチャーやバッティングのレベルの差が

日本の方が上だなと感じました。また、台湾のチームは、オリンピックを経験している選手もおり正確な守備をしているなど感じました。しかし、決勝では台湾はミスが目立っていたと思います。日本チームのピッチャーは正確なコントロールで長打を打たれるが少なく、ランナーを進めさせない配球が出来ていたのがチームを優勝に導いた要因だと思います。また、バッティングでは、自分の役割をミスなくこなしたことが他のチームより上回っていたのだと思います。この経験を通して言えるのは、チャンスでミスをして言葉をかけて前向きな意欲を持たせ、いつもムードが良い最高の仲間に出会えたことが大きいと思います。技術面では、あれこれ考えずに堂々と思いついたプレイをすることが大切だとこの大会を通して感じました。プレッシャーを感じることもあります。それに打ち勝てれば良い結果がついてくると感じました。

最後に、最高のプレイをする為といって疲れているなかチーム全員の洗濯をしていただき、スタッフの方には感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました。

石田 奈々（東北福祉大学4年生）

2009ワールドゲームズ in 高雄大会は、初めての大学代表、初めての国際大会、初めての国際大会での金メダルというような形で大会を終えることができました。台湾で過ごした約1週間の時間は、私に新しいソフトボールを教えてくれました。まるで私は初めてソフトボールを始めた子供のようなワクワクした気持ちで、大会期間を過ごしていました。なぜならすべてが「初」だからです。1秒1秒と流れる時間と共に、成長できたように感じました。

外国選手といっても国によって様々です。背が高いチーム、パワーがあり力任せにプレーするチーム、体格が小さいチーム、ソフトボールをただ楽しんでいるチームなど、国によってソフトボールに対しての思い・価値観に違いがあると感じました。また、国に野球があるチームとないチーム

では違ったソフトボールをします。色々な視点から様々なことが見えてきました。日本チームがなぜ勝てたのかと考えると、全てのことに「意味づけ」をし「こだわり」を持っていたからだとは思いますが。まず大会で優勝したいとチームで最高目標があり、そこにそれぞれ個人の思いがありました。では勝つためにはどうすべきかを考えた時に、コンディショニング、チームでの作戦・戦略、個人の役割など今スタッフ・選手共にやるべきことは何なのかが見えてきたのだと思います。

コンディショニングの面では、トレーナーから遠征する約1カ月前から高温多湿の環境に耐え抜く体力づくりと、次の試合に臨むための体力回復を中心に指示をうけ実行してきました。体重を維持するためにご飯の量をいつもの倍に、熱中症対策で水分補給をこまめにとり、練習と休憩のメリハリなどを継続的に行っていました。

最後になりますが、私はソフトボール競技を通してたくさんの人と出会い、こうして世界大会で金メダルを獲得することが出来たことに幸せを感じています。今後とも夢や目標をもって、お互いに頑張っていきたいと思います。

重藤 恵理佳（日本体育大学4年生）

ワールドゲームズは国内の大会と比べ規模がかなり大きかったです。まるで大会期間中は毎日がお祭りのように夜には花火が上っていました。ソフトボールの試合会場はとても立派で綺麗なところでした。私は、ワールドゲームズに出場させていただいたことを本当に感謝しています。

海外の選手は日本の選手とはいろいろ違います。まず、体格は基本大きいです。アジア系の国は日本とたいして変わりませんが、欧米などは日本と比べかなり大きいです。バッターボックスが小さく感じて、威圧感がありました。そして、とてもパワフルで、ボールとバットが上手く当たればどこまでも飛んでいってしまうのではないかと感じてしまうくらいです。そして雰囲気、ソフトボールの攻め方も違うように感じました。なんだか、少しネガティブなことばかりあげてしまい

ましたが、ピッチャーはしっかりとねらったところに投げられていれば、そう簡単に長打を打たれることはないと思います。

試合前のコンディショニングは、各自がトレーナーさんに相談をして、練習や試合後にアイシングやストレッチを行いました。ウォームアップについては、全体で行うこともありましたが、私はピッチャーなので各自で行うことの方が多かったです。監督からいつ頃投げかななどを教えていただけたので、自分のペースでアップし、良い状態で試合に臨むことが出来ました。それに大会中、自由に出来る時間も多かったので、試合前に睡眠をとったり、音楽を聞いたり、リラックスできる時間が多くとれたことが良かったのではないかと思います。国際大会は、国内の大会とは気分も緊張感も違ってくるので、私は自分に自信が持てればどんなところでも、どんな相手にでも思い切り立ち向かえて良い結果が生まれると思います。

長南 友子（東北福祉大学4年生）

今回初めて国際大会というものに出場し、自分にとってとても先に繋がる経験になったと思う。それまで一度も大きな大会での経験がなかった分、代表メンバーに選出していただき、ましてや国際大会のマウンドに立って投げさせていただいたことは、それからの私自身に精神的な面でとても大きな影響を与えてくれた。

やはり外国人と比べてみると、日本人の姿勢は小さいと思う。しかしそれに勝る戦術なり技術がある分、対等にもしくは有利に試合を運べるのではないだろうか。派手でダイナミックに見えるのは外国人選手だと思うが、丁寧に堅実なのは日本人選手だと感じた。

国際大会だということで日頃以上に体調管理には気を遣った。今回でいえば高温多湿、日本で合宿を行ったときからトレーナーやスタッフには沢山のアドバイスを頂いた。水分を多く取ることから、ウォーミングアップ、練習後のケアまで。しかし、結局は自己管理が一番重要なのではないかと私は思う。自分の体は自分にしか分からない。

常に自分の状態を敏感に感じ、自分で自分の体調を整えられるところまで持っていかなければならないと思う。

技術的なことは私からはなんとも言えないが、精神的にはどれだけ普段通りのプレイが出来るかだと思う。しかし、私も最初は思うような投球が出来ず、振りかえった時にやはり気持ちの面での反省が出た。出来るか出来ないか。そんなことに不安に感じていたら何も出来ない。自分は出来ると思ってやるしかない。だからそのいざという時の為に普段から色々なことにこだわりを持ち、誰にも負けない練習をし、自信をつけるしかない。誰にも負けないというのは人と比べることではない。自分自身が誰にも負けないと思うならそれでいいのだと思う。国際大会は、いつもとは異なる環境でのソフトボールとなる。だからこそ積極的にコミュニケーションを図り、お互いを知ることがチームを結成した時に一番大切なのではないかと感じた。

谷池 紫穂（園田学園女子大学4年生）

私にとって国際試合というのは初めての経験でした。

普段は日本の大学生を相手に試合をする事がほとんどで、選ばれた当初は不安でいっぱいでした。しかし、合宿でスタッフや他の選手とコミュニケーションを図りながら、実業団や男子と試合をして力の差は感じたものの、それぞれのチームでの役割や立場を抜きにして、このチームで勝つために必要な事と自らが求められている事を自覚しながら練習試合に臨んだため、試合を重ねていくうちにまとまっていったような気がしました。実際に高雄に入ってから試合では、今自分が出来る事を精一杯しようと考えていました。

外国のチームは日本とは違い緻密な戦術を絡めたソフトボールというより、どのような状況においても力いっぱいプレイしていると感じました。外国選手の印象は形ではなく力でボールを飛ばす、投げるといった日本では体験することのできない迫力を感じました。日本人と外国人では筋力も違

い、日本人は外国人と比べると体格も小さい分、戦術や力のコントロールといった細かい所にこだわることによって力や体格の違いは感じず同等に、むしろ有利に試合を運べたように感じました。

コンディショニングでは初めての国際試合ということもあり、なるべく早く環境に慣れて試合に集中することを考え、アップではモチベーションを高めて試合に臨むよう心がけていました。私自身の結果としては力不足でいい結果は出せませんでしたが、チームとしての結果は最高のものです。日本に帰ってビデオを何度も見ましたが、日本のピッチャーがどこの国よりもコントロールがいいし、選手の能力も高いと感じました。現地にいるときにそう感じる事が出来なかったのは私自身の力不足だということを改めて感じましたが、試合を振り返ると、結果を出せない私がいるのにも関わらず金メダルを取れたのはスタッフを始め選手間が信頼しあえたことが大きな勝因で、スタッフが選手の事を第一に考えて道具の片付けや洗濯を行い、助け合ったから金が取れたのではないかと思います。私は大学を卒業しますが、大学で得た経験を今後にいかせられるよう頑張りたいと思います。みなさんも頑張ってください。

西川 友理（東京女子体育大学4年生）

この度、大学女子日本代表として世界大会に出場し、大変貴重な経験をさせて頂きました。世界一という結果をおさめられたのも、関係者の皆様、チームスタッフの方々の支えがあったからだ改めて感じました。

国際試合ということで、日本のチームは外国人チームに比べると、ひと目で体格の差が目立ちました。しかし、試合を行うなかで、パワーやスピードといった力の差はさほど感じなく、技術面においては、日本チームが一つも、二つも、上回っていたように感じました。

今回この大会が行われた台湾は、高温高湿ということで、本大会出発前の国内合宿の際に熱中症対策の知識など、事前の準備をチーム全員で行いました。台湾に入ってから、トレーナーさんの

指示を忠実に守り、水分補給の仕方や、食事のとり方など細かいところに気を配りました。試合や練習前のアップは、高温高湿という気候を考え、決して無理をせず、短時間でアップを行いました。日本代表とは、選ばれた選手たちの集まりなのでチームのレベルもはじめて高くなります。その為試合では、自分のことだけをしていれば自然と勝ってしまうことが多くあります。しかし、世界と戦うためにはチームワークがとても重要になります。今大会の決勝は99.9%アウェイのなか戦い抜きました。今までに体験したことのない緊張感やプレッシャーに打ち勝ち、世界一をとるには、チームワークが最も大事だと感じます。大学選抜チームは、学生らしく、元気に、礼儀正しくあって欲しいと思います。また、私自身は最後の国際大会となってしまうしましたが、次の大会でも、世界一を勝ち取って欲しいと思います。

西岡 里恵（園田学園女子大学3年生）

国際試合に参加したのは2回目ですが、以前は親善試合だったので全く違いました。大会はオリンピックの種目でない競技であるが、試合の雰囲気や観客・歓声の多さ、台湾戦での99%アウェイの中の試合には驚かされました。さらに、外国選手を見たとき体格がとても大きい人がいて、力も違うことをあらためて実感させられました。私自身、今まで周りの歓声などを気にすることはありませんでした。今回は、その歓声を耳にして、驚きながらも大会のおもしろさを楽しみました。台湾はとても湿気が多く暑いと聞いていたので、台湾に行く前から暑さ対策や体力づくりを行いましたが、予想していた以上に暑く、常にシャワーを浴びているようでした。試合時間がバラバラで朝に1試合して夜ナイトゲームというのが普通で、今までにない体験でした。試合までの間の時間に仮眠をとったり、散歩に行ったり、気分転換を含め試合まで気持ちを整理していました。自分自身の体調管理もそうですが、この国際大会では自分を試合に合わせるのがカギとなっていました。どれだけいつもとかわらない良い状態で臨めるか、そ

して何よりも気持ちを、自分のモチベーションをあげていけるかが大事でした。試合会場の観客席は台湾側の応援で満員でしたが、その中にも日本の応援に来てくれている人がいました。その少しの応援の声が聞こえるたびに頑張ろうという気持ちになりました。

私は、決勝の最終回を投げさせていただきました。マウンドに上がった時、今までにない思いでいっぱいになりました。本当に心から楽しいと思うことが出来、今マウンドに立っていられることを誇りに思いました。まだまだ未熟な私が抑えることができたのは2アウトまでで、悔しい反面、勝った時の嬉しさはとても大きいものでした。

今回、本当に最高のスタッフ、仲間に恵まれ、本当に良い経験ができました。大きな大会、緊張は当たり前。でも、その緊張を皆の声と共に力にして楽しむことが一番大切です。そしてここで出会う仲間は奇跡であり、一生続くものです。ワールドゲームズで学んだことを大学ソフトボールに伝えられるよう私自身も大きくなろうと思います。一日一日成長できるように頑張ります。

井上 愛（東北福祉大学3年生）

今回ワールドゲームズに出場し、これまでにない貴重な体験をすることができました。前回世界大会が行われたユニバーシアードも出場し、世界大会2回目ということで、日の丸を背負う自覚とプレッシャーが芽生えました。

世界という大舞台で力を発揮するには、技術はもちろんですが、ベストな状態で試合に入ることが重要だと思います。高雄は日本に比べ気温が高いということを知り、日本で暑さ対策をして現地入りしました。現地では体重を朝晩測り、同じ体重を保てるよう、トレーナーに食事の指導を受けました。これらを行うことで、試合に最高の状態へと持っていくことができました。外国選手は日本選手と違ってスタミナやパワーが上回っているため、私たち日本チームのコンディショニングは非常に大切でした。実際大会に入り、試合だけに集中することができたことが金メダルへと繋がっ

たように思います。もちろんコンディショニングだけでは、金メダルへ手は届きません。15人の選手+スタッフの力を出し切ってこそ結果が生まれます。私個人としては、ユニバーシアードで悔しい思いをしています。その気持ちを忘れることなく2年間過ごしてきました。そのため、今回の大会への思いはとても大きく、今までに感じたことのないプレッシャーを背負って試合に臨みました。今思えば、そのプレッシャーをも楽しみに変えられるぐらい、選手として成長していたように思います。

この大会が私を大きくさせてくれたように感じています。金メダルを獲得ことの厳しさ、またそこへ達したときの達成感を得ることができました。その喜びを分かち合うことができたスタッフ、15人の仲間と出会うことができた私は世界の幸せ者です。このような夢を持つ後輩たちへ夢を繋げることができ、とても嬉しく思います。自分の夢を信じ、思い続けることが、自分を進化させてくれるはず。夢は必ず努力すれば叶います。そう信じて頑張りたいと思います。

粕張 舞（東北福祉大学3年生）

今回初めての国際大会ということもあり、日本でプレイしている時よりもプレッシャーのかかったシーンが何回もあって、その中で自分の力を出しきることがすごく大変なことだと感じました。また、自分の役割に徹することの重要性を知りました。何よりひとつの目標に向かう15人の仲間と最高の舞台に立てたことを誇りに思います。また、選手だけでなくスタッフや関係各位のみなさまの支えがあったからこそ、試合に集中することができ、それが今大会の優勝（金メダル）につながったと思います。

外国の選手は日本の選手に比べて、体格がよく、パワーもあり、何においても日本人より優れていると思います。でも、日本の選手はパワーで外国の選手に敵わなくてもその分頭を使うことで補えたものがたくさんあったと感じます。

コンディショニングについては海外に行く前から調

整をしていて、ご飯の量を増やしたり、暑さ対策をして練習したり、日本でできるだけことはやり、現地に入りました。また、台湾は日本よりも遙かに気温が高く、体調管理が大変でしたが、水分をこまめに補給し、汗をかいたらすぐに着替えるといったことを徹底しました。試合直前は体を休めるために日陰に入り、疲れを残さないで試合に入れるようにしていました。

海外は本当に何が起きるかわからないので、臨機応変に動くことが大事だと思います。場面場面で自分が何をすべきなのかを考えてプレーできれば問題はないのですが、いつ何が起きるかわからないということもあり、予測するとういうことが大切になってくると思います。あとは戦うしかないなので自分を信じ、仲間を信じ戦えば結果は自然とついてくると思うので、結果にとらわれず、自分の力を存分にだしきってほしいです。

森田 涼（園田学園女子大学3年生）

2009ワールドゲームズ in 高雄大会に参加させていただき、2020年以降のBack Softballに大きく繋がり、そして結果が問われる大会であったと思います。その中で、このような貴重な経験ができたことに感謝しています。

試合の中で日本の応援に力をもらい、最後まで諦めずに戦い抜くことができました。完全アウェイの中でもいつもと変わらずパフォーマンスを発揮できたのもスタンドからの日本への声援もあったからだと思います。金メダルが取れたのも、その他にもたくさんの方のおかげであることを忘れてはいけなかったと思います。

大会では、日本ほどディフェンスが良いチームはないと感じました。日本らしいプレイをすれば、パワーのある外国チームには決して劣らないぐらい日本チームにも実力があると思いました。コンディショニングの調整は、日本とは暑さは変わりませんが、湿度が高く常に汗をかいている状態であったため水分補給は大切でした。細めに水分を取ることで、体調を崩すことなく、いつもと変わらないパフォーマンスを発揮することができまし

た。試合時間が日本では考えられない時間であったことで、ゲームとゲームの間にしっかりと休養できたことが、大きかったと思います。国際大会では、1つのミスを引きずった方が負けであり、過ぎ去った過去よりも、これからおこる今に集中することで、良いパフォーマンス、良い結果に繋がるのではないかと思います。

今ある自分の力を100%出せば、結果は自ずとついてくると思います。

2009ワールドゲームズは、最高のスタッフ、仲間と共に、世界一を掴みとったことは一生忘れられない私の財産になりました。最高の舞台に立たせていただいたこと感謝しています。ありがとうございました。

大村 英利佳（大阪国際大学3年生）

初めての国際試合参加ということもあり、まず現地に行った時点で圧倒されました。ですが、選考会の面接時に“自分を見失わないことが大切”と言われたことを常に頭におき、日本での自分自身をありのまま出そうという気持ちで大会に臨みました。大会は台湾で行われたため、台湾戦の時は全くと言っていいほど日本の応援はありませんでしたが、そんな中でも日本の戦い方を貫き通し優勝できたのは、スタッフの方や選手全員の団結力の強さの表れだという事を強く感じました。

外国チームを見て、まず体格の違いに驚きました。体が大きい分、力も日本人とは比べものになりません。打撃面では少し間違えば一発があるという怖さがありますが、守備面では日本チームよりもプレイは雑で、連携も日本より出来ていると感じるチームはありませんでした。

台湾はとにかく気温と湿度が高かったので、アップは出来るだけ短時間でいい、その中でしっかり体が動かせる状態にもっていきました。アップが終わってからは、暑さでバテないように休憩をとりながら調整しました。水分補給は、アップの前から試合が終わるまでこまめに行うよう心がけました。

何よりも一番大切なことは、やはり環境変化に

対して体調を崩さないことだと思います。体調を崩してしまえば、自分の実力を発揮することは出来ません。食事の面では、日本食を必ずもって行くことを薦めます。そして、時間があればしっかり体を休めることです。国際試合は自分自身が思っている以上に体力的にも精神的にも疲労がたまります。試合に対しては、最初に述べたように“自分を見失わないこと”が本当に大切になってくると思います。場所や環境が変わっても変わらずにいられるのは“自分”です。どんな状況になっても、自分を見失わずに頑張してほしいです。

田邊 奈那（環太平洋大学3年生）

今回“2009ワールドゲームズ高雄大会”に参加して、日本とは違う環境で戦うということを前提に様々なサポートをして頂きました。気温や会場のアウェイ感など細かい情報を事前に準備された上で合宿に臨み、選考された重みを感じました。暑い高雄でもいつも通りのパフォーマンスができるようにと、給水をこまめに摂取することなど体調面にも気を遣い、現地でも選手の仕事の削減のために、スタッフの方々に洗濯など、様々な面でサポートをしてもらいました。「選手を試合に集中させたい。」などという細かい気遣いや団結力・雰囲気は私たちにもひしひしと伝わり、勝ちへのこだわりがより一層増し、今回の結果に繋がったのだと思います。

優勝するまでにはたくさんの不安や焦り、世界を相手にするという大きなプレッシャーがありました。予選があつての決勝トーナメントということで、負けを悔やむよりも切り替えることで、次は勝つという気持ちをもてるようになり、精神的に余裕を持つことができました。合宿時の練習試合では、実業団・男子高校生に一度も勝つことができませんでした。しかし、実業団の方の技術や男子の球を体感できたことは貴重な経験となりました。そして同時に、優勝できたことで様々な方に恩返しができ、日本のソフトボールのレベルの高さを感じる事ができました。選考されて、このチームで私にできることは何かということを最優

先にして考えた時に、チームの雰囲気作りだと思いました。なぜなら、他チームの選手が集まり限られた時間の中で、普段は時間をかけて行うことを短期間でスムーズに行うために必要だと思いました。一人一人が組織の一員だという認識がチームを盛り上げ、勝ちに通じるのだということを感じました。

支えて下さった監督・コーチをはじめとするスタッフの皆さん、応援して下さいました方々に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ成長していく課程なので、この経験を力にしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

森 さやか（東京女子体育大学3年生）

このワールドゲームズ2009では、たくさんの人の支えのおかげで世界一を勝ち取ることが出来ました。選手の負担を軽減する為に影で動いて下さったスタッフの方々、大事な時期にも関わらず快く送り出して下さった自チームの方々、そして、応援して下さいました全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

外国チーム・外国選手との特別な違いはあまり感じませんでしたが、開催地が台湾ということで台湾チームの応援にスタンドに入りきらない程のファンが詰めかけたことが印象的でした。千人を超えているような大観衆の中でソフトボールが出来たことは、私にとって良い経験になりました。

台湾は高温多湿で日差しが強く、立っているだけで体力を消耗するという事を、1年生時に出場したタイ・バンコクで開催されたユニバーシアード競技大会で学びました。その経験を生かし、トレーナーの種田さんの指導のもと対策（ベンチで座る、首まわりを氷のうで冷やす、正しい水分補給）を徹底して行い出発しました。このように暑さ対策をしっかり行っていたので、ベストの状態で試合をすることが出来ました。

この大会を通して、ソフトボールはひとりでは出来ないという事を改めて思いました。チームが勝つために自分は何をしなければいけないかを考え、行動することが勝利へと繋がるということ

忘れないようにして欲しいと思いました。私は今年で卒業なので、後輩達に是非連覇をして欲しいと思います。

岡田 佳織（山梨学院大学2年生）

私は、今回ワールドゲームズ高雄大会に参加させていただき、たくさんの貴重な体験をすることができました。私自身、海外に行くことが初めてであり、国際大会も初めてで、なにもかも初めての体験でした。初の国際大会で試合にも出させていただき、金メダルをとれたことは本当に嬉しかったし、大変いい経験になりました。

台湾の高雄はとても暑く、アップをしているだけで息が苦しくなるくらいでした。水分補給をこまめにし、帽子を必ずかぶるようにしていました。試合の時間が日によってバラバラで、試合の合間が4時間くらい空くこともあり、朝早いゲームも夜遅いゲームもあったので、試合の合間は徹底して休養をとっていました。食事は、バイキング形式でとてもおいしかったです。事前から生水は飲まないようにといわれていたので、水洗いしてあるような野菜は気をつけて取りました。スタッフの方々の経験のおかげで、選手は試合に集中できたと思います。

大会の審判は、色々な国の方がやられていましたが、インコースのストライクゾーンは日本に比べて狭かったです。審判に日本語が通じないので、大変だった場面もありました。台湾や韓国といったアジア系のチームはプレイが日本と似ていてバントや足を使った場面が見られましたが、カナダやロシアの選手は体格もよく、打って点を取るスタイルで、0アウト1塁でも打ってくるが多かったのには驚きました。

私はこの大会で色々な事を体験し、学ぶことができて、本当に楽しかったです。大舞台で大声援の中試合をすることがあんなにワクワクすることだと思いませんでした。最高の緊張感の中で結果を出すことが難しいことも学びました。また、この大会のために本当に大勢の方が協力してくださっているということも知りました。金メダルをと

れたのは、その方々のおかげです。こんなに貴重な経験をさせてくださった方々に感謝して、この経験を活かしていきたいです。

浜渦 聡美（環太平洋大学2年生）

私にとって、初の世界大会は生涯忘れられないものとなるだろう。世界大会のイメージといえば、一般的にオリンピックの印象が強い。今まで、テレビ越しに見ていたあの頃とは違い、自分がその場に立てる喜びを感じながら、昨年の北京オリンピックに次ぐ金メダル獲得へ向け、一丸となって挑んだ。

世界における日本ソフトボールのレベルの高さはトップクラスである。走攻守にわたったバランスはもちろん、投打の活躍が目立った。やはり、パワーやスピードにおいては海外の選手に劣るかもしれない、しかし、チームワークや緻密なテクニックでは、日本が勝っていた。だからこそ、金メダルが獲得できたのだろう。

選考されて間もないチームであっても、意識の高い選手団であればチームワークを生む。それは勝つことに繋がった。コンディショニング・体調管理に関しては、国際大会においてベンチ入りするメンバーも限られているため、選手一人一人の責任や、自らに与えられた役割を理解してプレーしなければならない。そういった面で、トレーナーやコーチ陣の方々の支えがあったからこそ台湾特有の気候に対応することや、国際大会に対して事前に準備することが出来た。

今回、ワールドゲームズ2009に参加して、グラウンドでプレイする以上に「見て」「聞いて」得ることが多くあった。それは、私に足りないものを示しており、日々の生活や練習からソフトボールに対する意識・取り組みを変えることで自分自身に変化する。このように、過程を大事にすることで結果はおのずとついて来ると感じた。今後の役割として、自らのソフトボールレベルアップはもちろん、オリンピック競技復活を強く願うとともに次世代を担う子供たちへソフトボールの良さを伝えていきたいと考えている。

2009男子選抜チームNZ遠征

●日程

2月12日（水）：関西空港→オークランド→
ウエリントン

13日～15日：試合

16日（月）：ハットバレイ→ホークベイ

17日・18日：試合

19日（木）：ホークベイ→ノースハーバー

20日・21日：試合

22日（日）：オークランド→関西空港

●スタッフ

団 長：末 井 健 作（兵庫県立大学）
監 督：高 橋 伸 次（高崎経済大学）
コーチ：石 井 賀一郎（中京学院大学）
コーチ：高 橋 流 星（日本体育大学）
総 務：吉 末 和 也（園田学園女子大学）

●派遣選手

No.	守 備	氏 名	所 属	年
1	投 手	開 田 卓 人	大阪産業大学	3
2	〃	松 本 健	立命館大学	3
3	〃	坪 内 剛	福岡大学	3
4	〃	岩 田 守	中京学院大学	2
5	〃	望 月 孝 典	中京大学	1
6	〃	谷 川 智 紀	熊本学園大学	1
7	捕 手	北 澤 慶 介	早稲田大学	3
8	〃	大 井 宗	関東学園大学	3
9	〃	平 本 拓 朗	環太平洋大学	2
10	一塁手	伊 藤 皓 二	日本体育大学	2
11	〃	菅 野 達 也	環太平洋大学	2
12	二塁手	染 谷 良	国士舘大学	3
13	三塁手	薩 澤 彰 大	早稲田大学	3
14	遊撃手	松 岡 隼	国際武道大学	2
15	〃	久 我 貴 大	早稲田大学	2
16	〃	祝 弘 樹	日本体育大学	2
17	左翼手	豊 永 諒	日本体育大学	3
18	〃	川 口 拓 馬	関西大学	1
19	中堅手	鶴 山 大 輔	熊本学園大学	3

20 〃 亀 田 亮 治 日本体育大学 2

21 右翼手 川 崎 祐 介 中京学院大学 3

22 〃 吉 田 晴 貴 高崎経済大学 2

●試合結果

◆2月14日 17:55 Fraser Ball Park

HUTT VALLEY 1 0 0 0 0 : 1

大学日本代表 0 1 0 0 0 : 1

開田・谷川・岩田－北澤

日本は初回、先発の開田が一番バッターから三振を奪ったが、続く二番打者に投手強襲の内野安打を打たれた。続く三番打者を遊ゴロに抑えるも、二塁ベースカバーが遅れフィルダースチョイス。続く四番への3球目にパスボールとなり、1アウト二・三塁。3－2と打者を追い込むも高いバウンドの遊ゴロを打たれ、その間に1点を失った。

1回裏の日本の攻撃では、投手の緩急に翻弄され3連続三振。2回表は、開田が四球を与えるも、北澤の巧送球で盗塁を阻止した。2回裏の日本の攻撃は、1アウトから五番菅野がセンター前にヒットを放ち、六番川口の打席時にPB、そして川口が放った打球は投手ゴロだったが、投手が判断を誤りFCとなり1アウト一・三塁となった。七番北澤は三振に倒れたが、川口は盗塁を決め、2アウト二・三塁となった。続く八番開田が2ストライクまで追い込まれたが、3球目を投手がWP、同点に追いついた。3回からは1年生の谷川、3年生の岩田を投入し、相手打線は無失点に抑えた。打線は3回裏に1四球と2本のヒットを放つが、ホームで2度タッチアウトにされた。5イニングまでに5本のヒットを放つが、勝利することができなかった。

◆2月14日 17:55 Fraser Ball Park

HUTT VALLEY 1 0 0 0 0 : 1

大学日本代表 0 0 0 0 0 : 0

松本・望月・坪内－大井・平本

日本の先発、松本は二番打者にセンター前ヒットを打たれ、盗塁後、SSに痛烈なゴロを打たれ、SSが失策。ボールがレフトに転がる間に1失点を

失った。1回裏の日本の攻撃は、2つの四球などで、1アウト二・三塁になるものの、あと1本がでず無失点に抑えられた。3回から1年生の望月、5回には坪内を投入し、1回以降相手打線をヒット2本に押さえ無失点にした。一方、打撃は相手投手に10個の三振を奪われ、無安打に抑えられた。相手投手はスピード、ボールのキレがあり、幾度かチャンスはあったが得点することはできなかった。

◆2月15日 17:10 Fraser Ball Park

Wellington 0010070 : 8

大学日本代表 2000000 : 2

岩田・松本・谷川ー平本

本先の先発、岩田は初回2つの四死球で2アウト満塁になったが、闘志あふれる投球で無失点に抑えた。1回裏の日本の攻撃は、先頭の豊永がセンター前にヒットを放った。2アウト後、伊藤、菅野の連打で幸先良く2点を先制。3回表、日本のミスなどがからみ、犠牲フライで1点を失った。4回からは松本を投入し5回裏まで緊迫したゲームが続いた。日本は6回から1年生の谷川を投入するが、エラーや四死球、満塁本塁打なども浴び一挙に7失点。ゲームを決定づけられた。日本は、合計7本のヒットを打つも、相手投手に11奪三振も奪われ、初回以降得点をする事ができなかった。

◆2月15日 19:30 Fraser Ball Park

大学日本代表 10200 : 3

Wellington 02104 : 7

坪内・開田・望月ー大井・北澤

日本は初回、二番打者の北澤が左中間を破る二塁打を放った。2アウト後四番薩澤の打球はSSのエラーを誘い、1点を奪った。日本の先発坪内は、初回2連続三振を奪い上々な立ち上がりを見せたが、2回裏、四番打者にセンターへ特大のソロ本塁打を放たれた。その影響が続く打者にレフト前、死球、スクイズでこの回2失点を許してしまった。しかし、3回表1アウトから一番久我が出塁し、二番北澤の2ランホームランで逆転した。3回裏には開田を投入したが、四球後タイムリー2ベースを打たれ再び同点とされた。5回裏から1年生

の望月を投入したが、2本の3ベースと1本の2ベース、計5本の長短打を浴び一挙に4失点。日本打線はわずか3本のヒットに抑えられ、5回までに8個の三振を奪われた。時間の関係上5イニングで終了となり、7-3で敗戦してしまった。なかなか勝利の壁は厚く、1勝もできずにウエリントンを後にすることとなった。

◆2月17日 18:00 Akina park

大学日本代表 12230 : 8

Hawke's bay U-17 00000 : 0

坪内・松本ー北澤

日本は、次の遠征先、Hawke's Bay/Akina Parkに到着し、すぐに試合を行った。日本は初回、伊藤の二塁打で幸先良く先制。先発の坪内のやや制球に苦しみ四球を出してしまうが、無失点に抑えた。2回の日本の攻撃は、久我の犠牲フライや相手のミスなどもあり2点を奪った。3回には、菅野の2ランホームラン。4回には、伊藤、薩澤の連続タイムリーで3点を奪い試合を決定づけた。日本の守りは、坪内、松本のリレーで相手打線に1本もヒットを打たれることなく無失点に抑えた。5試合目にして、日本は初めての勝利。

◆2月17日 20:00 Akina park

大学日本代表 0000010 : 1

Fastpitch 001200x : 3

松本・岩田・谷川・望月・開田ー大井・平本・北澤

先攻の日本は、4回まで相手投手の変化球やスピードに翻弄されノーヒットに抑えられた。日本の先発は、松本。2連続三振を奪うも四球を出し四番打者にライト前に打たれたが、巧守備でランナーを殺し無失点に抑えた。2回から岩田を投入。3回にエラーで出塁され、九番打者にレフトオーバーの2ベースヒットを打たれ1点を奪われた。4回には谷川を投入。谷川も四球とヒット打たれ2失点。望月、開田とリレーし3点以降奪われなかったが、6回の伊藤のタイムリーのみに抑えられ、被安打3、11奪三振も奪われ敗戦した。相手の投手はすばらしく、ドロップとライズボールの速度のギャップがチェンジアップの使用するタイミングにはまってしまい、点を奪うことが難しか

った。

◆ 2月18日 18:00 Akina park

大学日本代表 0001012:4
Hawke's bay U-19 1000000:1

開田・坪内ー北澤

日本は初回、2アウト二・三塁のチャンスを作るも得点することができなかった。先発は、開田。いきなり先頭打者に二塁打を許してしまった。2アウトまで取ったが、四番打者にライト前のポテンヒットを許し先制された。日本の攻撃は、4回、1アウトから薩澤が2ベースヒットで出塁し、川崎のレフト前ヒットで同点に追いついた。5回は、豊永がヒットで出塁し、菅野のレフト前タイムリーで逆転した。5回裏から坪内にリリーフし、ヒットを1本も許さなかった。さらに日本は、7回、豊永、伊藤、菅野の連打で2点を追加した。終わってみれば、日本の投手は、相手打線を被安打3、

6奪三振に抑えた。

◆ 2月18日 20:00 Akina park

大学日本代表 1040000:5
ALL Hawke's bay 0010020:3

松本・岩田ー北澤

日本は初回、一番久我がレフト前にヒットを放ち出塁し、続く打者の打球が相手のミスを誘い1点を先制。日本の先発は、松本。ストレート、ライズ、チェンジアップを巧みに使用し、3回まで相手打線を完璧に抑えた。3回、九番川崎は相手のエラーで出塁し、久我の安打、北澤の3ランホームラン。なおも、豊永の安打、菅野の2ベースヒットで1点を追加し、この回4得点。先発の松本は、4回に四球とミスが重なり1失点、6回にも、守りのミスなどで2失点してしまった。しかし、7回、岩田にリリーフし、3人をきっちり抑えてゲームセットとなった。

N Z 遠征を現地で世話して

岡田 恭助（ウェリントン市在住、NZ協会審判員）

関西大学の吉末さんが、お仕事の御都合上参加出来ず、代役で通訳を務めさせていただきましたが、みなさんと一緒にとても素晴らしい9日間を過ごさせていただき有難う御座いました。みなさん、ご無事にご帰国なさったことと存じます。

よく「楽しい時を過ごしている時ほど、時間が経つのが早く感じられるもの」と、いわれますが、正にその通りで「あっ」と言う間の9日間だったように感じております。「えっ、もう終わり？」と、やや寂しい感じさえしてしまいましたが、これを書いている今頃、みなさんは、息をつく暇もなく来たるシーズンへの準備に向け、お忙しいことと存じます。

よく今回のような遠征があった時、「この遠征で得たものをどうやって次に生かすかで、この遠征が成功であったか否か、決まってくる」と、言われます。確かに、それはその通りなのですが、それよりも、今回、通訳を務めさせていただきました

ら「感謝すること、出来ること」が如何に素晴らしいことか再認識させていただけたことが一番の収穫だったと思っております。

スムーズに予定通りに日程をこなせるよう尽力なされ、変更余儀なくなった時には、手際よく対応なされた末井団長、選手のみなさんに均等に試合出場するよう御配慮いただき乍らこれといった事故や怪我もなく遠征を終了すると同時に結果を出すという状況のもと、試合の指揮を執ってくださった高橋監督、随所でご指導いただいた石井・高橋両コーチ。また、「それだけで写真集が一冊出来るのではないか」と思われるほどビデオや写真撮影の方にも高橋コーチは、頑張ってくださいました。また、この遠征のために早くから吉末さんが計画・準備・交渉・予約など色々なさってくださったことは、みなさん、御承知のことと思います。四日間という短い期間でしたがホスト・ファミリーとも選手のみなさん、それぞれ色々な思

い出があることと思います。ホークス・ベーでもマーク・カーターさんを始め、最後の朝バスでネーピアまで送ってくれた相手チームの監督さんや料理のおばさんなど色々な方にお世話になりました。

この遠征のため、みなさんのため、色々な方々にお世話になりました。しかし一番感謝したいのは、首脳陣を含めたこのチームのみなさんです。

本当に素晴らしい9日間をどうも有り難う。

この遠征のために編成されたチームであり、もう一同に会することは多分ないでしょう。しかし、四年後、八年後に、全日本のメンバーとして世界選手権に出場し、「あの遠征が切っ掛けになったなあ」「今思えば、あの時から伸びたなあ」と、思っただけの方がいることを祈りながら終わらせていただきます。

2009第4回ニュージーランド遠征報告 —全日本学連男子選抜チーム—

学生、学連にとっての海外遠征の意義

団長・総務 末井健作（兵庫県立大学）

全日本大学連盟は2009年2月13日から22日まで4回目の男子選抜ニュージーランド遠征を行いました。本学連としての海外遠征は、女子選抜チームがブラジル遠征（1992年8月）してソフトボールの普及活動を行ったことから始まりました。それ以後、本学連は男女とも国際大会及び親善試合を含めて海外での活動を一つの柱として運営してきました。海外遠征から得る多くの成果は、着実に加盟大学へ浸透し、さらなる飛躍への動機付けとして効果を上げていると言えます。

今回のニュージーランド遠征の最初の訪問地であるウェリントンでの歓迎会では、地元デビット・オグデン市長をはじめ、平古葉日本大使館公使、三野日本情報文化センター長が来賓として出席され歓待を受けました。私たちは翌日からの親善試合に最善を尽くし、大いに大学チームの力を発揮することをお互いに誓いました。今回は、ウェリントン、ハットシティにおいてU19のクラブチームを中心に親善試合を行いました。残念ながらオークランドでのディーンシック大会に出場することができませんでしたが、レベルの高い大会を観戦することができました。特に、学生はホームステイ、クラブハウスの宿泊及び空軍基地での宿泊等を経験することができたこと、そして多くのニ

ュージーランドの人々との交流を深めることができたことは、今後の学生生活に素晴らしい影響を及ぼすものと期待できます。

最後に、素晴らしい遠征を終えることができたことは、高橋ヘッドコーチ、石井、高橋両コーチが協力し選手の個々に応じた指導でチームを把握して試合に望むことができたこと、その期待に各選手がそれぞれの役割を認識し力を発揮したこと、それらのことが相俟ったからこそと言えます。また、ご支援くださった加盟大学を始めソフトボール関係者及び保護者各位に心からお礼申し上げ報告といたします。

転機を迎えたNZ遠征

監督 高橋伸次（高崎経済大学）

1998年からスタートしたこのNZ遠征も4回目を数え、私自身、これまですべての遠征に携わってきました。ここNZは、何度訪れてもその土地土地の風景が変わることなく、せわしなく流れる日本とはまったく異なる時間のありようを感じます。人びとの暮らしや、またその暮らしに溶けこんでいるスポーツへの取り組みも実にシンプルで、飾り気の多い私たちの生き方にどれほどの価値があるのだろうかといつも思い知らされます。慣れない異文化生活での不安も、こうした空気を吸いこ

んでいくうちに、またホスピタリティ溢れる温かい人びととの触れ合いを通じて和んでいきました。

各地でお世話くださいました連盟役員やボランティアのみなさん、ホストファミリー、そして何よりも全行程を通してチームに同行し、さまざまな雑務やトラブル処理に走り回ってくれたジョー岡田さんに心より感謝申し上げます。

さて、今回の遠征には20名の募集に44名もの応募があり、これまでになく学生の国際試合への関心の高さを窺うことができました。その背景には、学生チームで参加した「2007アメリカンチャレンジシリーズ」や、また現在の男子日本代表選手22名中1名が現役学生、12名がかつて大学に籍を置いていた選手であったということがあり、もはやその予備的存在である大学生にとっては、国際試合はそう遠くないものとして捉えられるようになったということかも知れません。そのためか、今回選抜された精鋭22名に外国人選手に対して臆するところはなく、パワーでは劣るものの日本人ならではの俊敏さと技術力の高さをいかんなく発揮してくれました。そして何より、みんな試合に出場することにひたすら意欲的でした。限られた試合数の中で、できるだけその思いに応えるやりくりには大変苦勞しましたが、そういった状況やこちらの意図をよく理解し最後まで協力的に行動してくれたメンバーひとり一人にはとても感謝しています。結果だけを追求できたならば、もっと良い戦績を残せるだけの逞しいチームであったと思っています。

そもそもこの遠征は、大学男子にはほとんど機会のなかった国際経験を通して技術の向上や人格の陶冶を図ることを目的とし、競技者として、また将来の指導者としての資質に刺激を与えようというものです。しかし今回の遠征で感じたことは、いまや大学選手の海外に向けられる目は、そこで「多くを経験しよう」とする視点から、そこで「どう戦うのか」といった視点へとシフトしているのではないかということです。実際に、これまでこの遠征の参加者から現代表3名を含む6名もの日本代表選手を輩出してきたということを考えても、このNZ遠征は、新しい観点のもとで次の段

階に進まなければならない転機を迎えているのかも知れません。

終わりに、末井団長や石井・高橋両コーチとの11日間は、これからの大学ソフトや指導者としてのあり方を考える上でかけがえのない時間となり、私自身の転機ともなりました。この邂逅に感謝するとともに、ご支援くださいました大学連盟の関係各位に衷心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今までに経験しなかった海外遠征に感謝

コーチ 石井賀一郎（中京学院大学）

大学選抜チームとして、海外遠征を経験させていただいたのは、昨年のUSAチャレンジカップについて2回目であり、先ずは貴重な経験をさせていただいたことに対して皆様方に御礼を申し上げます。

昨年は、一つの大会への参加ということで勝つことを意識したチーム編成でもあり、なかなか全員が平等に経験をしてもらうこともできなかったのが現状でしたが、今回のNZ遠征については大学選抜として教育的な観点から、参加した選手が試合だけでなく、ソフトボールを通じて他国の文化に触れ、より多くの事を感じ、学ぶことで成長していただくことが目的であり、私自身も今まで経験をしなかった遠征でもあり、沢山のことを学ばせていただきました。

今回、日本ソフトボール協会との繋がりも多かったレスターさんとケビンさんのお墓参りもできたことは有意義でした。私にとって個人的にも大変お世話になったお二人でしたので、お墓での黙とう時には生前でのことが脳裏に浮かんできて胸が詰まる思いでした。

選手の皆さんは初めての海外が殆どで何もかも経験することが新鮮であったと思います。特にホームステイの経験は、大きな財産として日本に持ち帰ることが出来たのではないかと感じました。試合に関しては、高橋監督も大変頭を悩まされた末、最終的にすばらしい結果で終わられたことで

報われたのではないかと思います。親善試合では、勝つことだけを目的とした試合ではなく勝つためにチームとして何が必要なのか、選手一人ひとりが役割を全うしてチームが一つになった時こそ素晴らしいチーム（勝てるチーム）になれると感じてくれているならば、今回の遠征は大成功だったと思います。

最後に、末井団長はじめ、高橋監督、高橋コーチ並びに現地とのやり取りでご苦勞をされた吉末先生、森田先生には深く感謝を申し上げます。

NZ遠征で新たに得たこと

コーチ 高橋流星（日本体育大学）

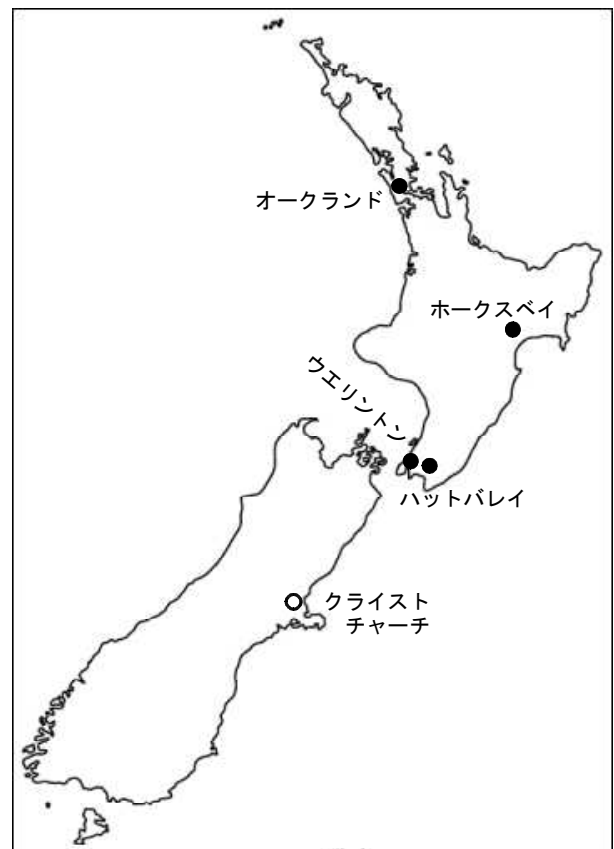
今回、大学男子選抜チームのコーチとして遠征に同行させて頂きました。私にとっては4度目のNZ遠征だったのですが、新たに得たことが2つ出来ました。

まず、一つ目に、語学の重要性です。語学があれば、多くの外国人選手や地域の方々とお話ができ、ソフトボールの指導方法や練習方法、または地域での取り組み方などいろいろなことを得る可能性があったと感じ、もう少し勉強しておけばよかったと思いました。

次に、二つ目は、ソフトボールを「楽しむ」ことの大切さ・必要性です。クラブチームの大会を見学させて頂いたのですが、大人たちが試合をしているグラウンドの横で子どもたちの大会が行われていました。なかには親子で大会に参加し、試合の合間に子どもの試合を応援に行ったり、家族みんなで親子の試合を観戦したりしていました。特に私が感じたのは、勝利ばかり求めているのではなく、ソフトボールというスポーツを心から楽しんでいる姿でした。このことは、今の私自身に足りないことであり、学生たちにも勝利ばかり求めているような気がしました。

最後に、今回得たことの他にも多くのことを学びましたが、今回のような環境（遠征）を与えてくださった全日本大学ソフトボール連盟の各先生方をはじめ、遠征のマネージメントをしてくださ

った先生方、また学生諸君に本当に感謝しています。



ニュージーランド遠征を経て

主将 北澤慶介（早稲田大学3年・捕手）

初海外。初国際試合。初ホームステイ・・・etc。私にとって今回のニュージーランド遠征は初物尽くでした。このような貴重な経験から学んだことを振り返りながら綴っていきたいと思います。

私は今回の遠征に主将として参加させていただきました。主将はチームのまとめ役と首脳陣と選手のパイプ役の二役をこなさなければなりません。しかし、今回のようなたくさんの異なるチームの選手、言ってみれば異文化の人たちで作った即席の選抜チームで首脳陣や選手と連携を取りチームをまとめていけるのかとても不安でした。しかし、いざ遠征が始まると団長や監督・コーチがとても私たちに気を配って下さり、とてもスムーズにコミュニケーションを取ることができました。チー

ムメイトも最初は互いに遠慮し合って一つになりきれませんでした。様々な行事や試合を重ねるたびに時には些細なことで笑い合い、時には意見をぶつけ合い、勝利という共通の目標に向かってチームがまとまっていくように感じました。チームがまとまっていく実感が大きくなるにつれ、それに比例して前半の四試合で一勝もできなかったのが、後半の四試合では三勝と勝利という見える形となって成果が現れました。チームワークは大切とよく言いますが、そのことを身をもって体感でき、チームが一つになる大切さを改めて学ぶことができた遠征でした。

最後になりますが、末井団長をはじめ、高橋監督、石井コーチ、高橋コーチ、裏方で支えて下さった森田さん、ホストファミリー、この遠征に関わった全ての方々、このようなすばらしい経験をさせていただいて本当にありがとうございます。この経験を活かし、大学男子ソフトボール界をより良いものにしていきたいと思います。

ニュージーランド遠征について

開田卓人（大阪産業大学3年・投手）

ニュージーランドに10日間という長い間遠征に行って、自分なりに感じたことは、チームワークが本当に大切だということです。一度も合同練習などがなく、オリエンテーションのみで、空港で初めて顔合わせで「本当にどうなるのかと」自分では思っていました。現地についてさっそく試合がありましたが、初戦は勝っていた試合だと思います。しかし勝てなかったのは、コミュニケーション不足であったからだと思います。次第に仲良くなって、コミュニケーションが取れ始め、初めて試合に勝つことができたと思います。

また、ニュージーランドのレベルの高いバッターとの駆け引きや、自分なりのピッチングをするためにはどうすればいいのか、監督やコーチの皆さんにいろいろアドバイスを受けながら考えることの大切さも学びました。この遠征で、自分が何かしら学んで、成長ができ、とてもいい経験がで

きた遠征になり、満足しています。

異文化に触れて

松本 健（立命館大学3年・投手）

今回の全日本学連男子ニュージーランド遠征は、私にとって忘れることのできない有意義な遠征になりました。初めての海外遠征ということもあり不安なことばかりでしたが、今振り返ってみると新鮮な瞬間の連続で、自分の人生観、ソフトボール観を大きく変える、良いきっかけになりました。

私は、実際にニュージーランドの地でソフトボールをプレイすることによって、日本とニュージーランドのソフトボールに対する考え方の違いについて徐々に深く考えさせられていきました。日本では試合開始の一時間前からランニングを開始し、キャッチボール、ノック、ロングティーなどを行ってから試合に入るのに対して、ニュージーランドは試合開始の十五分前に集まってキャッチボールだけをして試合に入ります。私は当初、このスタイルを受け入れることができませんでした。試合を積み重ねていくうちに少しずつ理解できるようになりました。この異なるスタイルは、どちらが優れている、劣っているということではなく、お互いのプレイスタイル、環境、国民性にどれだけ即しているものであるかということが分かったからです。それがお互いにとってそれが正しいスタイルであり、最も適しているスタイルなのです。

このように、全日本学連男子ニュージーランド遠征で経験したこと、感じたことを今後のソフトボール人生に活かし、自分自身ステップアップするための材料にしていきたいと考えています。

ニュージーランド遠征を終えて

坪内 剛（福岡大学3年・投手）

ニュージーランドへ遠征に行きさまざまなことを経験することができました。初めて海外のチー

ムと試合をし、体格やパワーではレベルの違いを感じましたが、技術の面では日本も劣っていないと感じました。自分自身もマウンドが砂ではなくラバーだったこともあり最初はかなり苦戦しましたが、徐々にいい球が投げられるようになりました。そして、自分の自信のあるボールでバッターを抑えることができ、とてもよかったと思います。また、自分に対する課題も多く見つけることができ、今後レベルアップしていくために改善していきたいと思いました。試合以外ではホームステイがとても不安でしたが、ホストファミリーの方がとてもいい人で、言葉が通じないなかでも楽しい時間を過ごすことができました。

この遠征を通じてたくさんの仲間もでき、今まで経験したことのないことがたくさんできました。この貴重な経験を活かして残りの大学生活や卒業後も頑張りたいと思います。

緊張したホームステイ、 でも楽しかった全日本大学チーム

岩田 守(中京学院大学2年・投手)

今回、全日本大学のメンバーに選んでいただき本当にありがとうございました。

私が一番不安であったことはホームステイで、初日はホストファミリーとも一言も話すことが出来ない状況でした。しかし、2日目くらいから少しずつ慣れてきて楽しくなってきた所ところでお別れとなり、寂しい気持ちが込み上げてきました。

親善試合では試合前はかなり緊張していましたが、マウンドに上がれば緊張もとれ、いつも以上に調子がよくて楽しく試合をすることができました。その他、見学や観光で色んな事を体験させていただいたことで思い出の多い遠征になりました。

これから、この遠征で学んだことを活かしながら大学生活やソフトボールで活躍できるように頑張ります。

最後に、団長はじめスタッフの皆様方、このようなチャンスを与えていただきまして本当にありがとうございました。

遠征の収穫

望月孝典(中京大学1年・投手)

このニュージーランド遠征では相手の投手からたくさんの技術を学ぶことができました。自分の投げる球に何が足りないのかということも分かり、これからの練習の課題もできいい勉強になったと思います。

またソフトボールだけでなく、ニュージーランドの文化や歴史を学ぶことができました。特に、ホームステイを通じてニュージーランドの生活を楽しむことができました。このような経験はなかなか出来ないなのでこの経験をいかしてこれからも頑張りたいです。

最後に、ご協力頂いたニュージーランドの方々や監督、コーチ、全日本大学ソフトボール連盟の方々に感謝しています。またこのような機会があれば参加したいです。

ニュージーランド遠征

大井 宗(関東学園大学3年・捕手)

今回2月11日から22日までの11日間ニュージーランドに行ってきました。まず、行ってみて思ったことはソフトボールの日本との違いの多さに驚きました。ニュージーランドでは小学生の子供たちがイエローボールを使っていました。確かに小学生が使っているイエローボールは少し柔らかくて小さいものの、あとはまったく同じでした。日本では高校までゴムボールですが、ニュージーランドではソフトボールを始めたときからイエローボールなのです。その違いにはすごく驚きました。こんなに小さい時からイエローボールを使っていれば強くなるなと思いました。

そして、ニュージーランドに行って得たものもありました。他の大学の人たちと交流する中で、いろいろソフトボールの話をしましたが、自分の意識の低さを感じました。今回遠征をこれからのソフトボールにいかしていきたいと思います。またこのような機会があれば参加してみたいと思い

ます。

ニュージーランド遠征に参加して

平本拓朗（環太平洋大学2年・捕手）

今回、ニュージーランド遠征に参加することができ嬉しく思い、また深く感謝しております。海外での試合は初めての経験であり、緊張と不安はありましたが、多くのことを学ぶことができました。

私が一番感じたことは、彼らの試合に入った時の気迫や闘争心です。試合前後はとても気安く声を掛けてきたり、笑顔も見られましたが、試合になってからは目つきが変わり、そこが強さの秘訣だと感じました。また、学生の選抜チームでプレイすることができ、他のチームの選手と話をし、勉強にもなりました。異国の地でソフトボールを通して、文化や習慣の違う生活をするのができたことも一人の人間として貴重な経験になりました。

今回の遠征での経験を生かして今後のソフトボール人生、大学生活が今まで以上に良いものになるように努力していきたいと思います。最後にご迷惑をお掛けしたこともありましたが、参加させていただきありがとうございました。

NZ遠征を振り返って

伊藤皓二（日本体育大学2年・一塁手）

2月12日からの10日間、ニュージーランドに大学選抜として遠征に参加させていただきました。海外遠征は高校の時にジュニアの大会で行ったことがあったので何の不安もありませんでした。今回はホームステイや米軍基地に泊まるなど普段体験出来ないことばかりでいろいろと頭を悩まされました。試合ではチームの4番として使ってもらい、とても良い経験になりました。しかし、ニュージーランドのソフトボールはレベルが高くて簡単には打てませんでした。ニュージーランドのバッタ

ーを中心によく見ていたのですが、みんなすごい人達ばかりで自分はまだまだと痛感しました。他の大学の人とソフトのことなどいろんな話をしたのですが、みんな色々な考えを持っていてトレーニング方法など参考にさせていただきました。

このニュージーランド遠征で学んだことは多く、自分の力になったことは間違いありません。これを自分の大学生活、そしてこれからの人生にも役立てるつもりです。

New Zealandにて

染谷 良（国士舘大学3年・二塁手）

私は、この度のNew Zealand遠征にて様々なことを学びました。New Zealandでは日本語がまったく通じず、また、私は英語が苦手なためにホームステイのときにはかなり苦労しました。どのようにコミュニケーションをとればよいか、どのようにすれば気持ちが伝わるとかです。しかし、ホストファミリーの方達は、私の言っていることを理解しようとしてくれ、また家族のように接してくれ、とても嬉しく思いました。

試合では、他の大学の人達とのチームを結成してお互い知らないところが多いはずなのにみんなが力を合わせて試合できました。私みたいな選手がこのような遠征に参加でき他の大学の人達とプレイできとても良かったですし、地方の人達といろいろ友達ことができました。この経験を忘れずにこれからの人生に生かせたらと思います。

ニュージーランド体験記

薩澤彰大（早稲田大学3年・三塁手）

自分がソフトボールを始めて3年。初めての海外試合。私はソフトボール界の事をよく知りませんが、日本のソフトボール競技レベルは高いと思っており、全日本大学選抜として意気揚々ニュージーランドに乗り込みました。しかし、結果は日本選抜の負け越し。ニュージーランドの投手には

信じられないくらい速い球を投げる選手がいました。「手も足も出なかった」というわけではないのですが……ニュージーランドで経験した試合はどれも僅差の試合で常に1点勝負でした。

全試合がとても緊迫した中での試合で自分の競技力向上はもちろん、チームとしての一体感も感じられ、たった2週間という短い期間の遠征でしたが、他チームの選手とも仲良くなれ、そして何より世界のソフトボールを知ることができたことが自分にとって大変なプラスとなりました。

この経験を活かし、大学生活最後となるインカレに華を咲かせたいです。団長をはじめ監督、コーチ、スタッフの人達には感謝の気持ちで一杯です。

人生初の海外遠征

祝 弘樹（日本体育大学2年・遊撃手）

私は今回、ニュージーランド遠征に行かせていただきいろんなことが勉強できました。一つは、ニュージーランドでは、スケジュール通り進まない事があり、その時の「適応力」が大切であるということです。日本の生活ではめったに無いことなどで、これからの社会に出た時になど役立つ事が経験できてとてもよかったと思います。

プレイ面では全国各地から集まった選手達と勝利する為に全力で取り組み、互いにアドバイスや声をかけながらでき、自分は得るものばかりでした。今回、ニュージーランドに行ったことで自分に足りないものやこうしなければいけない点などが見つけれられたこともよかったと思います。今後、このことを活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、この遠征に関わってくださった人達にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。

感謝・学び

久我貴大（早稲田大学2年・遊撃手）

日本が真冬の季節ということは、ニュージーラ

ンドは真夏なはずですが、しかし、いざニュージーランドに到着してみると雨がぱらつき肌寒い気候でした。また、私たちが滞在した期間で真夏な快晴の気候であった日は、11日間で2、3日くらいであったかと思います。太陽がサンサンとした中で海に入れなかったことだけ悔やまれます。海水が冷た過ぎました。現地の人話を聞くと前日までは晴れていてとても暑い日が続いていたとのことでした。

本題の試合では、ニュージーランドのソフトボールからいろんなことを学ぶことができました。また、首脳陣の方々をはじめ、今回チームメイトとなった他大学の選手たちからもあらゆる視点からアドバイスをもらうことができたことも自分への大きな収穫となりました。

最後になりましたが、今回このような素晴らしいニュージーランド遠征ができたのも、大学連盟の方々をはじめ、帯同してくださったスタッフの方々、関係者の多大なるご支援があったからこそであります。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。これからは、今回の遠征に参加できたことを誇りに思い、責任感を持ってソフトボールに取り組んでいきたいと思っています。

かけがえのない異文化体験

松岡 隼（国際武道大学2年・遊撃手）

今回のNZ遠征は、私にとって初めての体験が多くありました。当たり前のことですが、コミュニケーションは全て英語です。私は今まで海外に行ったことがないため、ホームステイ先の家族の人たちとコミュニケーションをうまくとれるかとても不安でした。しかし、私がジェスチャーなどを使って一生懸命伝えようとすれば、ホームステイ先の人たちも一生懸命伝えようとしてくれるのでうまくコミュニケーションをとれました。気持ちが伝わったときの感動は、言葉にできない喜びがありました。ホームステイ先の人たちは、とても親切で明るく優しく接してくれたのでとても良い

NZ遠征になりました。今回のNZ遠征で、是非、もう一度ニュージーランドに行きたいと感じました。

ニュージーランド遠征を終えて

豊永 諒（日本体育大学3年・左翼手）

このたび、大学日本代表としてニュージーランド遠征を終え、私が経験できたことは、普段日本で生活している中では体験することが出来ないものでした。

特にホームステイでは、ニュージーランドの食文化、生活スタイルなどに触れることができ、日本との違いに戸惑うこともありましたが貴重な経験ができたと思います。遠征中には観光をする時間もありニュージーランドの歴史、文化を学ぶことができたこともよかったと思います。

ソフトボールの試合では、試合の始まり方、ストライクゾーンの広さなど、多くの日本との違いに選手全員が戸惑いましたが、遠征後半にはみんな慣れ、相手チームとよい試合ができたと思います。また遠征中帯同してくださった岡田さんが審判をされている方で、ニュージーランドの審判が習うルールと日本のルールとが違うことを直接聞くことができたこともよかったと思います。

最後に、多くの方々の協力があったから無事に遠征を終えることができたと思います。この経験をこれからのソフトボール人生に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

ソフトボールで繋がる絆

川口拓馬（関西大学1年・左翼手）

私は今年の2月12日から10日間にわたり、全日本大学選抜としてニュージーランド遠征に参加しました。私にとってニュージーランドに足を運ぶのは2回目で、U19として参加した1回目は自分の力を十分に発揮することが出来ず悔しい思いをしました。今回は前回のリベンジのチャンスだと思い、結果を残そうと意気込んでいました。しか

し、現実はその甘くはありませんでした。野手は1回生として唯一参加させてもらったのですが、先輩達の技術の高さにまず驚かされました。そして半年前に世界ジュニアで戦った選手達が格段に実力をアップさせていたことに愕然となりました。この遠征を通して、私は自分の実力不足、日々の練習の甘さを再確認させられました。結果もノーヒットで終わり1年前と何も変わってなかったことが悔しくて仕方ありませんでした。

しかし今回の遠征ではソフトボール以外のことをたくさん学ぶことが出来ました。初めて経験するホームステイでは、言葉が分からなくてもコミュニケーションの取り方はいくらかもあることを知りました。現地の方の温かい気持ちは、ソフトボールというもので私達と繋がっているんだと感じました。

私は今回の経験の全てを今後のソフトボール人生に生かしていかなければならないと感じました。そして大学在学中に、またこのような海外遠征のチャンスがあれば絶対に参加したいと思っています。最後に、今回のニュージーランド遠征では末井先生を始めとする遠征に携わって下さった全ての方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。今後の大学ソフトボール界を、先頭切って引っ張って行く存在になるため、今後とも頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

ニュージーランド遠征で学んだこと

鶴山大輔（熊本学園大学3年・中堅手）

今回、ニュージーランド遠征を通じて、様々なことを体験し、学ぶことができました。ソフトボールだけに限らず、ニュージーランドの自然や文化にも触れたりして、自分にとってとても貴重で有意義な遠征となりました。

中でも、ソフトボールのレベルの高さには驚きました。パワーがありスピードもあり、一人ひとりの運動能力が非常に高いと感じました。試合では自分の力が全く通用せず悔しい思いもしました

が、課題がたくさん見つかり、自分なりに収穫があったのでよかったです。この経験を自分自身のレベルアップにも活かしたいと思いますし、チームのレベルアップにも活かせると思っています。

最後に、ニュージーランド遠征において、引率や日程の調節、ホームステイなど色んな方々の支援や協力があったから、本当に素晴らしい体験をさせてもらうことができたと思います。このような事に感謝の気持ちを忘れず、これからもソフトボールを頑張っていきたいです。

楽しかった海外遠征

亀田亮治（日本体育大学2年・中堅手）

私は、このニュージーランド遠征でたくさんのことを学びました。私にとって初めての海外だったので、言葉や文化の違いに驚かされることばかりでした。英語をあまり話せなかったのですが、ホームステイを続けていくうちに、ホストファミリーともコミュニケーションをとれるようになりました。

ソフトボールではニュージーランドの選手は、日本人に比べて身長も高く、体格もよくて、パワーの違いに驚きました。また、ピッチャーも120キロ近いボールを投げる人がたくさんいて、ニュージーランドのレベルの高さを実感しました。しかし、その中でも守備力や、バント、コントロールでは、日本は世界に通用するのだと感じました。

この遠征で世界のレベルを知り、その中で通用するものもを見つけることができました。その通用するものをさらに向上させていきたいです。

ニュージーランド遠征で学んだ事

川崎祐介（中京学院大学3年・右翼手）

私にとって、今回の海外遠征は初めてであり、先輩たちからは海外のチーム等色んな事は話には聞いていましたが、実際ニュージーランドのチームと対戦してみてもはじめて、自分の力不足などこ

ろも見つけられたことが収穫でした。また、末井団長はじめ監督やコーチの方々からも数々のアドバイスを頂いたことや他大学の選手達との交流を深められソフトボールに関して、自分自身の視野の狭さを痛感したことなど、沢山の勉強をさせていただいたことを感謝しています。

その他、初めてのホームステイを経験して、ホストファミリーの方々との交流や伝統的な文化を学ぶ為の見学等も貴重な体験でした。

この遠征で学んだことをこれからの生活に活かして生きたいと考えています。貴重な経験をさせていただいたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

ソフトボールを通じた理解

吉田晴貴（高崎経済大学2年・右翼手）

私は、2009年春に行われたニュージーランド遠征に参加してきました。全国の大学から選手が集まり、20名程度でチームは構成されました。私は周りとのコミュニケーションをとることに一番力を入れました。また、ホームステイなど現地の人と関わることも多くコミュニケーション能力が問われる場面が多くありました。私たちが取り組んでいるスポーツというものがその媒体として非常に役に立ちました。たとえ文化が同じでなくても一緒にキャッチボールや試合をすることによって一気にお互いの距離を縮めることができると肌で感じました。ニュージーランドのソフトボールは日本よりレベルが高く、試合は負け越してしまいましたが、今回の遠征は私の人生の中でも貴重な経験になりました。しかし、ソフトボールはまだまだメジャーではなくオリンピックでも廃止になるなど厳しい対応がされているのが現状なので、これからもっとソフトボールやスポーツが発展してこのような遠征が多くなって欲しいと思いました。最後に、今回の遠征に参加するにあたってご協力して下さった関係者の方々ありがとうございました。

（注）派遣選手の学年は、遠征時である。

【研究紹介】

ソフトボールの投球動作（オーバースロー）における 手の大きさが球速とコントロールに及ぼす影響について

木 田 京 子（園田学園女子大学）

【目的】

筆者は、女子ソフトボールの指導をする中で、「投げる」（上手投げ）動作の指導の難しさを感じてきた。これまでの指導における経験だけでなく、科学的な観点で「投げる」動作の検証ができれば、形態的に不利と考えられる選手の「投げる」動作のより良い指導方法が見いだせると考えられる。下奥は「手の大きい人、指の長い人はスナップが効いて早い球を投げられる」と述べており、また「基本的なボールの握り方は人差し指と中指、親指の3本でボールを支える」と指摘している¹⁾。しかし、発達段階の子どもや手の小さな女子選手等は、指導書等で記されている基本的な握り方でボールを握ることが困難である。このことについて、下奥は「指の短い人ならばボールを握るのが困難であり、しかも投げにくいから、（中略）女子の場合は、指の短い人は4本か5本で持って投げるが、5本指で持つ場合はボールがゆるくなる」と述べている¹⁾。実際に5本指で握らなければならない選手がたくさんいるにもかかわらず、指導書や先行研究では、5本指の握り方の指導が示されていない。ましてや、手の形態及び機能と投球動作との関係を調査した研究、また、指別に役割を述べている先行研究もみられない。このことを踏まえ、本研究では、大学ソフトボール女子選手の手の形態及び機能が球速やコントロールに及ぼす影響を検証し、今後のソフトボールの指導に役立つ基礎的知見を得ることを目的とした。

【方法】

1. 被験者

被験者はS女子大学ソフトボール部に所属する

選手で、実験1（球速）の被験者は11名、実験2（コントロール）の被験者は29名であった。また、各被験者については握り方を調査し、主に3本の指を中心にボールを握る選手（三本握り）と5本の指全部でボールを握る選手（五本握り）とに分類した。

2. 形態及び機能測定

2-1. 手の大きさの計測

手の形態は、SSK株式会社の協力により三次元計測器p-MoAi（プレックスモアイ株式会社プレックス製）を用いて計測し、手長および各指長の定義は図1に示した²⁾。

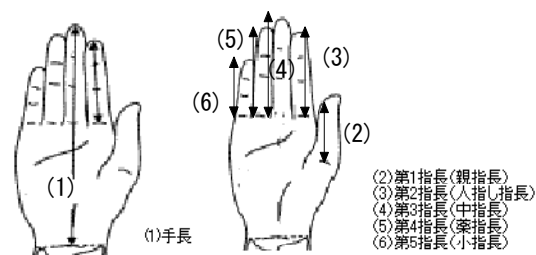


図1. 手の測定項目

2-2. 握力測定

デジタル握力計（グリップ-D、竹井機器工業株式会社製）を使用し、投球する利き手の握力を測定した。測定は2回ずつ行い、良い方の結果を採用した。

2-3. 指力（指圧）測定

ピンチメーター（日本メディックス社製）を使用し、利き手の親指と各指（4指）のつまむ力（指圧）の測定を行った。

2-4. 球速測定

投球距離は13.11mとし、被験者の前方に的（1.7m×1.4mのネット）を置き、12インチ（周囲30.48cm±0.32cm・重さ187.8±10.63g）³⁾のボールを利き手に持ち、任意のタイミングによりノー

ステップで投球した。測定投球数は5球とし、全力投球を求めた。球速の測定は、ミズノ株式会社製スピードガン（PRO SPEED II PSX-11 6131）を用いて初速を測定した。

2-5. コントロール測定

コントロールテストに用いた的は縦91.6cm×横78.8cmの四角形模造紙とし、中央にはソフトボールでのコントロールの正確性が増すと石垣らが報告している⁴⁾直径10cmの円を描いて標的とした。球速測定と同様に投球距離は13.11mとして、被験者の任意のタイミングによりノーステップで投球させた。ボールが的に当たった試行のみを成功試行とし、成功試行が10球得られるまで投球を続けさせた。標的の中心からボールの当たった位置までの距離をそれぞれ計測し、コントロール指数を算出した。また、コントロール重視での投球が、球速にどの程度影響を及ぼすかについて検証するため、同時に球速の測定を行った。

【結果・考察】

1. 握りと形態及び機能との関連性

1-1. 握りと手長について

三本握りの被験者の手長平均は172.3±6.13mm、五本握りの被験者の手長平均は158.6±4.03mmであり、三本握りの被験者は、五本握りの被験者に比べて手長が有意に長かった($t(28.815)=7.475$, $p<0.001$)。また、手長が160mmを超えると3本指で握る被験者が多かった。

1-2. 握りと指長について

三本握りの被験者は、五本握りの被験者に比べ、表1に示したようにすべての指の長さが有意に長かった。

表1. 指の長さの差

指	三本握り	五本握り	t(29)	有意水準
第1指長	60.4±2.71	54.5±3.80	5.065	p<0.001
第2指長	72.6±3.40	67.8±2.31	4.385	p<0.001
第3指長	78.3±3.09	72.0±2.55	6.049	p<0.001
第4指長	72.7±3.24	68.3±1.44	4.529	p<0.001
第5指長	55.3±4.41	49.8±4.09	3.575	p<0.001

指長の長い選手は、3本指と5本指の握り方のどちらも選択することができるが、指長の長い選手は3本指で握っている傾向があった。逆に5本指で握る選手は指長が短いことで、5本指でしか握れないと考えられる。

1-3. 握りと握力について

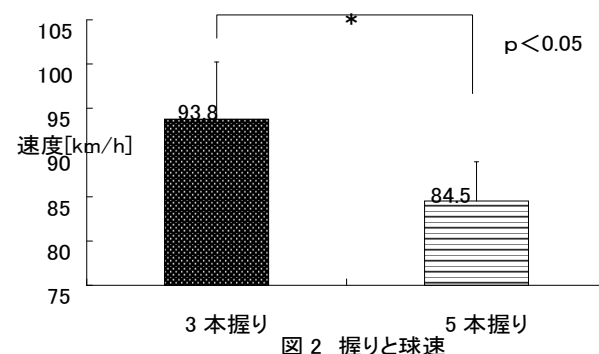
三本握りの被験者は(34.1±4.74kg)、五本握りの被験者(30.1±4.72kg)に比べて握力が有意に大きかった($t(29)=2.271$, $p<0.05$)。

2. 握り別にみた手の形態及び機能が球速に影響を及ぼす要因の検討

2-1. 握りと球速について

図2に示したように、三本握りの被験者は五本握りの被験者に比べ球速が有意に速かった(93.8±6.47km/h vs 84.5±4.43, $t(29)=2.700$, $p<0.05$)。

2-2. 手長と球速について



五本握りの被験者の手長と全力投球の球速との相関係数は-0.57、三本握りの被験者では-0.11であり、いずれも有意な相関は認められなかった。

2-3. 指長と球速について

五本握りの第1指長（親指）と球速との間に相関関係は認められなかったが、三本握りの被験者の第1指長（親指）と球速との相関係数は0.81で、三本握りの被験者の第1指長（親指）の長さと投球速度に相関傾向が認められた（図3. $p=0.053$ ）。三本握りにおいて、第1指（親指）は人指し指・中指の3点を支える役割があり、リリースの直前で最初に第1指（親指）からボールが離れ、リリースで人指し指と中指の指先からボールが離れる。そのため、第1指（親指）が長い被験者の球速が

速いのは、ボールを最後まで支え、いわゆる「球持ち」が良いもしくは長いからであると考えられる。

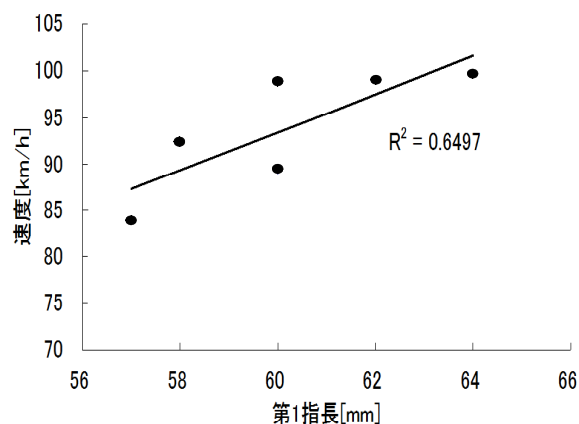


図3 3本握りの第1指長(親指)と球速

また、五本握り被験者の第3指長(中指)と球速との相関係数は -0.89 と有意な逆相関が認められた($p < 0.05$)。図4に五本握りの第3指長(中指)と球速の関係を示した。三本握りにおいては

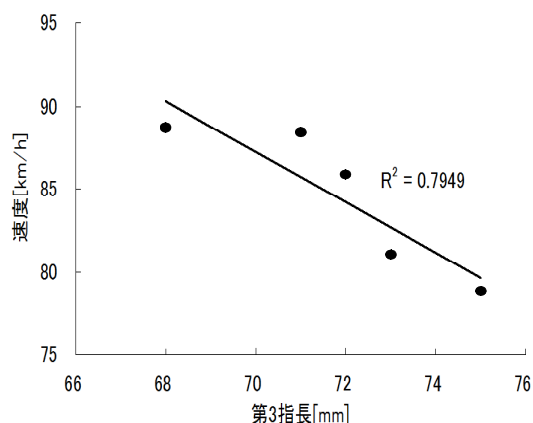


図4 5本握りの第3指長(中指)と球速

有意な相関関係が認められなかった。五本握りの被験者は第3指長(中指)の長さが球速の減速に影響が大きいことが確認され、同様に第2指長(人差し指)と球速の間にも逆相関の傾向がみられた。これらの結果は、五本握りの被験者で第2指長(人差し指)、第3指長(中指)の長い選手は、投球の際にボールを「わしづかみ」で強く握っていることが想定される。ボールを強く握ることにより、リリース局面でスナップを上手く使えなくなることが球速を減少させる要因の一つになっていると考えられる。そこで、五本握りの被験者の投球速度を向上させるには、ボールの握り方を改

善する指導が必要である。その方法として、中指のボールの握る位置を薬指側へ広げ、人差し指と中指の指先の間がボールの頂点になるように握らせることで「わしづかみ」を改善しボールを強く握ることを防ぎ、これによって、リリース局面でのスナップが上手く使え投球速度の向上が期待できると考えられる。

2-4. 握力と球速について

三本握り・五本握りのどちらのグループも握力と球速との関係は、有意な相関は認められなかった。

2-5. 指力と球速について

三本握り・五本握りのどちらのグループも指力と球速の関係は、いずれの指も有意な相関は認められなかった。

3. 握り別にみた手の形態及び機能がコントロールに影響を及ぼす要因の検討

3-1. 握りとコントロールについて

三本握りと五本握りの被験者のコントロール指数において、有意な差は認められなかった($t(29) = -0.066$, n. s.)。握り方が異なっても、それぞれの独自の投球方法の習得により、コントロールを高めることが可能であることが示唆された。

3-2. 手長・指長とコントロールについて

手長及び各指長(親指・人差し指・中指・薬指・小指)の形態とコントロールの関係は、三本握りの被験者、五本握りの被験者のいずれも相関が認められなかった。従って、手の大きさは、コントロールにあまり影響を及ぼさないものと考えられる。

3-3. 握力とコントロールについて

三本握り・五本握りのいずれのグループも握力に関しては、コントロールとの間で有意な相関は認められなかった。

3-4. 指力とコントロールについて

指力について、とりわけ三本握りにおいては、いずれの指力ともコントロールとの間で相関は認められなかった。しかし、五本握りの中指において、指力とコントロールとの間に相関関係が認め

られた。中指の指力が強い被験者ほどコントロールがよいことが明らかになった ($p<0.05$)。図5に五本握りの指力(中指)とコントロールの関係を示した(グラフは逆相関を示しているように見えるが、コントロール指数の表示の関係で実際には正の相関が得られている)。

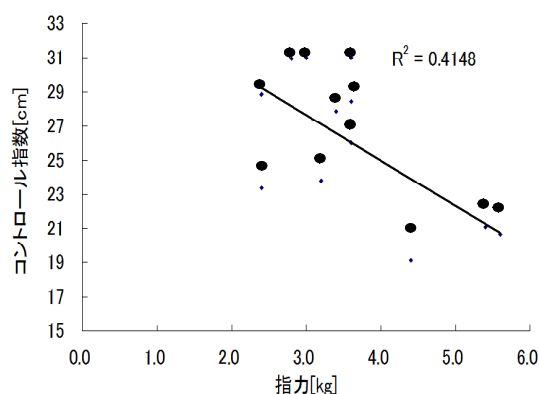


図5 5本握りの指力(中指)とコントロール

すでに、5本指で握る被験者の中指の長さや球速との関係は述べた。コントロールとのかかわりについて触れるが、リリース局面でボールが指先から離れる際は人指し指・中指・薬指からほぼ同時に離れる。しかし、中指の指力が強いとボールを押し出す際に安定性が得られ、それがコントロールの正確性に影響を及ぼすことが予想される。また、五本握りの被験者では、小指の指力とコントロール指数との相関係数は -0.55 であり、有意には至らなかったが、相関傾向が見られた ($p=0.067$)。5本指でボールを握る被験者は小指でボールを支えて握っているため、小指の力がコントロールに影響を及ぼす可能性についても示唆された。

4. 握り別に見た全力投球時とコントロール重視時の球速の変化について

各被験者において、全力投球時とコントロール重視の投球時の球速を対応ある t 検定で比較した。五本握りにおいては、全力投球時とコントロール重視の投球時で球速に有意な差は認められなかった ($t(3)=0.673$, n. s.)。しかし、三本握りの被験者においては、全力投球時に比べ、コントロー

ル重視の投球時には有意な球速の低下が認められた ($t(4)=3.356$, $p<0.05$) (図6)。すなわち、球速が速い選手はコントロールの正確性が逆に落ちることが示された。コントロールを重視することにより、より丁寧に投げるまたはいわゆる「おきにいく」ことが原因であると考えられる。また、運動の順次性がうまく行われていれば正確性や定常性が高まることが予想されるが、的が小さくなるに従って動作を素早く行うことが加減され、そのため球速は落ちていくものと考えられる。

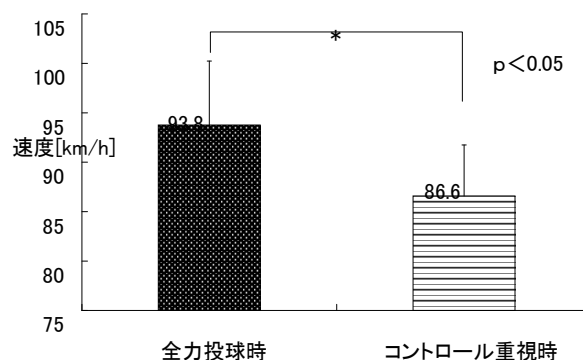


図6 3本握りの全力投球とコントロール重視時の球速

【まとめと今後の課題】

今回、手の「大きさ」や「強さ」といった形態と機能が、球速やコントロールに及ぼす影響について検討した。

その結果、以下のことが明らかとなった。

- ・三本握りの選手は、五本握りの選手に比べ、手の大きさ及び握力が大きかった。
- ・三本握りの選手は、手の形態及び機能が球速に影響を及ぼすことはなかった。
- ・五本握りの選手は、第3指長(中指)が長いほど、球速が遅くなった。
- ・三本握りの選手は、手の形態及び機能がコントロールに影響を及ぼすことはなかった。
- ・五本握りの選手は、中指の指力が強い程、コントロールがよくなった。
- ・三本握りの選手は、最大球速が速い程、コントロールは悪くなった。
- ・三本握りの選手は、全力投球時の球速とコントロール重視時の球速では、コントロール重視時の球速は遅かった。

本研究は、筆者のこれまでの経験上での指導方法を改めるために行われた。とりわけ、五本握りの選手の投球動作の改善に必要な知見を得ることができた。しかしながら、今回の結果は、本来、優位なはずの三本握りの投球が、手の形態的および機能的特性を有効に生かせていない選手の多いことを示唆しているように考えられる。今後、投球時、特にリリース時の手あるいは指の使い方に焦点をあてた動作解析を実施し、技術的ポイントを整理する必要性を痛感させられた。また、ソフトボールは野球に比べて塁間が短いため、正確さが求められる。少しの投球ミスや動きのロスで出塁を許してしまうことが多く見られるため、筆者は指導経験上からもソフトボールの投球方法の指導の狙いは正確さ→速さ→強さの順で指導を行ってきた。今回、現実として球速の速い選手はコントロールの正確性が逆に落ちることが示されたことは、手の使い方はもちろんのこと、正確かつ速い投球へ繋げるための投球動作全体を解析することも必要であると考えられる。

〈引用文献〉

- 1) 下奥信也：ソフトボール 体育図書館シリーズ 23, 不味堂書店, 1965, p 20.
- 2) 社団法人人間工学研究センターホームページ：

<http://www.hql.jp/project/size1992/>

3) 財団法人日本ソフトボール協会：2008オフィシャルソフトボールルール, (財) 日本ソフトボール協会, 2008, p 33.

4) 石垣尚男：標的サイズと投球コントロールの正確性, 愛知工業大学研究報告38-B, 2003.

〈参考文献〉

- ・財団法人日本ソフトボール協会 三宅豊他：ソフトボール指導教本, 財団法人日本ソフトボール協会, 2007.
- ・吉村正：ソフトボール教室, 大修館書店, 1980.
- ・吉村正他：実践ソフトボール, 大修館書店, 1985.
- ・吉田茂他：教師のための運動学, 大修館書店, 1996.
- ・日本ソフトボール協会ホームページ：<http://www.softball.or.jp/>

※本資料は、平成20年度大阪教育大学大学院教育学研究科の修士論文「ソフトボールにおける投球動作（オーバースロー）の一考察—手の大きさが球速とコントロールに及ぼす影響について—」から一部抜粋し加筆したものである。

【卒業論文紹介】

大学男子ソフトボール競技における投手・打者に関する研究

高橋速水・佐藤祐輔・豊永 諒・石寄祥悟・藤田隼人（日本体育大学男子ソフトボール部）
高橋流星・小川幸三（日本体育大学運動方法(ソフト・野球)）

1. 背景

近年のソフトボール競技では、相手の打者、投手の配球データなどを参考にし、スポーツ科学の分野での勝負が始まっている。昨年の北京オリンピックでも金メダルを獲得した背景には、相手投手の癖や配球を分析し、勝利に結びつけたと言わ

れている。そういった意味でスポーツ科学は今後勝利する為に、必要不可欠なものになると考えられる。

近年の野球界では、打者の評価をするためにセイバーメトリクス(SABRmetrics, Sabermetrics: 以下SABR) が多くの球団や大学などで活用されて

いる。

SABRとは、野球においてデータを統計学的見地から客観的に分析し、選手の評価や戦略を考える分析手法である。この分析手法は、野球ライターで野球史研究家・野球統計の専門家でもあるビル・ジェームズによって1970年代に提唱されたもので、アメリカ野球学会の略称SABR(Society for American Baseball Research)と測定基準(metrics)を組み合わせた造語である。

本研究ではSABRを用い、良い打者の評価方法の比較検討をすると共に、また投手においても良い投手の条件をデータから見つけ出すこととした。これは、指導現場やスカウトまたは、選手の打撃評価が期待でき、勝利するためのチームを今までと異なった目線から見る事が出来ることが考えられる。

2. 目的

本研究の目的は、打者では、SABRを用い2008年第43回全日本大学選手権(以下：第43インカレ)、2009年第44回全日本大学選手権(以下：第44インカレ)、2009年第55回全日本総合選手権大会(以下：第55総合)における打者の評価方法の検討すること、また、投手の必要な条件を見出し指導の一助、または競技力向上に役立てて行くことを目的とした。

3. 方法

3-1. 被験者

投手は、第43インカレ上位8名、第44インカレ上位12名、第55総合上位12名の計32人を分析対象にした(11イニング以上対象)。

打者は、第43インカレ、第44インカレ、第55総合(12打席以上を対象)の各大会上位20名ずつ計60人を分析対象にした。

3-2. 分析方法

大会中に公式記録員が各試合を記録したものを採用し合計されたデータを基に分析を行った。

投手成績の内容は、投球数、奪三振数、被安打、四死球、失点、被安打数、四死球の値から1試合平均を算出した。

打者成績の内容は、打席数、打数、安打、得点、

打点、犠牲打、四球、死球、四死球、三振、盗塁、残塁、出塁率、打撃率、二塁打、三塁打、本塁打の値から、出塁率、長打率、OPS、NOI、GPA、BB/Kを算出した(表1)。

表1. 各項目の計算式および意味

項目	計算式	説明
打撃率	安打数÷打数	安打を打つ能力を測る
長打率	(単打+二塁打×2+三塁打×3+本塁打×4)÷打数	長打を打つ能力を測る
出塁率	(安打+死四球)÷(打数+死四球)	塁に出る能力を測る
三振率	三振数÷打数	三振しない能力を測る
OPS	出塁率+長打率	打者実力を忠実に表わす
NOI	(出塁率+長打率×2)×1000	OPSを出塁率重視に応用
GPA	(出塁率×1.8+長打率)÷4	OPSを出塁率重視に応用
BB/K	死四球÷三振	選球眼の良さを表わす

3-3. データ処理

データ処理は、公式記録員が各試合を記録したデータを、Microsoft Excel上に取り込み、各々の相関関係をみた。

4. 結果

4-1. 投手の結果

表2は、各大会における1試合平均の投球内容である。投球数、奪三振数、被安打、四死球、失点、被安打+四死球は、以下の通りであった。

表2. 各大会における投手の1試合平均成績項目(平均値±標準偏差)

	n(人)	投球数	奪三振	被安打	四死球	失点	被安打+四死球
2008全日本大学選手権 投手成績	8	106.69 ± 8.87	9.54 ± 2.98	5.10 ± 1.65	1.78 ± 0.87	2.61 ± 1.42	6.88 ± 2.19
2009全日本大学選手権 投手成績	12	106.66 ± 16.39	7.09 ± 3.17	6.32 ± 3.39	2.05 ± 1.76	3.27 ± 2.90	8.37 ± 3.97
2009全日本総合選手権 投手成績	12	107.33 ± 10.86	10.49 ± 3.05	5.42 ± 2.22	1.65 ± 1.02	2.68 ± 1.59	7.07 ± 2.57
全大会投手成績	32	106.92 ± 12.45	8.98 ± 3.35	5.68 ± 2.59	1.83 ± 1.30	2.88 ± 2.10	7.51 ± 3.08

図1は、各大会における1試合平均奪三振と1試合平均失点の相関関係である。各大会における相関係数は、第43インカレ $r=0.711$ ($p<0.05$)、第44インカレ $r=0.575$ ($p<0.05$)、であり、両大会に

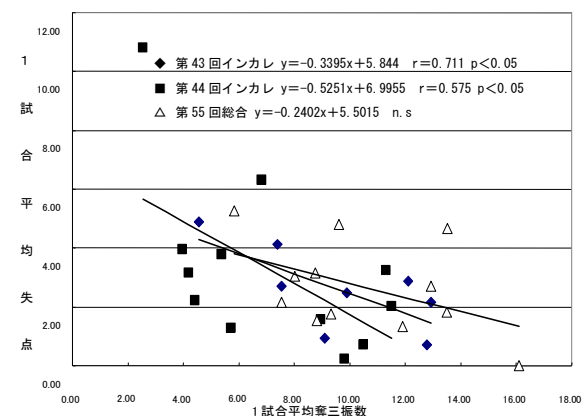


図1. 各大会における1試合平均奪三振数と平均失点の相関関係

において有意な相関関係が示されたが、第55回総合では関係がみられなかった。

同様に、各大会における1試合平均失点と1試合平均被安打数の相関関係を求めたところ、すべての大会において有意な相関関係が示された。各大会の相関係数は、第43インカレ $r=0.819$ ($p<0.05$)、第44インカレ $r=0.940$ ($p<0.001$)、第55総合 $r=0.843$ ($p<0.001$)であり、有意な相関関係が示された。

4-2. 打者の結果

表3は、各大会における打者の成績内容である(平均値±標準偏差)。

表3. 各大会における打者成績内容(平均値±標準偏差)

項目	単位	2008全日本大学打者成績				2009全日本大学打者成績				2009全日本総合打者成績				全大会打者成績			
		mean	±	SD		mean	±	SD		mean	±	SD		mean	±	SD	
人数	人				20				20				20			60	
打撃率	率	0.411	±	0.120		0.424	±	0.078		0.320	±	0.071		0.365	±	0.102	
長打率	率	0.656	±	0.302		0.820	±	0.279		0.575	±	0.224		0.684	±	0.285	
出塁率	率	0.471	±	0.130		0.465	±	0.082		0.364	±	0.073		0.431	±	0.111	
OPS	率	1.129	±	0.399		1.285	±	0.319		0.929	±	0.283		1.115	±	0.358	
三振率	率	0.233	±	0.108		0.173	±	0.088		0.253	±	0.115		0.220	±	0.111	

また、各大会における得点と出塁率の相関関係も求めた。各大会の相関係数は、第43インカレ $r=0.725$ ($p<0.001$)、第55総合 $r=0.625$ ($p<0.01$)であり、有意な相関関係がみられたが、第44インカレは有意な関係がみられなかった。

5. 考察

5-1. 投手の考察

表2は、各大会における1試合平均の投球内容である。この各項目から最も優れた投手は、奪三振が2桁以上、被安打3本以内、四死球1個以内、そして失点を1点以内に抑えることが必要であると考えられる。また、最低限勝ち上がって行くためには、奪三振4、被安打7、四死球4、失点5点以内に抑える投球内容でなければ勝ち上がることが困難であることが推察される。

図1は、各大会における1試合平均奪三振と1試合平均失点の相関関係であり、第43・44インカレ($p<0.05$)には有意な相関関係が示されたが、第55総合では関係がみられなかった。

これは、総合選手権大会は大学生のみならず、クラブ、実業団を含む社会人のチームも加わり各都道府県を勝ち抜き出場してきた日本最高峰レベルの大会である。その為、インカレよりも投手力、打力、走力、守備力などすべての能力やスキル、

戦術などが高いことが考えられる。以上のことから、奪三振を数多く奪ったとしても、失点してしまう可能性が高い大会だと推察される。たとえば、三振を7イニングで2桁奪ったとしても、本塁打や盗塁、エンドラン等の攻撃、または、より優れた戦術などで失点してしまう可能性があるためである。そのため、総合選手権で勝つためには、奪三振数だけでは勝ちあがれないことが示唆された。

各大会における1試合平均失点と1試合平均被安打数の相関関係では、各大会の相関係数は、第43インカレ $r=0.819$ ($p<0.05$)、第44インカレ $r=0.940$ ($p<0.001$)、第55総合 $r=0.843$ ($p<0.001$)であり、すべての大会で有意な相関関係が示された。

この結果により、投手は被安打されないようにすることが失点を少なくするカギであると言える。また、被安打を許すポイントが大切である。走者が塁上にいなければ、被安打を許しても失点に繋がらない。直接、失点に繋がるような被安打を避けることが失点しない要素の一つであると推察される。

5-2. 打者の考察

表3の結果から、第43・44インカレの打撃率は、0.410を超えているのに対し、第55総合は、0.320であった。また、OPS値もインカレでは、1.100を超えていたが、総合は0.929であった。そして、三振率は、総合が0.253で最も高い値を示した。このことから、総合の投手レベルが高いことが考えられる。また、インカレでは、良い打者の条件として、打撃率やOPSは、0.400、1.100以上必要であることが考えられる。

また、各大会における得点と出塁率の相関関係では、第43インカレ($p<0.001$)と第55総合($p<0.01$)には有意な相関関係がみられたが、第44インカレは有意な関係がみられなかった。

このことから、出塁率と得点には関係があると推測されるが、第44インカレのようにそうではない場合もあることが示された。しかしながら、出塁率を抑えることは重要なポイントの一つであると言える。

6. まとめ

以上のことを踏まえて、投手・打者における重要な必要条件は、以下に記載する。

・投手の必要条件

1. 奪三振（三振が取れる球を持っている）。
2. コントロールが良い（四死球を出さない）。
3. 完投能力。

・打者の必要条件

1. 打撃率、出塁率が高い。
2. 選球眼が養われている。

3. 三振をしない（相手のミスが生まれる）。

7. 参考文献

- 1) 蓮見清一：野球の見方が180度変わるセイバーメトリクス／宝島社 2008.
- 2) 第43, 44回全日本大学選手権大会：試合スコアー 筆者 全日本ソフトボール協会記録委員
- 3) 第55回全日本総合男子選手権大会：試合スコアー 筆者 全日本ソフトボール協会記録委員
- 4) マイケル・ルイス（中山宥訳）：マネー・ボール／講談社 2006.

大学男女ソフトボール選手におけるスイングスピードの男女差

佐藤祐輔・高橋速水（日本体育大学男子ソフトボール部）

高橋流星・利根川勇・小川幸三（日本体育大学運動方法(ソフト・野球)）

1. 背景

バッティングとは、野球やソフトボール競技において打者が投手の投球をバットで打つこと、およびその方法である。日本語では打撃とも呼ばれる。

野球・ソフトボール競技の打撃において、ボールを強く打つことやより遠くに打つ為には、バットスイングの速度を高めることが重要である（平野, 1996）。また、打撃技術を決定する一要因としても考えられている。

打撃動作に関しては、現在に至るまで野球の打撃におけるスイング速度や、打球速度、打撃動作などに関する研究をはじめ、トレーニングが打撃動作に及ぼす影響や、各スポーツメーカーなども、バットの重量が打撃動作に及ぼす影響なども実験され、多くの研究者達が注目している。

一方、ソフトボール競技は、1996年のアトランタオリンピックから正式種目として公認され、2008年の北京オリンピックで女子ソフトボールチームが優勝したことは、記憶にも新しい。そして、女子では、オリンピック競技として採用された影響もあり、多くの研究者が女子ソフトボール選手

に着目し、バットスイングの動作分析などが行われてきた。そのような背景もあったからこそ、金メダルが獲得できたのではないかと考えられる。そういった意味で、スポーツ科学は勝利する為には、必要不可欠なものになってきていると言っても過言ではないだろう。しかしながら、大学ソフトボール選手を対象にした研究は非常に少なく、不明瞭な点が多い。

そこで、本研究ではバットスイングのスピードは、飛距離に比例する（平野, 1984）ということからスイングスピードの速さは、欠かす事のできないスキルの一つと考えており、そのスイングスピードに着目して、本研究を進めることとした。

2. 目的

本研究は、N大学男女ソフトボール選手におけるバッティング中のスイングスピードについて、右バッターと左バッターのスイングスピードを調査し、自分自身の技術向上および指導の一助とすることを目的とした。

3. 方法

3-1. 被験者

被験者は、N大学男女ソフトボール選手（レギ

ユラー) 男子4名、女子3名であり、被験者の身体的特徴は表1に示す。被験者には、測定の内容を十分に説明し、理解して頂いた上で十分なウォーミングアップをさせた。

表1. 被験者の身体的特徴および標準偏差

	人数(人)	年齢(歳)	身長(cm)	体重(kg)
男子	4	21.9 ± 0.4	168.4 ± 6.4	72.0 ± 14.1
女子	3	19.4 ± 0.5	161.0 ± 8.2	56.0 ± 10.4

3-2. 試技内容および測定機材

被験者の説明として、打つ方向は、センター方向を狙い全力でスイングするように指示した。この際、ティー台を使用し、止ったボールを打つように指示した(図1)。ティー台の高さは、自分の好きな高さ(真ん中付近)に被験者自ら設定させた。使用したソフトボールは、試合用公認球(ミズノ150、イエローボール)を使用した(図2)。被験者は、測定条件を一定にするため同じボールと同じバットを使用した。バットは、試合用公認バット(ミズノ社 AX4 84cm, 720g)を使用した(図3)。

ビデオカメラ(SONY HDR-FX7)(図4)を使用し、レンズの球面収差の影響を軽減させるため、ティー台の側方30mの場所に動かないように三脚でしっかり固定し、地面からレンズの中心が90cmの場所に設置した。



図1. ティー台を使用(KENKO株式会社製)



図2. 使用した公認球(ミズノ社 150)



図3. 使用バット(ミズノ社 AX4 84cm, 720kg)



図4. 使用したカメラ(HDR-FX7 SONY社製)

3-3. 分析方法

被験者は、全力スイングを6回行い、分析対象として、最もスイング速度が早かった試技、計3試技を分析対象とした。

デジタルビデオカメラから得られたバットスイング画像をパソコンにデータを移し、AVI形式に変換した。そして、2次元ビデオ動作解析システムFrame-DIAS II version3(ディケイエイチ社製)を使用し、120frame/sで撮影した映像を240fieldに分解し分析を行った。線速度の算出は以下の式を使用し算出した。

$$V(\text{m/s}) = (\sqrt{\Delta x^2 + \Delta y^2}) / \Delta t$$

3-4. データ処理

データ処理は、Microsoft Excel上に速度データを取り込み、身長と体重とスイング速度との相関係数を算出した。



図5. スイング中の写真

4. 結果

図6は、男女にけるスイングスピードの平均値および標準偏差である。男子は、 143.0 ± 11.0 km/h、女子は、 113.5 ± 11.2 km/hであった。

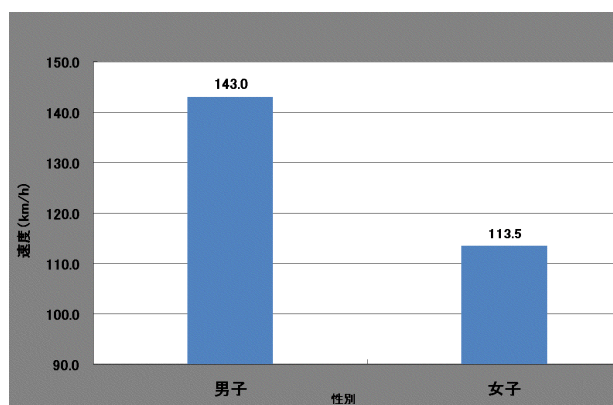


図6. 男女におけるスイングスピードの平均値および標準偏差

図7は、スイングスピードと体重および身長との相関関係である。

スイングスピードと体重には、5%水準で有意な相関関係が得られた。スイングスピードと身長には、有意な相関関係は得られなかった。

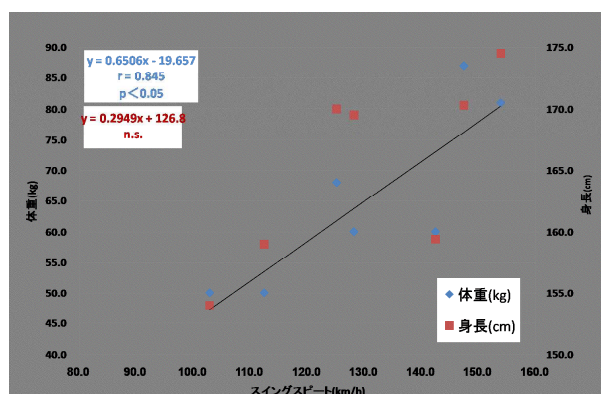


図7. スイングスピードと体重および身長の相関関係

5. 考察およびまとめ

図6は、男女におけるスイングスピードの平均

値および標準偏差である。男子は、 143.0 ± 11.0 km/h、女子は、 113.5 ± 11.2 km/hであった。両群の平均速度は男女差が29.5 km/hもの差異があった。このことは、男女間に筋力の差が影響しているのではないかと推察される。また、平野(1996)の報告によると、バッティング動作には、地面からの反発力は重要でありスイングスピードに影響するという報告がされていることから、下半身の動きや地面からの反発力はスイング動作では重要な要素になると考えられる。

また、図7は、スイングスピードと体重および身長との相関関係である。スイングスピードと体重には、5%水準で有意な相関関係が得られたが、スイングスピードと身長には、有意な相関関係は得られなかった。このことは、体重がスイングスピードに影響を及ぼすことが示唆された。しかしながら、スイング速度が速いだけでは打撃は成立しない。素早い速度を得たとしてもボールにミートする能力がなければ良い打者と言えない。また、走力もなければ、たとえヒット性の打球を打ったとしてもアウトになってしまう場合も考えられる。また、体重が極度に重すぎると、走力が低下するため、一概に体重が重ければ良いというものではない。

今後の課題として、スイングスピードには、下半身や上半身、体幹の筋力の影響が多い(平野, 1984)ことから、下肢筋力、上肢筋力、体幹の筋力の各部位での比較、または、地面からの反発力が各球種やコース、左右の打者でどのように異なるか比較、検討していければと考えている。また、打撃動作の競技力向上のためのトレーニング方法の確立および指導方法の検討も行っていかなければならない。

以上のことから、本研究の結果を踏まえて自分自身の競技力向上および評価方法の一助、または、指導法の一知見として役立てて行きたいと思う。

7. 参考文献

- 1) 筒井大助、船渡和男、増島篤：試合時における投手の投球フォームの分析と球速の変化，日本体育大学トレーニングジャーナル，p11～21，

- 2006.
- 2) 甲斐裕一、田中重陽、熊川大介、角田直也：バットの長さ及び重量が野球のティーバッティングトレーニング効果に及ぼす影響，p39～43，東京体育学研究
- 3) 平野裕一：野球のバット重量の違いが打撃動作に及ぼす影響，日本体育学会大会号（54），382，2003.
- 4) 大金雅子 斉藤雅彦 平野裕一：打動作における眼球運動と上肢の動きの調節，日本体育学会大会号（47），207，1996.
- 5) 平野裕一：打つ動作のバイオメカニクス，体育學研 40(6)，399-404，1996.
- 6) 及川 研 大沼 徹 平野裕一：野球のバットの軌道及びそれに影響する打撃動作の類型化の試み，スポーツ方法学研究 9 (1)，127～139，1996.
- 7) 平野裕一 政二 慶 野口秋実 関口知徳：打つ動作における前腕および手の働き，日本体育学会大会号（43A），406，1992.

大学女子ソフトボール投手の試合中における ボールスピードと身体機能の変化に関する研究

朝田 豊永・末井 健作(兵庫県立大学環境人間学部)、久保田 豊司(大阪国際大学)

1. はしがき

ソフトボール競技は投手の力量が試合の勝敗を大きく左右するといわれている。これまでの投手に関する先行研究では投球フォームの動作解析や、一定の実験条件を設定した試合のシミュレーションを行い、筋力やボールスピードを測定したものが多い。そこで本研究では、ソフトボール投手の実際の試合中におけるボールスピード、握力、乳酸及び心拍数の変化を調べることを目的とした。

2. 方法

(1) 被験者

関西1部リーグに所属するO大学女子ソフトボール部の投手4名で、身体的特性は表1に示した。本被験者の形態は大学投手の平均値¹⁾と比べ、有意な差はなかった。

表1. 被験者の身体的特性

被検者	年齢 (歳)	身長 (cm)	体重 (kg)	最大酸素摂取量 (ml/kg/min)
A	20	156.4	56.1	39.8
B	19	160.5	53.6	38.1
C	18	167.0	55.7	41.0
D	18	170.3	60.7	38.8
平均 ±SD	18.8 ±1.0	163.6 ±6.3	56.5 ±3.0	39.4 ±1.3

(2) 測定方法及び項目

① ボールスピードの測定

ボールスピードはスピードガン(MIZUNO社Speed Max II)を用い、ホームプレートより後方約5m、ピッチャーズプレートとホームプレートを結ぶ線分の延長線上から斜め15°の位置で全投球のボールスピードを測定した(図1)。

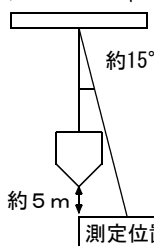


図1. ボールスピードの測定方法

② 握力

握力はデジタル握力計(竹井機器工業製)を用い、試合前及び各イニング終了直後に左右二回ずつ測定し、それぞれ最大値を記録した。

③ 心拍数及び主観的運動強度(rating of perceived exertion、以下「RPE」)

心拍数はPOLAR社製ハートレートモニターを被験者の胸部に装着し、試合開始前から試合終了後ま

で5秒毎に測定した。RPEは各イニング終了時にボルグの尺度表²⁾から記録した。

④乳酸

乳酸は試合開始前及び試合終了後直ちに簡易血中乳酸測定器ラクテート・プロTM(京都第一科学)を用いて、血液を非利き手の指先から採取し測定した。

⑤最大酸素摂取量

自転車エルゴメーターを用いた多段階漸増負荷試験により測定した。各ステージは4分間とし、初期負荷を50 Wattsに設定し、その後4分毎に20 Wattsずつ増加させ、各人の85%HRmaxまで運動を継続させ、最大酸素摂取量を推定した。

3. 結果

①投球概要

各被験者の得意球種、全投球におけるファストボールの割合及びボールスピード（最高球速、平均球速）を投球概要として表2に示した。

表2. 投球概要

被験者	得意球種	ファストボールの割合	※最高球速 (km/h)	※平均球速 標準偏差 (km/h)
A	ドロップ	55/100球	87	84.0 ±1.6
B	チェンジアップ	37/92球	87	82.9 ±1.76
C	チェンジアップ	71/87球	89	86.5 ±1.56
D	チェンジアップ	84/103球	87	84.6 ±1.61

※ファストボールのみ

②ボールスピード

各イニングにおけるファストボールのスピードの平均値を図2に示した。各被験者の1イニング目の平均値を100%としてイニング別変化率をみると、最終イニングでは0.5%±1.7%の低下が有意水準5%で認められたが、被験者Cは1.6%増加した(図3)。

③握力

握力の各イニング終了時の変化を図4に示した。野球の投球に関する研究⁴⁾によると、イニング数が増すごとに握力は低下するという傾向が報告さ

れている。本研究において3名の被験者に利き手

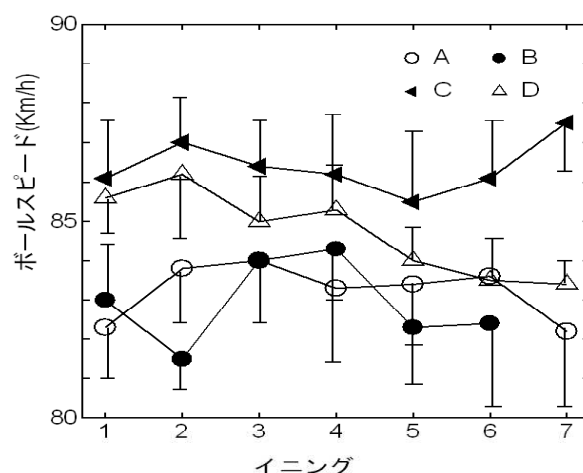


図2. イニングとボールスピードの変化

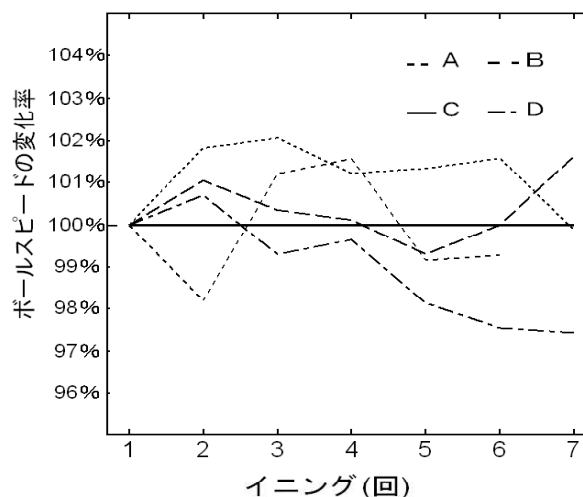


図3. ボールスピードのイニング別変化率

の握力は、イニングの増加に従って低下を示したが(11.3%±8.1、有意差なし)、被験者Bは試合開始後イニングが増すごとに握力は増加し、試合終了時には試合開始時とほぼ同じであった。また3名の被験者において利き手のみならず、非利き手においても同様の変化が有意に認められた。

④握力とボールスピードの関係

試合開始前の利き手の握力と1イニング目のボールスピードの間には有意水準1%の有意な相関関係が認められた(図5)。各イニング終了時の握力と、そのイニングの平均ボールスピードにも有意水準1%の有意な相関関係が認められた(図6)。

また試合開始前の利き手の握力は最終イニング目のボールスピードの低下率との間には有意水準1%で有意な相関関係がみられた($r=0.789$)。

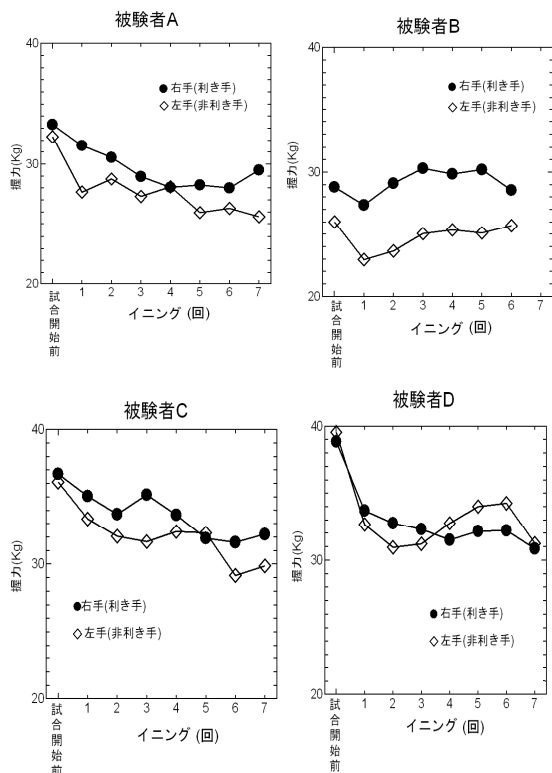


図4. 握力とイニングの変化

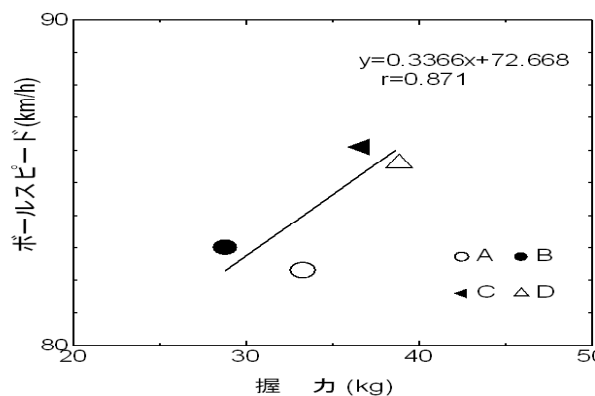


図5. 試合開始前の握力と1イニング目のボールスピードの関係

⑤ 投球中の運動強度の推定

試合開始前の心拍数は平均 84 ± 4.6 拍/分であり、試合終了時には平均 109.8 ± 7.4 拍/分であった。心拍数は試合開始とともに増加し、イニングごとの投球数は異なるが、100～120拍/分の間を推移した(図7)。心拍数から運動強度を推定すると最大心拍数(推定)に対して $51.9 \pm 5.4\%$ HRmaxの運動強度であったと推察できる。また、RPEは1イニング終了

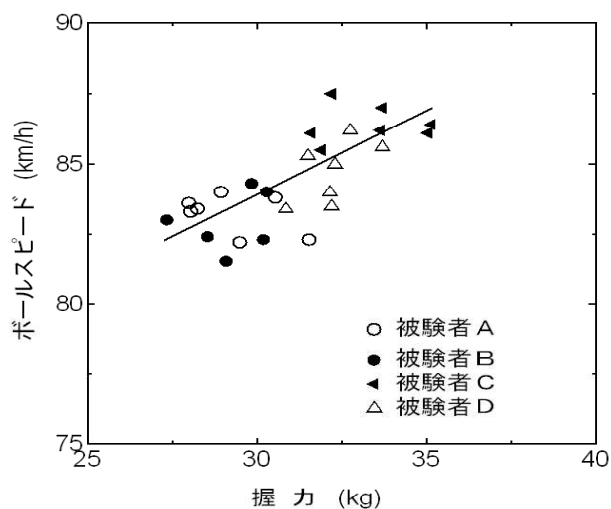


図6. 握力とボールスピードの関係

時では平均 10.3 ± 1.0 (楽である)であったが、試合終了時は 12.3 ± 1.5 (ややきつい)であった。RPEもイニングが増すごとに若干増加していく傾向がみられ(図8)、心拍数とRPEとの間に有意な関係が認められた($p < 0.01$)。

被験者Aにおいては2イニング目に心拍数が大きく増加したが、これは本塁打を打たれたことや守備の乱れ等の心理的要因が少なからず関連しているものと思われる。

また血中乳酸濃度は試合開始前に 2.4 ± 0.6 mmol/lで、試合終了直後は 9.0 ± 0.8 mmol/lの値を示した。

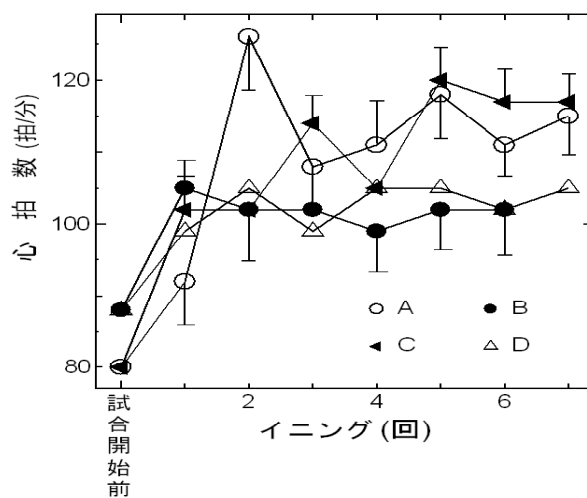


図7. イニングと心拍数の変化

4. 考察

本研究の被験者のボールスピードの最高球速は

87～89km/hで、全投球(ファストボール)の平均球

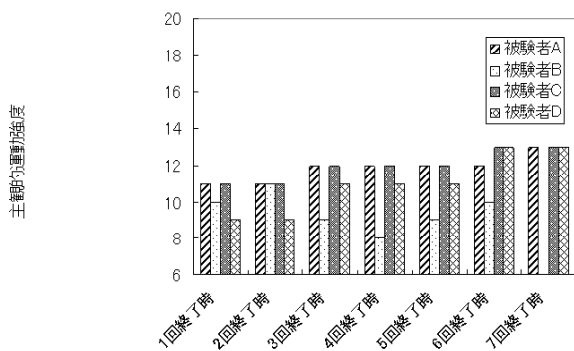


図8. 各イニングの主観的運動強度の変化

球速は82.9～86.5km/hであった。

本研究では、1イニング目のボールスピード及びイニング終了時の握力とボールスピードには有意な相関関係が認められたことから、ボールスピードに握力が影響を及ぼしているものと推察される。それに加え、平均ボールスピード及び握力はイニングスの増加に伴って低下の傾向がみられたことから、握力の低下がボールスピードに影響を与える要因であることが示唆された。

また試合開始前の握力と最終イニング目のボールスピードの低下率との間に有意な相関関係が認められたことから、握力の初期値が高い投手ほどボールスピードの低下が小さいといえる。

本研究では4名とも利き手、非利き手のどちらとも同様な変化を示した。二瓶ら⁴⁾によると、『利き手、非利き手握力の低下には、ボールリリースによる利き手の握力の低下が交叉性により非利き手の握力に及ぼす影響があることや、全身運動による筋疲労、筋出力の抑制が関係する』との報告があるが、これらのメカニズムを解明することがこれからの課題である。

また二瓶や⁴⁾後藤ら⁵⁾は、ボールスピードは心拍数やRPEに比べ、握力などの筋力に由来すると述べている。本研究でも握力とボールスピードには有意な相関があり、握力と心拍数、RPEには相関関係はみられなかった。このことから簡易に測定できる握力を測定することによって、ボールスピードの変化を推測できることが可能であることが示唆された。

5. まとめ

本研究は、ソフトボール投手の実際の試合中におけるボールスピード、握力、乳酸及び心拍数の変化を調べることを目的とした。

その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 握力とボールスピードは有意な相関関係が認められた。
- 2) 握力の低下とボールスピードの低下に有意な相関が認められた。
- 3) 利き手、非利き手の握力には有意な相関が認められた。
- 4) 投球中の運動強度は最大心拍数(推定)に対して、 $51.9 \pm 5.4\%HR_{max}$ に相当すると推察された。

参考文献

- (1) (財)日本ソフトボール協会技術委員会：ソフトボール選手の体力測定結果 2000
- (2) Borg GA: Psychophysical bases of perceived exertion. Med Sci Sports Exerc 14: 377-381, 1982
- (3) American College of Sports Medicine : ACSM's guidelines for exercise testing and prescription. 5th edition (Kenney WL ed.), Williams 1995年 p206～235
- (4) 二瓶智樹 佐藤佑(2003) 野球投手のボールスピード低下に及ぼす握力の影響
- (5) 後藤実 谷口有子 山本正嘉 百武憲一 岩井美樹 成澤三雄(2000) 野球投手におけるボールスピードの低下と筋力、全身持久力との関係
- (6) 山本英弘、北川薫、松岡弘記、藤松博(1981) ウインドミル投法の動作分析的研究. 中京体育学研究21: 114-121
- (7) 石井和之、平野裕一(1996) 投球スピードを高める. Japanese Journal for Sports Sciences 15-5. p297～300
- (8) 奥野暢通、後藤幸弘、島田三千男(1991) ウインドミル投法の筋電図的分析—競技レベルによる相違とボール速度の変化を中心にして— 体育学研究. 36:141-155

文部科学大臣杯第44回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成21年8月28日(金)～8月30日(月)

会場：宮城県宮崎市／宮崎総合運動公園ひむか野球場・軟式野球場他

大会概要

日体大(東京) 2年連続28回目の優勝!!

大会記録長：下 村 征 二

大学男子「日本一」を決める文部科学大臣杯第44回全日本大学男子ソフトボール選手権大会は、晴天に恵まれた宮崎市木花の県総合運動公園、ひむかスタジアム、軟式野球場を中心に開催された。

準決勝には日本体育大学、福岡大学、同志社大学、早稲田大学の4チームが進出したが、日本体育大学が高橋速水投手の準決勝での無安打無得点試合の活躍と長打攻勢などで、2年連続28回目の優勝を飾った。準優勝の福岡大学は、決勝戦こそ日本体育大学に圧倒されたものの、坪内剛投手の力強い投球で23年ぶりに決勝戦進出を果たした。同志社大学は川根豪投手の安定した投球で、早稲田大学は好調な打撃陣に支えられてベスト4に進出したが、上記2チームに今一步のところで苦杯をなめさせられた。

特に印象に残った選手としては、日本体育大学の高橋投手をはじめとして、次のような選手が上げられる。高橋投手は、準決勝戦で無安打無得点試合を達成するなど、5試合に登板して被安打9、自責点1、防御率0.23でチームの優勝に大きく貢献する活躍が光った。打者では、本大会通算4本塁打を放った早稲田大学大嶋匠選手、同志社大学の椎葉巨将選手・甲斐翔太選手、日本体育大学の伊藤皓二選手など力強い打撃が注目された。

大会講評

走・攻・守に優れた日本体育大学の優勝

九州地区常任理事 濱 貴 一

南国・宮崎市で行われた大会は、連日の残暑厳しい中、多くの白熱した戦いが演じられた。

そして初戦から決勝戦まで、各大学・選手が、学生スポーツの醍醐味またハイレベルな技術をたくさんの観客・市民のみなさんに披露することができた。

そんな中、やはり頂点を目指し、勝ち上がってきた準決勝・決勝はさらに印象に残る、感動的なゲームとなった。

準決勝の早稲田大学(東京都1位代表)VS福岡大学(九州地区1位)の試合。

双方ともチャンスをつくりながらも、両投手の力投で得点を奪えず、行き詰まる戦いとなった。6回表、ノーアウト・三塁のピンチを零点で凌いだ福岡大学は、その裏に連打を連ねて一挙3点を奪い、逃げ切った。もう一方の準決勝は、日本体育大学(東京都2位代表)が、高橋速水投手のノーヒットノーランの快投と長打攻勢で同志社大学(関西地区3位代表)を破った。

その結果、決勝は、日本体育大学と福岡大学の対戦となった。初回にエラーと本塁打が絡んで4点を奪った日本体育大学がペースを握り、そのまま押し切った。高橋速水投手はこの大会決勝までの5試合で1失点、打線も6本のホームラン、積極的な走塁も健在で、走・攻・守いずれもを抜き出していた。

大会全体の中では、準々決勝の中京大学(東海地区2位)と福岡大学との対戦で、薄暮の近づく中、競技役員、審判、放送関係そして双方のチームが協力しあって、非常に学生らしいマナーで緊迫・感動した試合を1時間20分というスピーディさで達成したのが印象的だった。学生の最高の大会で、学生が主役となり、それを全体が支えて感動的に盛り上げていく運営方法をもっと工夫する必要があるのかもしれない。これからはもっと学生たちに期待したい。

大会結果

	28日(金)	29(土)	30日(日)
1. 早稲田大学(44)	18	5	0
2. 近畿大学工学部(3)	0	15	0
3. 京都産業大学(31)	12	2	0
4. 盛岡大学(9)	1	6	0
5. 中京学院大学(6)	9	9	0
6. 桜美林大学(2)	0	1	0
7. 城西大学(16)	1	4	0
8. 崇城大学(初)	2	3	0
9. 中京大学(39)	8	1	0
10. 愛媛大学(9)	1	1	0
11. 広島工業大学(5)	7	2	0
12. 国士舘大学(44)	8	6	0
13. 愛知大学(18)	0	1	0
14. 福岡大学(36)	8	2	0
15. 高知大学(13)	3	4	0
16. 日本福祉大学(3)	17	0	0
17. 関東学園大学(14)	2	1	0
18. 環太平洋大学(3)	3	1	0
19. 鹿児島国際大学(4)	2	4	0
20. 同志社大学(29)	11	0	0
21. 名桜大学(3)	10	0	0
22. 富山大学(11)	0	2	0
23. 国際武道大学(17)	1	1	0
24. 大阪産業大学(2)	3	2	0
25. 熊本学園大学(23)	14	1	0
26. 中央大学(21)	1	2	0
27. 仙台大学(23)	1	4	0
28. 関西大学(33)	13	0	0
29. 高崎経済大学(25)	13	8	0
30. 龍谷大学(19)	10	7	0
31. 立命館大学(28)	0	3	0
32. 日本体育大学(44)	3		7

日本体育大学
(2年連続28回目)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月28日）1回戦

近畿大学工学部 00000 : 0
早稲田大学 05112x : 18

〔近〕●豊島慶輔－谷村雄太

〔早〕○久我貴大、吉田朋矢－北澤慶介

(本)薩澤彰大②、大嶋 匠、北澤慶介②

(三)大嶋 匠、薩澤彰大、久我貴大

(二)西村一哉

【評】早稲田大学は5本の本塁打を含む19安打で大量18点を取り相手を圧倒した。近畿大学工学部は3回に2本のヒットと送りバントで二・三塁のチャンスを作ったが早稲田大学の2投手から得点を奪えなかった。

盛岡大学 00001 : 1
京都産業大学 9210x : 12

〔盛〕●向井健太郎－田村一晃

(二)向井健太郎

〔京〕○菅村直也、内海裕也－田中元喜

(本)岡林秀明、菅村直也

(二)谷尻順平、内海裕也、伊藤嵩志

【評】京都産業大学は初回・岡林の本塁打を含む打者13人の猛攻で一挙9点、その後も菅村の本塁打等で追加点を取り相手を圧倒した。盛岡大学は5回に1点を取るが焼け石に水だった。

中京学院大学 03114 : 9
桜美林大学 00000 : 0

〔中〕○岩田 守、大森 優－三浦 亮

(本)野田郁雄②、川崎祐介

〔桜〕●坂本健太郎－長谷川竜太

【評】中京学院大学が6安打で9点と効率のよい攻めで勝利した。桜美林大学は相手の2人の投手に無安打に封じ込まれ敗れ去った。

城西大学 0001000 : 1
崇城大学 200000x : 2

〔城〕●能登部貴春－加藤千尋

(本)忒田洋明 (二)加藤千尋

〔崇〕○村枝友弥－玉木広大

(二)柴田一樹、田中宏輝

【評】崇城大学は初回に2点を先制、その後相手の反撃を1点に抑え逃げ切った。城西大学は忒田の本塁打の得点のみで1回の二・三塁のチャンスを逃したのが後まで響いた。

愛媛大学 00001 : 1
中京大学 0332x : 8

〔盛〕●大井正則－野曾原陽一

(二)寺本将也

〔中〕○望月孝典－秋屋一樹

(本)伊藤圭佑②

【評】中京大は伊藤の2打席連続本塁打等で4回までに8点を取り、投げては先発・望月が相手打線を1安打に抑え快勝した。愛媛大は5回に寺本の二塁打で1点を還すのが精一杯だった。

広島工業大学 4030000 : 7
国士舘大学 130121x : 8

〔広〕●蓑田将員－向 晃介

(本)藤重雄大、向 晃介

(二)蓑田将員、小林祐貴

〔国〕合田太一、○本多亮介－清野真一

(本)堀 大輔 (二)萩原志英、菊池厚志

【評】国士舘大学は劣勢の中粘り強く得点を重ね同点で迎えた6回、5番堀の本塁打で遂に逆転。このリードを2番手投手本多が相手に得点を与えず競り勝った。広島工業大学は4番藤重の満塁本塁打等で序盤からリードするも、追いつがる国士舘大学の勢いを止める事が出来なかった。

福岡大学 20213 : 8
愛知大学 00000 : 0

〔福〕○坪内 剛、河野竜一郎－田中宏治

(本)田中宏治 (三)坪内 剛、田中秋人

(二)樺島 直、今泉慶太、田中秋人

〔愛〕●林 俊輔、瀬瀬誠也－三宅正人

【評】福岡大学が初回から小刻みに加点し愛知大学を下した。愛知大学は毎回の様に走者は出すもののあと1本が出なかった。

日本福祉大学 06191 : 17
高知大学 00030 : 3

〔日〕○小久保雄介、福田享充－河村優樹、中村洋介

(本)田代大悟、松井信恭、西川隆雅

(二)大河原 稜、大石貴文

〔高〕●武内陽平、東郷峻樹－岡本泰平

(本)武内陽平 (二)東郷峻樹

【評】日本福祉大学は毎回の19安打で高知大学を圧倒し勝利した。高知大学は初回の2死満塁のチャンスを活かせなかったのが痛かった。

環太平洋大学 1000200 : 3
関東学園大学 0101000 : 2

〔環〕○嶋田智希－平本拓朗

(本)松崎洸平 (二)山城 渉

〔関〕●福田 学－大井 宗

(本)福田 学

【評】環太平洋大学は先制するもその後リードを許し迎えた5回、ヒットや相手の守備の乱れで再逆転しそのまま逃げ切った。関東学園大学は逆転後にも追加点と挙げるチャンスがあったが活かせ切れなかったのがあとあとまで響いた。

同志社大学 41303 : 11
鹿児島国際大学 00002 : 2

〔同〕○川根 剛、垣迫辰也－永見 哲

(本)永見 哲 (三)甲斐祥太、田子 光②

〔鹿〕●久木野亮、西 裕貴－西村 祐

(二)西 裕貴、西村 祐

【評】同志社大学は初回から長打3本を絡め4点を取ると5回までに11点を取り快勝した。鹿児島国際大学も5回に2点を返したが時すでに遅しかった。

富山大学 00000 : 0
名桜大学 0604x : 10

〔富〕●小木曾豊－山岸 照

〔名〕○徳本 慎－池原 諒

(本)上門信太郎、平良直之

【評】名桜大学は2回に一举6点、4回にも4点

を挙げ、投げては徳本が5回参考記録ながら相手を無安打無得点に抑えた。富山大学は投打に良いところを出すことなく敗れた。

大阪産業大学 2010000 : 3
国際武道大学 0000100 : 1

〔大〕○開田卓人－岡本亮平

(本)宮本晃平 (三)宮本晃平

〔国〕●竹中正二郎－田中智也

(三)松岡 隼

【評】大阪産業大学は初回2点を先制、3回にも1点を追加するとその後の相手の反撃を抑えて逃げ切った。国際武道大学は毎回走者を出すものの得点は5回の1点のみで攻め切れなかった。

熊本学園大学 200237 : 14
中央大学 100120 : 4

〔熊〕○有働雄士、谷川智紀－五郎丸辰美

(本)五郎丸辰美②、鶴山大輔

〔中〕●大野浩輔、中田真史－川原 悠

(二)川原 悠、中越宇宙

【評】4回までは最少得点差の接戦であったが5回から一転、両チーム点の取り合いとなり3本の本塁打を放った熊本学園大学が勝利した。中央大学も後半追い上げをみせたが大量失点が響き思わぬ大敗となった。

関西大学 04342 : 13
仙台大学 10000 : 1

〔関〕○藤井優人－瀬戸 護

(三)小野晃弘 (二)原田大樹、山崎和将、古和将貴、川口拓馬、鈴木浩平、尾関克也

〔仙〕●渡邊裕太、小坂橋一央－江崎 将

(本)渡邊芳幸

【評】関西大学は14安打のうち、長打7本で13得点と相手を圧倒した。仙台大学は初回到渡邊(芳)の先頭打者本塁打で幸先よく先制したが、結局安打は2安打と相手投手に封じ込められた。

龍谷大学 00050401 : 10
高崎経済大学 11043004x : 13

〔龍〕 ●大澤 満－田中俊之
(二)中平典寿、原畑英治

〔高〕 ○熊谷英紀－金井塚和希
(本)首藤優典、渋谷祥吾 (三)吉田晴貴
(二)北野祐樹

【評】龍谷大学、高崎経済大学お互い一步も譲らずタイブレーカーに突入、迎えた8回表、龍谷大学が1点を取るが高崎経済大学も相手投手の暴投で同点、その後四番渋谷の3点本塁打でサヨナラ勝ちした。

日本体育大学 0100002 : 3
立命館大学 0000000 : 0

〔日〕 ○高橋速水－片岡大洋
〔立〕 ●松本 健－藤川拓郎
(本)石寄祥悟 (二)佐藤祐輔

【評】日本体育大学は2回、この回先頭の四番石寄の本塁打で先制、7回にも2点を追加し逃げ切った。立命館大学は相手の先発 高橋に2安打に抑えられ2塁すら踏むことができなかった。

▼第2日(8月29日)2回戦

早稲田大学 0010022 : 5
京都産業大学 1100000 : 2

〔早〕 ○久我貴大－北澤慶介
(本)薩澤彰大 (三)吉田 憲
(二)大嶋 匠、久我貴大
〔京〕 ●菅村直也－田中元喜
(二)岡林秀明

【評】早稲田大学は相手に2点をリードされるも終盤に得点を重ね逆転勝ち。京都産業大学は序盤に得点するもこの得点を守りきることが出来なかった。

崇城大学 0000010 : 1
中京学院大学 300111x : 6

〔崇〕 ●村枝友弥－玉木広大
(二)柴田一樹
〔中〕 ○岩田 守、大森 優－三浦 亮
(三)川崎祐介 (二)鈴木 隆、川原 光
【評】中京学院大学が先制、中押し、ダメ押しと

理想的な試合運びで勝利した。崇城大学も後半反撃に転じたが、前半の大量失点が響いた。

国士舘大学 20001000 : 3
中京大学 00020011x : 4

〔国〕 合田太一、●本多亮介－清野真一
(本)久住卓実
〔中〕 ○望月孝典－秋屋一樹
(本)望月孝典

【評】中京大学が7回に同点に追い付き、そのままの勢いでタイブレーカーを制した。国士舘大学は常にリードを保っていたが土壇場で追いつかれ力尽きた。

日本福祉大学 1000000 : 1
福岡大学 100005x : 6

〔日〕 ●小久保雄介、福田享允－河村優樹
(三)大石貴文
〔福〕 ○坪内 剛－田中宏治
(二)濱口智章

【評】福岡大学は6回、二死から一挙5点を取り逃げ切った。日本福祉大学も最終回に連打で粘りをみせるが後続が打ち取られ得点を挙げることが出来なかった。

環太平洋大学 0000000 : 0
同志社大学 003010x : 4

〔環〕 ●嶋田智希－平本拓朗
〔関〕 ○垣迫辰也－永見 哲
(三)甲斐祥太 (二)椎葉巨将

【評】同志社大学がチャンスを確実にものにし快勝した。環太平洋大学は相手投手の前にわずか2安打に抑えられ反撃の糸口すら見つけられなかった。

名桜大学 0000000 : 0
大阪産業大学 010001x : 2

〔名〕 ●徳本 慎－池原 諒
〔大〕 ○開田卓人－岡本亮平

【評】大阪産業大学は2回に先制するも、その後はこう着状態が続き迎えた6回、待望の追加点を取るとそのまま逃げ切った。名桜大学は走者を出すものの、あと1本が出なかった。

関西大学 0000020 : 2
熊本学園大学 0010000 : 1

〔関〕○藤井優人ー瀬戸 護

(本)岩田宏彰 (二)川口拓馬、古和優貴

〔熊〕●谷川智紀、有働雄士、谷川智紀
ー五郎丸辰美

(三)三丸大貴

【評】関西大学は相手の1点リードで迎えた6回、七番岩田の値千金の2点本塁打で逆転しそのまま逃げ切った。熊本学園大学は先制するも追加点が奪えず悔しい敗戦となった。

高崎経済大学 00000 : 0
日本体育大学 3220x : 7

〔高〕●熊谷英紀、田母神直史ー金井塚和希、
日比野裕

〔日〕○高橋速水、立石壮平、矢野崇史ー
片岡大洋、中西康太

(本)芳賀慎二郎、佐藤祐輔

(二)亀田亮治、豊永 諒

【評】日本体育大学は初回、5本のヒットで3点を取ると、その後も着実に加点し勝利した。高崎経済大学は相手の繰り出す3投手の前に一人の走者も出す事が出来なかった。

▼第2日(8月29日)準々決勝戦

早稲田大学 1415013 : 15
中京学院大学 0043002 : 9

〔早〕久我貴大、○吉田朋矢ー北澤慶介

(本)久我貴大、西村一哉②、大嶋匠、
北澤慶介②、松本勇亮

(二)工藤慎平②、吉田憲、吉田朋矢

〔中〕●岩田 守、大森 優ー三浦 亮

(本)野田郁雄、鈴木 隆 (二)大井英幸

【評】早稲田大学は7本の本塁打で大量15点を取り打ち勝った。中京学院大学も反撃に出たが2人の投手が打ち込まれ点差を詰めることが出来なかった。

中京大学 0000001 : 1
福岡大学 200000x : 2

〔中〕●望月孝典ー秋屋一樹

(本)秋屋一樹

〔福〕○坪内 剛ー田中宏治

【評】福岡大学が初回の2点を守り切り勝利した。中京大学は最終回に1点を還し、尚も走者を二塁まで進めたが、後1本が出なかった。

大阪産業大学 0000000 : 0
同志社大学 001000x : 1

〔大〕●開田卓人ー岡本亮平

〔同〕○川根 豪ー永見 哲

(二)田子 光

【評】関西勢同士の対決となった一戦は同志社大学が、3回に挙げた1点を守り切った。大阪産業大学も追い上げに転じたが1安打ではどうする事も出来なかった。

関西大学 001000 : 1
日本体育大学 112301x : 8

〔関〕●藤井優人ー瀬戸 護

(本)原田大樹 (二)川口拓馬

〔日〕○高橋速水ー片岡大洋

(本)石寄祥悟 (二)伊藤皓二

【評】日本体育大学は好調の打撃陣がこの試合も初回から得点を重ね、6回までに8点を取り相手を圧倒した。関西大学は3回に、8番原田の本塁打で1点を還すのが精一杯だった。

▼第3日(8月30日)準決勝戦

早稲田大学 0000000 : 0
福岡大学 000003x : 3

〔早〕●久我貴大ー北澤慶介

〔福〕○坪内 剛ー田中宏治

(三)向山賢正

【評】福岡大学が6回に3点を取り21回大会以来23年振りの決勝戦に駒を進めた。早稲田大学も6回に無死一・三塁のチャンスを活かせなかったのが大きかった。

日本体育大学 0002020 : 4
同志社大学 0000000 : 0

〔日〕○高橋速水一片岡大洋

(本)祝 弘樹 (三)祝 弘樹

(二)立石壮平

〔同〕●川根 豪一永見 哲

【評】日本体育大学が高橋投手の無安打無得点の快投で昨年に続き決勝に進出した。同志社大学も四球の走者一人だけではどうする事も出来なかった。

※日体大 高橋速水投手無安打無得点試合 三振8、内ゴ8、内飛1、外飛4、四球1、投球数82

▼第3日(8月30日)決勝戦

福岡大学 0000000:0

日本体育大学 400030x:7

〔福〕●坪内 剛一田中宏治

〔日〕○高橋速水一片岡大洋

(本)伊藤皓二②、石寄祥悟

(二)芳賀慎二郎

【評】日本体育大学が投打に相手を圧倒し2年連続28回目の優勝を飾った。福岡大学も7回に連打で意地を見せたが、結局安打はその2安打だけではどうすることもできなかった。

大会タイ記録

無安打無得点試合：高橋速水(日本体育大) 通算14人目

満塁本塁打：重藤雄太(広島工業大)・五郎丸辰美(熊本学園大)・野田郁雄(中京学院大) 通算24~26人目

男子大会打撃ベスト20(規定打席数12以上)

左打	位置	選手名	大学名	打席	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打点	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	DP	大嶋 匠	早稲田	12	11	6	4	5	・	・	1	2	・	1	7	・	2	1	1	0.545	4
○	3	椎葉 巨将	同志社	12	11	6	・	1	・	1	・	2	・	5	7	・	・	・	1	0.545	4
	5	伊藤 皓二	日本体育	15	13	7	5	5	・	2	・	1	1	5	9	・	2	・	1	0.538	5
○	6	甲斐 翔太	同志社	14	14	7	5	・	・	・	・	1	1	1	7	・	・	2	・	0.500	4
○	64	西村 一哉	早稲田	12	12	6	5	2	・	・	・	4	・	1	6	・	2	・	1	0.500	4
○	9	小野 晃弘	関西	12	10	5	2	2	1	1	・	1	1	2	6	・	・	1	・	0.500	3
	9	石寄 祥悟	日本体育	15	13	6	6	8	・	1	1	1	・	2	8	・	3	・	・	0.462	5
○	7	工藤 慎平	早稲田	12	11	5	3	・	・	1	・	4	1	2	6	・	・	・	2	0.455	4
	4	佐藤 祐輔	日本体育	14	12	5	2	3	・	2	・	2	・	4	7	・	1	・	1	0.417	5
○	4	田中 秋人	福岡	13	12	5	2	4	・	1	・	2	・	2	6	・	・	1	1	0.417	5
	8	田子 光	同志社	13	12	5	3	3	・	1	・	2	・	2	6	・	・	2	1	0.417	4
○	8	吉田 憲	早稲田	16	15	6	3	3	1	・	・	3	2	4	6	・	・	1	1	0.400	4
	5	藤澤 彰大	早稲田	15	13	5	5	5	・	2	・	3	1	2	7	・	3	1	・	0.385	4
	6	祝 弘樹	日本体育	13	11	4	1	3	1	1	・	・	・	2	5	・	1	1	・	0.364	5
○	7	豊永 諒	日本体育	16	14	5	7	1	・	2	・	1	3	2	7	・	・	・	1	0.357	5
	2	田中 宏治	福岡	15	14	5	5	4	・	・	1	2	・	1	6	・	1	・	・	0.357	5
	2	北澤 慶介	早稲田	14	14	5	4	8	・	・	・	2	・	1	5	・	4	・	・	0.357	4
○	16	久我 貴大	早稲田	13	12	4	4	7	1	・	・	2	1	1	4	・	1	1	1	0.333	4
○	DR	芳賀慎二郎	日本体育	13	12	4	3	2	・	・	1	4	1	3	5	・	1	・	1	0.333	5
○	8R	亀田 亮治	日本体育	18	17	5	3	1	・	1	・	5	・	2	6	・	・	・	1	0.294	5

男子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング11以上)

左 投	選 手 名	大 学 名	投球回	打 席 数	打 者 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 打	与 四 球	与 死 球	奪 三 振	被 本 打	暴 投	不 正 投	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
	高橋 速水	日本体育	30	98	96	9	1	1	・	2	・	42	1	・	・	356	0.23	5	0	5
	開田 卓人	大阪産業	20	78	74	17	2	1	2	1	1	30	・	2	・	285	0.35	2	1	3
	川根 豪	同 志 社	18	68	62	6	4	1	1	5	・	23	1	・	・	253	0.39	2	1	3
	徳本 慎	名 桜	11	44	40	7	2	1	・	3	1	9	・	2	・	152	0.64	1	1	2
	坪内 剛	福 岡	31	120	115	21	9	6	2	2	1	51	4	2	・	457	1.35	4	1	5
	村枝 友弥	崇 城	13	58	57	13	7	3	・	1	・	10	1	2	・	195	1.62	1	1	2
	望月 孝典	中 京	19	72	67	11	6	5	1	2	2	12	1	・	・	240	1.84	2	1	3
	嶋田 智希	環太平洋	13	54	47	13	6	5	2	4	1	21	1	・	・	205	2.69	1	1	2
	久我 貴大	早 稲 田	20	92	78	21	9	8	4	6	4	12	1	・	・	318	2.80	2	1	4
	藤井 優人	関 西	17.2/3	84	66	17	10	9	1	12	5	10	2	1	・	304	3.57	2	1	3

全日本大学ソフトボール選手権大会を終えて…

日本体育大学主将 佐 藤 祐 輔

まず、はじめに今大会を通して、大会関係者の皆様をはじめ、今大会に参加し、大会を盛り上げてくれた各チームの選手たち、多大なるご支援ご協力を賜りました皆様に、心から感謝申し上げます。

この度の全日本大学選手権大会では大学としては28回目の優勝を果たし、2連覇することができ、大変喜ばしく思っていることと同時に、心からほっとしております。

この1年間を振り返ってみると、今年の日体大は、チームも選手一人一人も飛躍した年であったと思います。昨年、5年ぶりの優勝をして、この1年は前年と違った思いでソフトボールに取り組んでいました。迫る立場から追われる立場に変わりましたが、この夏に連覇することを目標に、今年も頂点を奪いにいくという野心を強く持ち新チームがスタートしました。この大会にかける思いは強く、連覇するために何が必要か考えました。

まず、新チームになって監督になにも言わせないチームになることを目指してきました。強いチームの監督はあまり発言しません。それは、監督

の思っていることを選手が理解し、監督より先に発言でき実践できるからです。そういったチーム作り、意識づけを選手にさせることで、選手主体に練習ができるようになりました。選手達も自主的に練習するようになり、自立して行動できるようになりました。そして、全体練習は成長の発表とアピールの場、連携の確認の場とし、個人練習は、成長を伸ばす場として大事にさせました。

選手一人一人、ソフトボールに対して素晴らしい考え方を持っている人間の集まりなので、選手主体で練習を行ったことで質の良い練習ができ、練習内容も幅が広がり、戦術も増えていきました。そして、戦力を上げるために、チームの控え選手の成長を求めました。今年のチームの練習試合や紅白戦では、レギュラーメンバーを頻繁に変えました。打順やポジションを固定せず、結果や取り組み次第でスタメン起用する仕組みでオーダーを組んでいきました。控え選手が成長しレギュラーメンバーとポジション争いをさせることで相乗効果が生まれ、競争心のある練習をすることができたと思います。そして、チームの底上げができた

ことで選手層も厚くなりチーム力が上がりました。これらのことを実践していくことで試合をするごとに力をつけ、最後には、よいチームができたと思います。

今回優勝できたのは、多くの方々からの支えがあったからこそと深く感謝をしております。温かく見守ってくれた監督、コーチ。スタンドから熱

い声援をいただきいつも支えて下さる父兄の方々。いつも激励してくださるOBの先輩方、いままでお世話になったたくさんの方々、すべての人の支えに感謝したいと思います。そして、伝統を受け継ぐ後輩達への温かいご支援をこれからもお願いいたします。

文部科学大臣杯第44回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成21年8月28日(金)～8月30日(月)

会場：宮崎県宮崎市／生目の杜運動公園アイビースタジアム・軟式野球場他

大会概要

東北福祉大学(宮城)2年連続優勝を飾る!!

大会記録長：遠藤正人

8月27日の開会式は、宮崎県総合運動公園木の花ドームで、男女一緒に開催された。当初の心配をよそに、どのチームも真面目な入場行進で、引き締まった開会式となった。宮崎県ソフトボール協会からは、その中でも入場行進優秀賞として男子早稲田大、女子日体大・東女体大・早稲田大に本県特産物を贈呈し、その素晴らしい行進を讃えた。

大会は、1試合だけ夜間照明を点灯したが、好天に恵まれ順調に消化されていった。2回戦では大阪大谷が東北福祉に5安打ずつと善戦したが決定打があと1本出ず、最小点差で負けた。また、東女体大は早稲田に9安打と打ち勝ちながらも9残塁とこちらもあと1本が出ず惜敗した。また、準々決勝では立命館が2安打ながらも1点をもぎ取り、早稲田の猛攻に耐え、次へ駒を進めた。準決勝では、園田が10安打と打ち勝ちながらも、6安打の日体大に最小点差で惜敗した。決勝は、ワールドゲームズの代表を多くそろえる東北福祉大

が日体大に貫禄勝ちを納めた格好となって2年連続3回目の優勝に輝いた。

印象に残った選手としては、まず決勝戦に勝ち上がった両投手、東北福祉大・長南友子投手と日体大・重藤恵里投手が上げられる。長南投手は、決勝までの4試合26インニングスの内の25インニングスを投げ抜き、わずかに失点1という、その安定感は今大会随一といって良い。同じく、重藤投手は2回戦の松本大戦では無安打無得点試合を成し遂げるなど活躍が光っていたが、さすがに決勝戦ではその疲労がピークに達していたのか、東北福祉大の強力打線に打ち込まれたのが悔やまれる。打者では、通算3本塁打、打率も0.667とずば抜けた成績を残したのが環太平洋大・州鎌夏子選手であった。他には、日体大の武藤恵理選手、環太平洋大の山田絢音選手、立命館の青野可奈選手、東北福祉大の井上愛選手、同じく白山祐衣選手などが5割を超える高打率を残す素晴らしい打撃を見せた。



大会講評

インカレの厳しさから世界へ羽ばたけ!!

広報記録部 矢澤久史

宮崎県宮崎市生目の杜運動公園で開催された第44回全日本女子大学選手権は、東北福祉大学の2連覇、3度目の優勝で幕を閉じた。東北福祉大学は初戦となった2回戦の大阪大谷大学戦に2-1という僅差で勝利を収めると、準々決勝では中京大学を8-0、準決勝の立命館大学を7-0、決勝では日本体育大学を10-0で破るという圧勝で優勝を決めた。エース長南投手が相手打線をほぼ完全に抑えると共に、鉄壁の守備で相手に得点を許さず、打では打線が一気に畳みかけて1イニング3点以上の得点を取り、試合を決めるという無敵の試合運びであった。

準優勝は、準決勝で園田女子大学との打撃戦を制した日本体育大学であった。決勝の東北福祉大学戦では4回までに10点を失い、早々と序盤で勝負を決められてしまった。大会を締めくくる最後の試合である決勝では、東北福祉大学の2連覇の阻止に挑む日本体育大学の奮闘が期待されていただけに、序盤で勝敗の行方が決ってしまったことは、非常に残念であった。

3位には園田学園女子大学と立命館大学の関西勢が入った。立命館大学は、準々決勝の早稲田大学戦では打線が2安打に抑えられたものの、この2安打で挙げた1点を見事に守りきり、出場10回目での初めての3位入賞であった。ベスト8には、以上の4チームに加えて、東京地区の早稲田大学、中京大学と東海学園大学の東海勢、中国地区の環太平洋大学が入り、地域別では、北海道・東北1、東京2、東海2、関西2、中国1と非常にバランスが取れた結果となった。

また、今大会は新興勢力の力が目立った大会でもあった。初出場で龍谷大学をタイブレーカーで破り、初戦突破した1・2年生だけの山梨学院大

学、これも加盟2年目で初出場を果たした鈴鹿国際大学、インカレ常連校の神戸親和女子大学に0-3と健闘した北翔大学、インカレ3年目で初勝利を挙げた日本文理大学、以上のフレッシュなチームの健闘は夏の宮崎に新しい風を送り込んでいた。来年初めて4年生までがそろそろ環太平洋大学も加えて、来年度の活躍が十分期待できるチームであった。

その一方で、前年度の準優勝校である大阪国際大学の予選落ちは、インカレに出場することがいかに難しくなっているかを物語るものであった。前年度の優勝・準優勝校が出場できないというのは初めてのことである。そのほかにも、今回の優勝チームである東北福祉大学に北海道・東北地区予選で惜しくも9-8で敗れたものの、6回表までは8-4でリードしていた富士大、42回の大会出場を誇り前年度3位の日本女子体育大学など、これまでのインカレ常連校が今年は代表権を落とすなど、各地区とも最後の1つの出場枠を巡る戦いは熾烈なものであった。

ところで、インカレのほぼ1ヶ月前の7月17日~20日に台湾・高雄市で開催された「ワールドゲームズ2009」では、大学日本代表が悲願の金メダルを獲得した。大学日本代表メンバーの投手陣は、長南（東北福祉大学）、重藤（日本体育大学）、西岡（園田学園女子大学）の3選手であり、今回のインカレでもチームのエースとして活躍し、チーム上位進出の原動力となっていた。この3選手の他にも、ワールドゲームズの経験を大きく生かし、日本代表選手はインカレにおいて各チームの中心選手として、大活躍していた。

昨今の経済状況の悪化で、実業団のチームが廃部、休部に追い込まれている。幸いなことに大学女子のチーム数はここ数年でも増加傾向にある。各選手には、単にインカレ優勝を目指すだけでなく、世界へと目を向け、日本の女子ソフトボール界の発展の中心を担っていくことを目標にして練習に励むことを期待したい。

大会結果

	28日(金)	29日(土)	30日(日)	
1. 東北福祉大学(7)		2		
2. 信州大学(7)	0	1	8	
3. 大阪大谷大学(9)	28			
4. 日本文理大学(3)	2	3	7	
5. 国士舘大学(16)	1	0		
6. 中京大学(34)		4		
7. 東京女子体育大学(44)		2		
8. 愛媛女子短期大学(12)	1	3	0	
9. 早稲田大学(6)	8			
10. 城西大学(7)	5	8	0	立命館大学
11. 立命館大学(10)	6	1		
12. 鳥取短期大学(24)		1		
13. 日本体育大学(44)		6		
14. 松本大学(4)	5	0	8	
15. 鈴鹿国際大学(初)	3			
16. 龍谷大学(13)	2	1	7	
17. 山梨学院大学(初)	4	0		
18. 東海学園大学(8)		7		
19. 淑徳大学(12)		1		日本体育大学
20. 環太平洋大学(3)	13	3	2	
21. 東海大学(24)	0			
22. 北翔大学(6)	0	0	6	園田学園女子大学
23. 神戸親和女子大学(10)	3	5		
24. 園田学園女子大学(32)		1		

東北福祉大学
(2年連続3回目)

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（8月28日）1回戦

信州大学 00000 : 0
大阪大谷大学 13870 x : 28

〔信〕●下田みさと、天谷美怜、下田みさとー
外山純子

〔大〕○西畑里奈、安部朱織ー植松小夏
(三)乾 理沙②、渡邊聖子、植松小夏、
検校千果②
(二)村川由香梨、渡邊聖子②、木峰翔子、
内村晴香

【評】大阪大谷、投打に圧倒！

村川の4安打を含む先発全員の23長短打で大量
28得点した大阪大谷が完封リレーで初戦を突破し
た。

日本文理大学 0000011 : 2
国士舘大学 0000001 : 1

〔日〕○北岡沙織ー古賀知華
(三)古賀知華 (二)池田理紗

〔国〕●菊池美奈、高橋愛未、舩窪 静ー
矢内麻美
(二)矢内麻美

【評】日本文理大学、粘りのソフトで辛勝！

両チーム無得点で迎えた6回、古賀の適時三塁
打で先制。7回にも池田の二塁打で追加し、粘る
国士舘を北岡が被安打7、1失点に抑えた。

早稲田大学 0010304 : 8
愛媛女子短期大学 0100000 : 1

〔早〕○山下友香、山田真由子ー豆野ふみ
(本)内田はるか、五十川智美
(二)栗原八寿子②

〔愛〕●ホーレ ティーナ川満、田中詩織ー堤 万里子、
岡田沙織
(本)島田明日美

【評】終盤の猛攻、早稲田大勝！

同点で迎えた5回、内田の中越3ランで勝ち越
し、7回にも内田・高橋の連続適時打の後、五十
川の2ランでダメを押した。

城西大学 4000100 : 5
立命館大学 140100 x : 6

〔城〕●野村美和子ー塩野梨沙
(三)熊山智佳
(二)熊山智佳、高橋裕未、板屋莉奈
〔立〕池田典子、○藤本理沙、真鍋美貴ー
落合夕佳
(二)青野可奈②

【評】立命館、リード許すも継投で2回戦進出！
4点リードされた立命館だが、3安打した青野
の活躍などで城西をかわした。

鈴鹿国際大学 0000210 : 3
松本大学 100040 x : 5

〔鈴〕●矢田文香ー山下奈那華
(二)宮澤早紀
〔松〕○伊東摩耶ー小山彩夏
(本)井出綾子 (三)山崎奈美佳

【評】再逆転の松本、伊東の粘投で逃げ切る！
逆転された松本は5回、竹内の同点打の後、井
出の左越3ランで逆転。鈴鹿の反撃を1点に抑え
2回戦に駒を進めた。

山梨学院大学 001000012 : 4
龍谷大学 001000010 : 2

〔山〕○畑迫遼子ー岡田佳織
(二)小池美保、市川奈那美
〔龍〕●島津あゆみー田井静華
(三)谷口由記 (二)石田侑利、前出由佳

【評】攻めのソフトで山梨学院、延長を制す！
9回表、舩田の内野安打・盗塁で二・三塁とし、
投手ゴロ、遊撃ゴロで2点を奪い、ナイター戦を
ものにした。

環太平洋大学 22441 : 13
東海大学 00000 : 0

〔環〕○江里口淳子、難波亜侑、西村周子ー
三崎奈緒
(本)洲鎌夏子、藤原めぐみ
(三)山田絢音 (二)外間 光、神山みどり
〔東〕●杉山奈々恵、泉館佳世ー草苺有里恵

【評】環太平洋、攻守の歯車がかみ合い大勝！

環太平洋は初回、洲鎌の 2 ランで先制。その後も追加点を加えると、毎回安打の猛攻で東海を退けた。

神戸親和女子大学 0 0 0 1 1 1 0 : 3
北 翔 大 学 0 0 0 0 0 0 0 : 0

〔神〕○山田麻未－大塚 潤

(二)新田 和、新井賢紗、大塚 潤

〔北〕●永木絵美里－鈴木美貴

【評】山田 1 安打完封、神戸親和女子白星発進！

1 点をリードした神戸は 5 回、浅井の中前適時打で差を広げ、守っては山田が 6 回まで完全試合を演じる好投を見せた。

▼第 1 日（8 月 28 日）2 回戦試合結果

大阪大谷大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1
東北福祉大学 1 0 0 0 1 0 x : 2

〔大〕●田家由里－下山洋子

(三)検校千果 (二)下山洋子、渡邊聖子

〔東〕○長南友子－石田奈々

【評】東北福祉、投手戦を制す！

初回幸先良く 1 点を奪った東北福祉は 5 回にも助川の中前打で 1 点を追加。最終回、長南が連続長打を浴びるも堅い守りがエースを支えた。

日本文理大学 1 0 0 0 0 2 0 : 3
中 京 大 学 0 0 1 0 0 0 3x : 4

〔日〕●北岡沙織－古賀知華

(三)吉岡美保、黒木沙希

〔中〕瀧敦子、佐藤香織、○小沢佳那子－佐藤瑠

(二)駒野まみ

【評】中京、鮮やか逆転サヨナラ！

日本文理・黒木の三塁打で勝ち越しを許した中京だったが、7 回、四番駒野の適時二塁打で同点とすると、北林の中前打でサヨナラ劇を演じた。

環太平洋大学 0 1 2 0 0 0 0 : 3
淑 徳 大 学 0 0 0 0 0 1 0 : 1

〔環〕○江里口淳子、木村久美－三崎奈緒

(本)洲鎌夏子 (二)洲鎌夏子

〔淑〕●関根有希－篠田美穂

(本)篠田美穂

【評】環太平洋、先制逃げ切り。

環太平洋は四番洲鎌の活躍で序盤にリード。江里口・木村の継投で淑徳の反撃をソロ本塁打の 1 点に抑え 3 回戦に進んだ。

神戸親和女子大学 0 0 0 0 0 0 0 0 : 0
園田学園女子大学 0 0 0 0 0 0 0 1x : 1

〔神〕●山田麻未－大塚 潤

(二)松田京子

〔園〕○西岡里恵－岡 恵利華

(二)西岡宏華

【評】関西決戦は園田に軍配！

両投手の好投で無得点のまま延長へ。迎えた 8 回裏、四番尾崎が左前打し、投手戦に終止符を打った。

▼第 2 日（8 月 29 日）2 回戦

東京女子体育大学 0 0 1 0 0 1 0 : 2
早 稲 田 大 学 0 0 0 2 0 1 x : 3

〔東〕●森 さやか－鶴澤真緒

(本)森 さやか (二)原野愛美、石上美沙

〔早〕○山下友香－星野ふみ

(二)内田はるか

【評】山下、粘りの投球で 1 点差を守りきる！

同点とされた早稲田は 6 回、敵失で逆転。山下は毎回安打されながらも頭脳的な投球で幾度もピンチをしのいだ。

鳥取短期大学 0 1 0 0 0 : 1
立 命 館 大 学 0 3 5 0 x : 8

〔鳥〕●宮崎 恵－廣田紗希

〔立〕○藤本理沙、宮本佳奈－落合夕佳、高岡夏海

(本)船越里奈 (三)谷口紗代

(二)濱崎可央理

【評】立命館打線爆発、準々決勝進出！

適時失策で先制された立命館だが 2 回、船越の右越え 3 ランであっさり逆転。3 回にも谷口、濱崎の適時長打で 5 点を追加し、鳥取短期を退けた。

日本体育大学 0031200 : 6

松本大学 0000000 : 0

〔日〕○重藤恵理佳ー武藤理恵、谷井 愛

(本)佐々木結翔 (三)林 優貴

(二)三澤秋菜、武藤理恵②

〔松〕●伊東摩耶、塩沢明日香ー小山彩夏

【評】エース重藤、ノーヒットノーラン達成！

四番佐々木の2ランなどでリードを広げた日体大は、毎回14奪三振を奪う重藤の好投で圧勝した。

※重藤恵理佳（日体大）無安打無得点試合 大会11人目（8年振り） 投球数92、三振14、内ゴ7、四球1

東海学園大学 2012200 : 7

山梨学院大学 1000000 : 1

〔東〕大野由貴、○勢村香織ー上田彩生、

林 萌絵

(二)村瀬夏奈、岡村珠希、稲垣ゆみこ

〔山〕●末武若奈、森藤真以、畑迫遼子、

末武若奈ー岡田佳織

(二)舩田妃美呼、市川奈那美、轟 優花

【評】東海学園、全員ソフトで初戦を突破！

東海は1回、四番村瀬の適時二塁打で先制。3回以降も四死球で得た好機に適時打が生まれ、山梨学院を突き放した。

▼第2日（8月29日）準々決勝戦

東北福祉大学 0000044 : 8

中京大学 0000000 : 0

〔東〕○長南友子、松浦由佳ー石田奈々

(三)井上 愛 (二)井上 愛

〔中〕●小沢佳那子ー佐藤 瑤

(二)小沢佳那子

【評】我慢くらは東北福祉に勝利の女神！

5回まで演じた投手戦は6回、無死満塁の好機に右前にふわりと落ちた2点適時打から東北福祉に流れが傾き大量点で勝利した。

早稲田大学 0000000 : 0

立命館大学 001000x : 1

〔早〕●山下友香ー豆野ふみ

(二)高橋沙耶香

〔高〕○池田典子ー落合夕佳

【評】緊迫の投手戦、立命館1点を守りきる！

立命館は3回、木村の適時打で1点を奪うと、池田が少ないピンチも動ぜず点を与えなかった。早稲田・山下は被安打2に抑えながらも無念の涙を流した。

日本体育大学 33101 : 8

東海学園大学 00000 : 0

〔日〕○重藤恵理佳ー武藤理恵、谷井 愛

(本)近藤清香、谷井 愛

(二)佐々木結翔、三澤秋菜

〔東〕●荻野亜衣、勢村香織ー上田彩生、林 萌絵

【評】攻守に隙なし日体大！

初回、ヒットエンドランで先制した日体大は三澤の2点三塁打。その後も近藤・谷井のソロアーチも飛び出すと重藤が危なげない投球で被安打2の完封。

環太平洋大学 0002000 : 2

園田学園女子大学 120110x : 5

〔環〕●江里口淳子、木村久美、溝渕彩美ー三崎奈緒

(本)洲鎌夏子 (三)千原香奈

〔園〕○西岡里恵ー岡 恵利華

(本)谷池紫穂

【評】園田、好機を生かし準決勝進出！

園田は先頭打者が出塁した4度の得点機すべてに得点を重ね勝利を得た。環太平洋は洲鎌の3試合連続本塁打を生かせなかった。

▼第3日（8月30日）準決勝戦

東北福祉大学 01006 : 7

立命館大学 00000 : 0

〔東〕○長南友子ー石田奈々

(本)白山祐衣 (三)井上 愛

(二)石田奈々

〔立〕●真鍋美貴、池田典子、藤本理沙ー落合夕佳

(二)船越里奈

【評】投打がっちり東北福祉、2年連続決勝進出！

白山のソロ本塁打で先制した東北福祉は、6回にも6本の長短打で大量点を挙げ試合を一方的にした。守っても長南が安打2本に抑える好投を見せ、立命館につけている隙を見せなかった。

日本体育大学大学 3 1 0 0 0 2 1 : 7
園田学園女子大学 0 3 0 1 0 1 1 : 6

〔日〕○重藤恵理佳－武藤理恵

(本)武藤理恵 (二)永井唯菜、近藤清香

〔園〕●西岡里恵－岡 恵利華

(本)谷池紫穂 (二)森田 涼

【評】白熱した乱打戦、日体大逃げ切る！

4点差を追いつかれた日体大は6回、武藤の2ランで再びリード。7回にも1点を加え逃げ切った。園田学園は2回、森田の満塁走者一掃の二塁打。6回には谷池が左中間に深々とソロ本塁打するなど安打数で上回って粘りを見せたが、あと一

歩及ばなかった。

▼第3日（8月30日）決勝戦

日本体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0
東北福祉大学 2 0 5 3 0 0 x : 10

〔日〕●重藤恵理佳、島野真季－武藤理恵、谷井 愛

(二)佐々木結翔

〔東〕○長南友子－石田奈々

(本)井上 愛 (三)塚田真美

(二)増田奈津美、粕張 舞

【評】東北福祉、全員ソフトで優勝の栄冠！

東北福祉は初回、増田の適時二塁打で2点を先制。3回には四番粕張の適時打の後、井上が右越えに3ラン。一方的となった試合となったが、エース長南を中心に無失策で日体大を破り、2年連続3回目の優勝に輝いた。

大会タイ記録

無安打無得点試合：重藤恵理佳（日本体育大）通算11人目

大会新記録

最多三塁打〈チーム・1試合〉6：大阪大谷大学 対信州大学

最多三塁打〈1イニング〉4：大阪大谷大学 対信州大学

女子大会打撃ベスト20（規定打席数9以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打点	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
	6	州鎌 夏子	環太平洋	10	9	6	5	6	・	1	・	・	・	1	7	・	3	・	1	0.667	3
	2	武藤 理恵	日本体育	10	10	6	3	5	・	・	・	1	・	1	6	・	1	・	2	0.600	4
○	4	山田 絢音	環太平洋	10	7	4	2	・	2	・	1	・	・	2	5	・	・	1	・	0.571	3
	6	青野 可奈	立命館	11	11	6	・	4	・	・	・	3	・	5	6	・	・	・	2	0.545	4
○	4	井上 愛	東北福祉	13	12	6	4	6	1	・	・	・	・	2	6	・	1	1	1	0.500	4
	9	白山 祐衣	東北福祉	12	8	4	3	3	・	・	4	・	1	3	8	・	1	・	・	0.500	4
	3	粕張 舞	東北福祉	14	11	5	4	4	・	・	2	・	・	1	7	1	・	・	1	0.455	4
○	6	森田 涼	園田学園	12	11	5	1	3	・	1	・	・	・	4	6	・	・	・	1	0.455	3
	3D	三澤 秋菜	日本体育	11	11	5	2	4	・	・	・	・	・	3	5	・	・	・	2	0.455	4
	5	神山みどり	環太平洋	9	7	3	2	2	1	1	・	・	・	3	4	・	・	・	1	0.429	3
	3	内田はるか	早稲田	10	10	4	3	5	・	・	・	・	・	2	4	・	1	・	1	0.400	3
○	9	西岡 宏華	園田学園	10	10	4	・	1	・	・	・	1	・	2	4	・	・	・	1	0.400	3
	4	大庭もも花	早稲田	10	10	4	2	・	・	・	・	1	2	2	4	・	・	・	・	0.400	3

左打	位置	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	出塁	打妨	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合
○	7	増田奈津美	東北福祉	13	13	5	1	2	・	・	・	・	1	2	5	・	・	・	1	0.385	4
	5	谷池 紫穂	園田学園	10	8	3	4	2	・	2	・	1	・	1	5	・	2	・	・	0.375	3
○	8R	近藤 琴美	園田学園	10	8	3	2	・	2	・	・	・	・	3	3	・	・	・	・	0.375	3
○	9	浜渦 聡美	環太平洋	11	11	4	2	1	・	・	・	1	・	1	4	・	・	・	・	0.364	3
	6	助川 真貴	東北福祉	15	14	5	2	1	・	・	1	・	・	4	6	・	・	・	・	0.357	4
○	DH	尾崎 望良	園田学園	10	9	3	・	3	・	1	・	1	・	2	4	・	・	・	・	0.333	3
	6	高橋沙耶香	早 稲 田	10	9	3	2	1	・	・	1	1	2	2	4	・	・	・	・	0.333	3
	8	清水 沙羅	早 稲 田	10	9	3	・	1	・	1	・	2	1	4	4	・	・	・	・	0.333	3
	2	落合 夕佳	立 命 館	9	9	3	3	・	・	・	・	4	2	・	3	・	・	・	・	0.333	4

女子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング9以上)

左投	選手名	大学名	投球回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本塁打	暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	山田 麻未	神戸親和	14.1/3	53	49	8	1	・	1	3	・	12	・	・	・	197	0.00	1	1	2
	長南 友子	東北福祉	25	92	87	18	1	1	3	2	・	17	・	1	・	344	0.28	4	0	4
	山下 友香	早 稲 田	19	76	69	16	4	3	4	1	2	20	2	・	・	242	1.11	2	1	3
	津島あゆみ	龍 谷	9	38	30	7	4	2	4	2	2	10	・	1	・	142	1.56	0	1	1
	西岡 里恵	園田学園	22	90	79	18	9	5	5	5	1	16	2	・	・	374	1.59	2	1	3
	北岡 沙織	日本文理	13.2/3	64	58	20	5	4	4	2	・	10	・	・	・	237	2.05	1	1	2
○	江里口淳子	環太平洋	10	42	37	11	3	3	3	2	・	3	・	・	・	138	2.10	2	1	3
	畑迫 遼子	山梨学院	9.1/3	42	39	8	4	3	1	2	・	8	・	1	・	163	2.25	1	0	2
	伊東 摩耶	松 本	11.1/3	51	45	13	9	6	3	3	・	8	1	・	・	199	3.71	1	1	2
	重藤恵里佳	日本体育	22	90	80	17	13	12	3	4	3	21	2	・	・	357	3.82	3	1	4

連 覇 へ の 挑 戦

東北福祉大学女子ソフトボール部主将

4年間を振り返ると、様々なことが思い出されます。特に最後の1年は、4年間の中でも22年間の人生の中でも最も充実した時間となりました。

9月に新チームが発足し、私は主将を仰せつかりました。主将という責任・最上級生が持たなけ

ればならない使命感・そして優勝チームを引き継ぐという重圧、期待以上に不安が先行したスタートになりました。特に近年連続で優勝をしたチームがなかったため、「連覇」ということに関しては部長・監督・部員で何度もミーティングを行い

ました。結果「打倒H20東北福祉・良いチームから勝ちきれぬチームへ」のスローガンを掲げて本格的にスタートしました。

私たちは、初めからインカレで勝てるような選手の集まりではありません。しかも、昨年のチームのような組織力があったわけでもなく、まずは「個々のレベルをアップさせ、去年のチームに個で勝るような強さにしよう」と練習が始まりました。チームが成り立てのうちは、組織で束になってかかることよりも、個々のレベルを上げることを優先させていました。その為、練習試合や春の大会では敗戦することが多くありました。「今のままやり続けて、本当に勝てるのか」と、不安になることもありました。事実周囲から「昨年よりチーム力は落ちる。」と言われることも多くありました。そんな中でも前向きに活動できたのは、4年生のミーティングを毎日続けてきたからです。ミーティングをでは「今、上手いかななくても、明日そしてインカレで花咲くチームなろう。どんな困難もみんなで乗り越えていこう。どんな時も前向きに、笑顔でいよう。」とどんなことがあっても毎日気持ちを一つにしていました。勝った時も、負けた時も、良い雰囲気な日も、そうでない日も、毎日欠かさずにミーティングを行ってきました。インカレという大会で一つにまとまったわけではなく、毎日のミーティングが結束を強め最後の優勝という良い形に繋がったのだと思います。

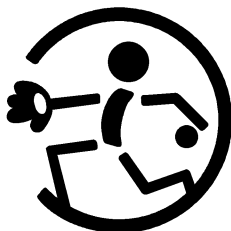
インカレでは、福祉大らしく戦うことができました。全員が役割に徹し、試合に出ている人以上

に出ていない人が汗をかき、それを見て試合に出る選手もさらに頑張り、本当に良いチームになりました。決勝前の部員ミーティングで私は本当にこのチームのキャプテンができて幸せ者だと思いました。それだけ皆が頑張る、そして勝てるといえるチームになっていました。「良いチームから勝ちきれぬチームへ」と成長した手応えを感じました。

5月末私たちはインカレ予選に挑みました。苦戦が続き、今年はインカレに出場できない、負けていた誰もがそう思った大会でした。インカレでは、出るはずのなかった大会だからという開き直りと、東北地区の代表としてとして恥ずかしい試合は出来ないという自覚と雰囲気がチームを後押ししました。

私たちはもともと本当に不器用な集団です。東北という地域柄、外での練習も限られています。4年間で目標を立てることの大切さ、物事に真摯な姿勢で臨むことの大切さ、結果よりも過程を大切にすることを学びました。少し不器用な選手と不足した環境だから生まれてきた価値観だと思っています。インカレという大舞台で力が発揮できたのも、日頃から何事にも前向きに取り組んできた成果だと思っています。

最後になりますが、福祉大ソフトボール部の活動にご協力いただきました、保護者・大学関係者・OG・そして多くの福祉大を応援してくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



第55回全日本総合男子選手権大会

会期：平成21年9月18日（金）～20日（日）

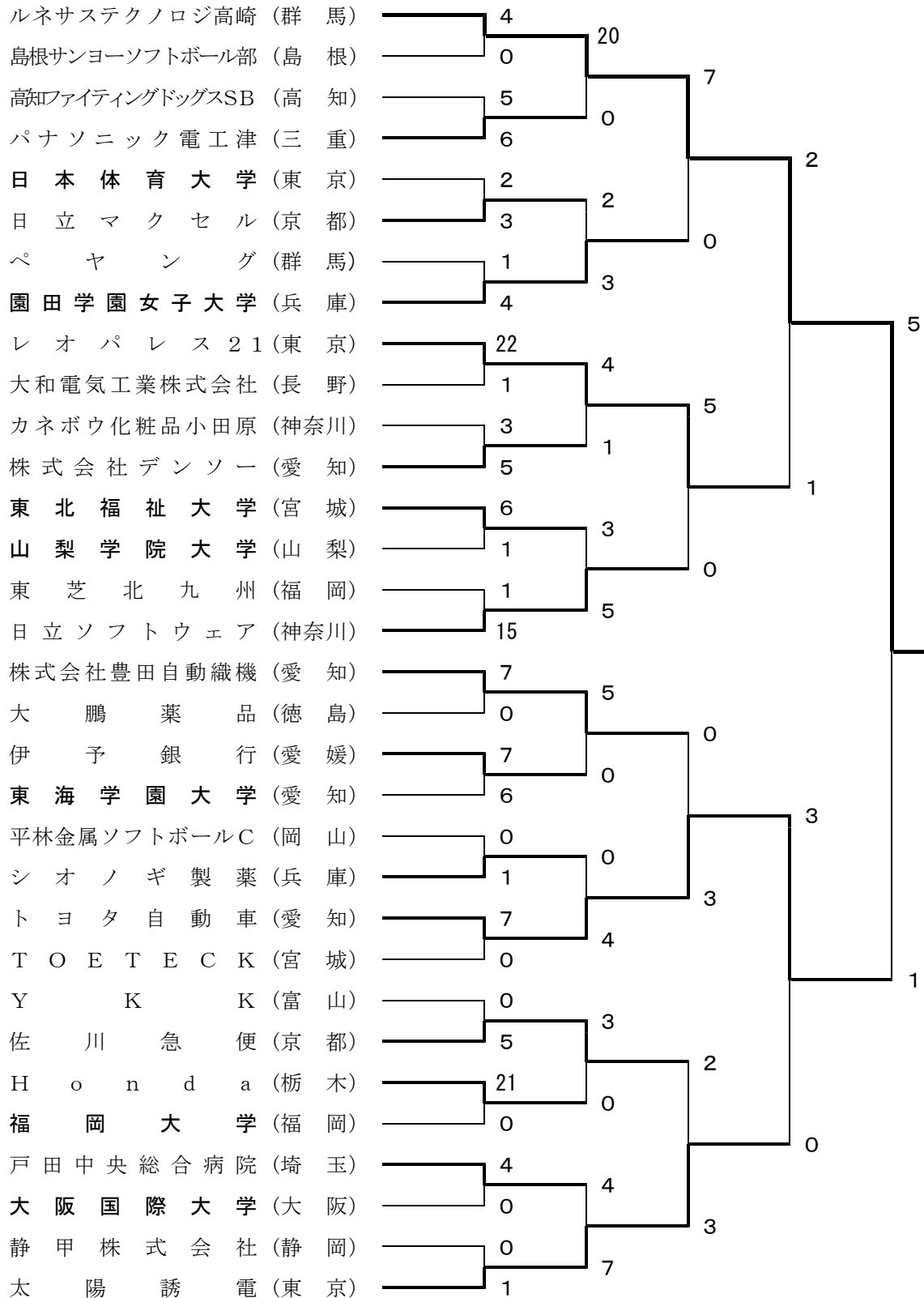
会場：秋田県由利本荘市／由利本荘市ソフトボール場他

チーム名	得点	順位
高崎市役所(群馬)	1	5
環太平洋大学(岡山)	6	1
宮崎黒潮ソフトボールC(宮崎)	4	1
玉園クラブ(師範)	3	5
埼玉県庁クラブ(埼玉)	3	1
金沢教員ソフトボールC(石川)	6	3
日本体育大学(東京)	1	5
岐阜エコデンSC(岐阜)	0	0
鳥取打吹ソフトボールC(鳥取)	4	0
福島ソフトボールC(福島)	2	8
トヨタ自動車(愛知)	3	7
大阪桃次郎(大阪)	4	3
四街道スターズ(千葉)	7	3
豊田自動織機(愛知)	6	0
四国生コンSBC(愛媛)	6	8
S・Tオール大分(大分)	0	6
日立電線ロジテック(茨城)	0	5
平林金属ソフトボールC(岡山)	5	1
川崎造船坂出(香川)	1	9
大阪ツヅキグローバル(大阪)	6	0
吉浦海運S.C(福岡)	0	4
株式会社デンソー(愛知)	6	2
日新製鋼(広島)	10	1
KOA株式会社(長野)	4	0
山梨クラブ(山梨)	2	7
YAMAGATA CLUB(山形)	7	0
静甲株式会社(静岡)	0	2
ダイワアクト(佐賀)	7	8
岡住(大阪)	3	5
常口アトムズ(北海道)	0	0
琉球泡盛残波(沖縄)	3	2
ホンダエンジニアリング(栃木)	1	3

第61全日本総合女子選手権大会

会期：平成21年9月25日（金）～27日（日）

会場：千葉県成田市／大谷津運動公園野球場他



第24回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成21年8月7日(金)～8月10日(日)

会場：茨城県桜川市／真壁運動場他

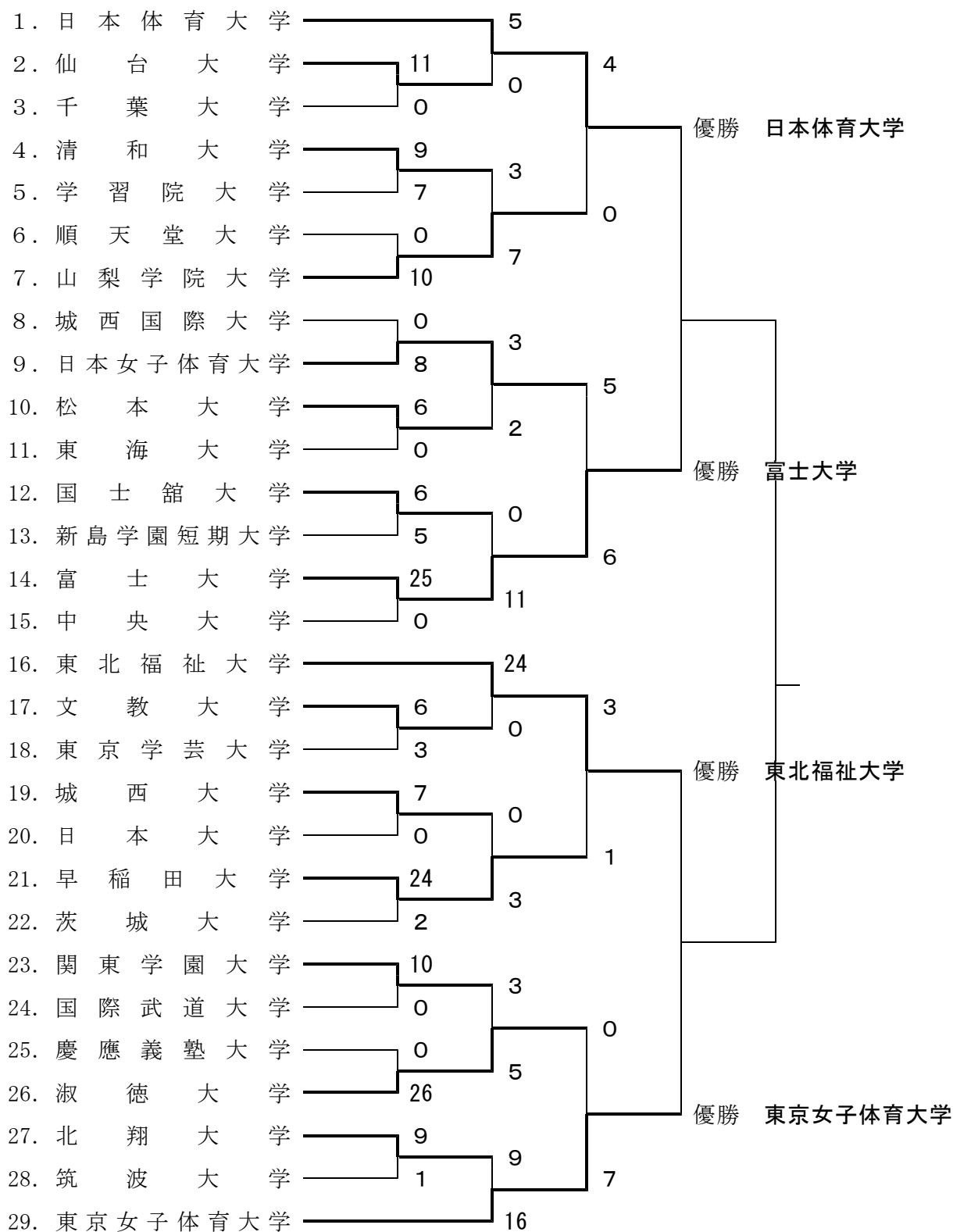
順位	大学名	対戦相手	スコア	結果
1.	日本体育大学	立教大学	5-7	
2.	立教大学	日本大学生産工学部	0-0	
3.	日本大学生産工学部	東京大学	0-0	
4.	東京大学	国際武道大学	8-10	
5.	国際武道大学	茨城大学	11-0	
6.	茨城大学	専修大学	13-0	
7.	専修大学	埼玉大学	2-7	
8.	埼玉大学	桜美林大学	7-7	
9.	桜美林大学	東京理科大学	21-2	
10.	東京理科大学	成蹊大学	1-1	
11.	成蹊大学	関東学園大学	3-8	
12.	関東学園大学	仙台大学	0-8	
13.	仙台大学	中央大学	14-1	
14.	中央大学	筑波大学	13-13	
15.	筑波大学	高崎経済大学	6-4	
16.	高崎経済大学	東京学芸大学	5-9	
17.	東京学芸大学	日本大学生物資源科学部	9-2	
18.	日本大学生物資源科学部	信州大学	10-2	
19.	信州大学	国士舘大学	13-12	
20.	国士舘大学	都留文科大学	1-1	
21.	都留文科大学	東海大学	9-1	
22.	東海大学	日本大学工学部	1-1	
23.	日本大学工学部	文教大学	11-4	
24.	文教大学	福島大学	4-4	
25.	福島大学	慶應義塾大学	1-3	
26.	慶應義塾大学	城西大学	8-7	
27.	城西大学	山梨学院大学	1-8	
28.	山梨学院大学	学習院大学	8-15	
29.	学習院大学	早稲田大学	12-15	
30.	早稲田大学			

台風による雨のため、予備日にも天候の回復が望めず4校の優勝で大会を終了

第24回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成21年8月7日(金)～8月10日(日)

会場：茨城県桜川市／真壁運動場他



台風による雨のため、予備日にも天候の回復が望めず4校の優勝で大会を終了

第41回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成21年 8 月 7 日(金)～8 月10日(日)

会場：兵庫県淡路市／兵庫県立佐野総合運動公園他

大会結果

1. 京 都 産 業 大 学	18	
2. 高 知 大 学	2	
3. 中 京 大 学	5	
4. 名 桜 大 学	4	
5. 東 亜 大 学	7	
6. 長 崎 国 際 大 学	2	
7. 中 部 大 学	8	
8. 京 都 大 学	15	
9. 愛 知 教 育 大 学	7	
10. 神 戸 学 院 大 学	24	
11. 佐 賀 大 学	6	
12. 四 天 王 寺 大 学	7	
13. 大 阪 大 学	11	
14. 広 島 工 業 大 学	4	
15. 愛 媛 大 学	2	
16. 沖 縄 国 際 大 学	9	
17. 愛 知 大 学	2	
18. 福 岡 大 学	20	
19. 近 畿 大 学 工 学 部	10	
20. 香 川 大 学	15	
21. 龍 谷 大 学	9	
22. 九 州 産 業 大 学	0	
23. 日 本 福 祉 大 学	4	
24. 大 阪 産 業 大 学	11	
25. 関 西 大 学	6	
26. 中 京 学 院 大 学	13	
27. 熊 本 学 園 大 学	2	
28. 環 太 平 洋 大 学	12	
29. 同 志 社 大 学	7	
30. 崇 城 大 学	2	
31. 広 島 修 道 大 学	0	
32. 立 命 館 大 学	7	

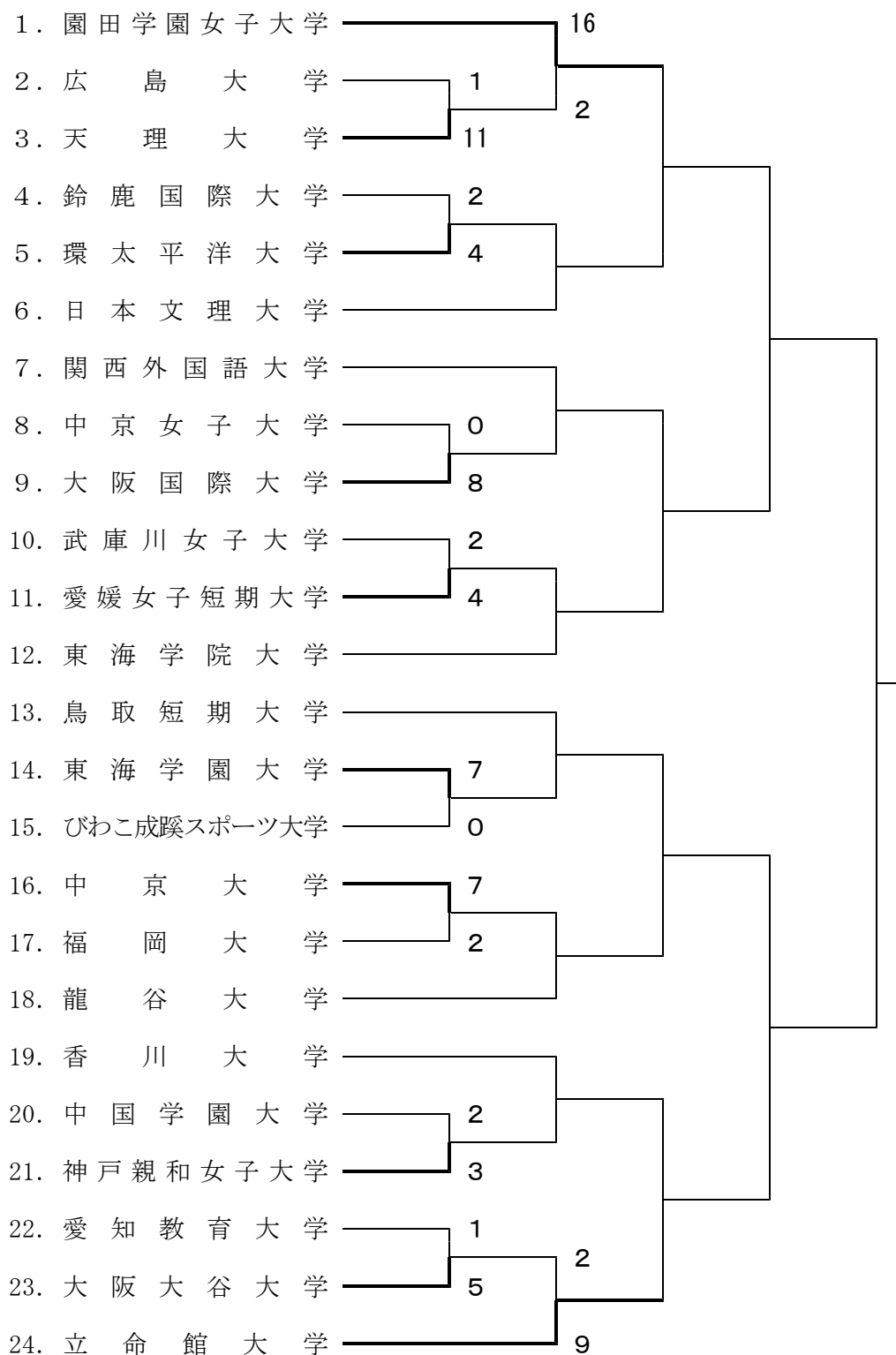
八月九日の試合は雨天のため中止となり、十日も天候の回復が見込めないで、予備日を含めても大会日程を消化できず、やむなく大会は中止されました。

第41回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成21年8月7日(金)～8月10日(日)

会場：兵庫県淡路市／兵庫県立佐野総合運動公園他

大会組み合わせ



八月九日の試合は雨天のため中止となり、十日も天候の回復が見込めないの
予備日を含めても大会日程を消化できず、やむなく大会は中止されました。

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第8回大学ソフトボール東海オープン

会期：平成21年3月17日(火)・18日(水)・19日(木)

会場：愛知県安城市／安城市総合運動公園

男子予選リーグ戦（3月18日）

Aグループ	中 央	佐 賀	南 山	順
中 央		● 4 - 5	● 3 - 8	3
佐 賀	○ 5 - 4		○ 9 - 2	1
南 山	○ 8 - 3	● 2 - 9		2

Bグループ	中京学院	高崎経済	日本福祉	順
中京学院		○ 12 - 0	○ 11 - 0	1
高崎経済	● 0 - 12		● 0 - 10	3
日本福祉	● 0 - 11	○ 10 - 0		2

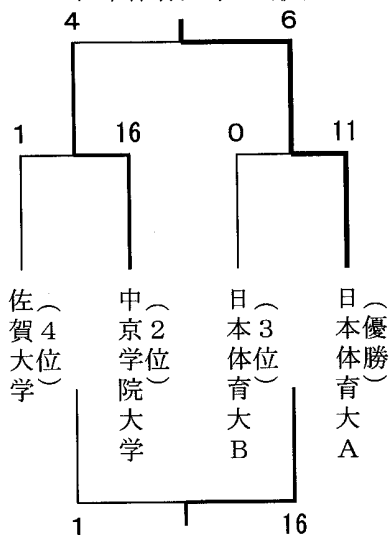
Cグループ	中 京	日 体 B	愛知教育	順
中 京		● 3 - 4	○ 16 - 1	2
日 体 B	○ 4 - 3		○ 29 - 0	1
愛知教育	● 1 - 16	● 0 - 29		3

Dグループ	日 体 A	京 都	岐阜聖徳	順
日 体 A		○ 10 - 0	○ 17 - 0	1
京 都	● 0 - 10		● 0 - 6	3
岐阜聖徳	● 0 - 17	○ 6 - 0		2

男子順位決定戦（3月13日）

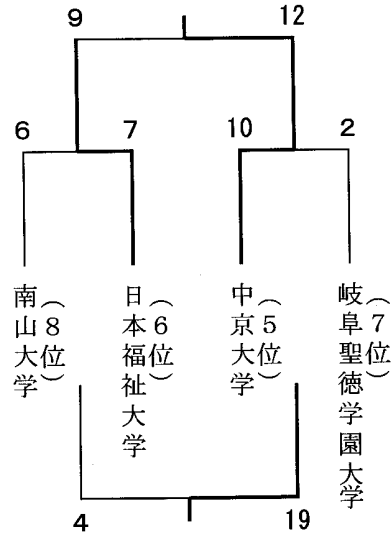
1～4位決定戦

日本体育大学A(初)



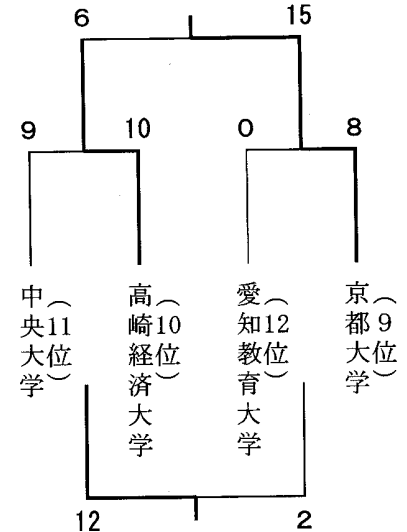
5～8位決定戦

中京大学



9～12位決定戦

京都大学



男子個人表彰

- ・最優秀選手賞：高橋速水（日本体育大学A）
- ・敢闘選手賞：砂川拓博（中京学院大学）

女子予選リーグ戦（3月18日）

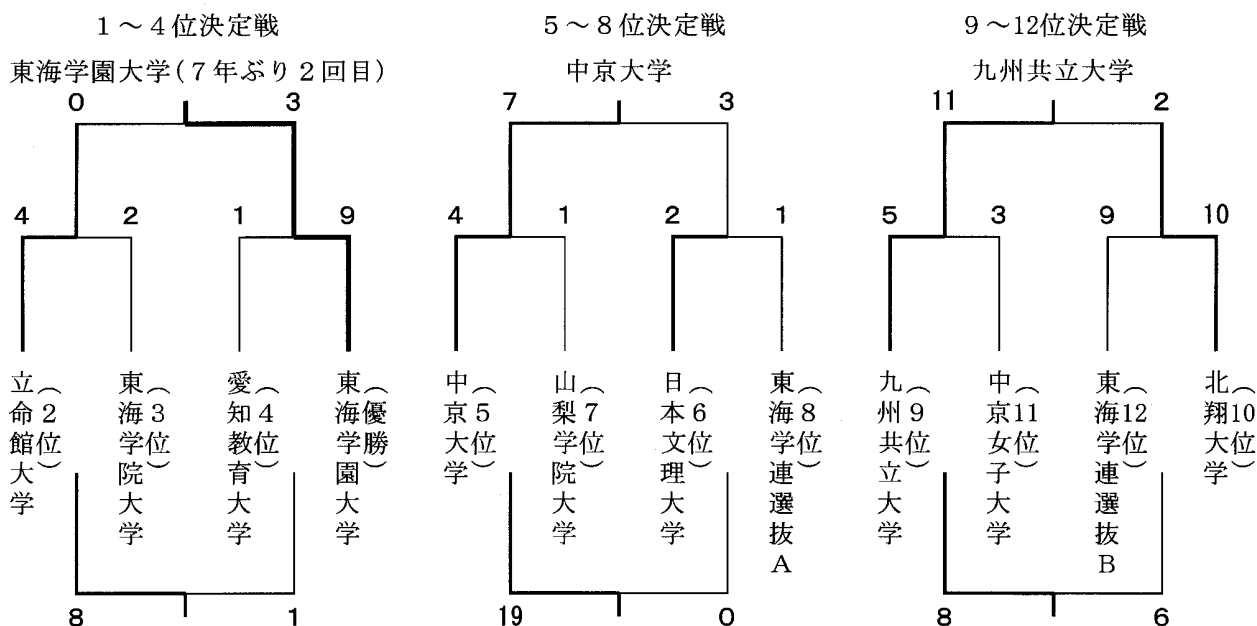
Eグループ	立 命 館	九州共立	中 京	順
立 命 館		○ 9 - 1	○ 2 - 0	1
九州共立	● 1 - 9		● 0 - 2	3
中 京	● 0 - 2	○ 2 - 0		2

Fグループ	山梨学院	東海学院	中京女子	順
山梨学院		● 2 - 6	○ 10 - 2	2
東海学院	○ 6 - 2		○ 9 - 1	1
中京女子	● 2 - 10	● 1 - 9		3

Gグループ	日本文理	愛知教育	選 抜 B	順
日本文理		● 2 - 3	○ 12 - 3	2
愛知教育	○ 3 - 2		○ 4 - 2	1
選 抜 B	● 3 - 12	● 2 - 4		3

Hグループ	東海学園	北 翔	選 抜 A	順
東海学園		○ 9 - 1	○ 4 - 3	1
北 翔	● 1 - 9		● 5 - 9	3
選 抜 A	● 3 - 4	○ 9 - 5		2

女子順位決定戦（3月13日）



女子個人表彰

- ・最優秀選手賞：村瀬夏奈（東海学園大学） ・敢闘選手賞：青野可奈（立命館大学）

講評

春の陽光に恵まれて球春を告げる大会は、九州から北海道まで全国の男女24チームによって、二日間にわたる熱戦が繰り広げられた。特に本大会には昨年インカレ男子優勝の日本体育大学が初参加し、大会全体の質を向上していただいたとともに、参加チームに大きな刺激を与えた。また、第1回以来となるバッテリー研修会が、全日本学連

のご支援でその事業として開催された。男子強化部長の高橋伸次先生の進行で、高橋流星（日体大）・石井賀一郎（中院大）両講師による熱意あふれるご指導を50組以上のバッテリーが受講した。

これから各地区で開催されるインカレ予選や夏のインカレに向けて、本大会で浮き彫りになった課題を修正して臨んでもらいたい。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 水谷 博）

第11回千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会期：平成21年3月23日(月)・24日(火)

会場：東京理科大学野田グラウンド

予選Aブロック

関東学園大学	9		
高崎経済大学	12	1	5
北海道大学	8		
埼玉大学	2	2	10
国士舘大学	6		

予選Bブロック

東京理科大学	24	3	
千葉大学	4		
文教大学	10	18	
学習院大学	7		
千葉大学	10		
学習院大学	11		

予選Cブロック

岐阜聖徳学園大学	17	7	
日本大学生産工学部	7		
東京大学	0	9	
早稲田大学	7		
日本大学生産工学部	4		
東京大学	16		

決勝第Iブロック

文教大学	7	5	
岐阜聖徳学園大学	9		
国士舘大学	1	8	
早稲田大学	6		
文教大学	4		
国士舘大学	16		

決勝第IIブロック

学習院大学	10	2	
高崎経済大学	13	0	
東京理科大学	4		
関東学園大学	14	9	
東京大学	0		

決勝第IIIブロック

北海道大学	5	5	
埼玉大学	6		
千葉大学	7	抽選	
日本大学生産工学部	4	5	
北海道大学	14		
日本大学生産工学部	8		

第10回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成21年4月18日(土)～19日(日)

会場：群馬県安中市松井田町／横川ふれあい運動公園野球場他

男子 横川リーグ

チーム	高崎経済A	千葉	信州	都留文科	勝	分	敗	順位
高経A		○11-4	●5-7	○8-4	2	0	1	1位
千葉	●4-11		○6-4	○12-0	2	0	1	3位
信州	○7-5	●4-6		○19-5	2	0	0	2位
都留文科	●4-8	●0-12	●5-19		0	0	3	4位

※1～3位は大会規定による。

男子 碓氷リーグ

チーム	城西	関東学園	山梨学院	高崎経済B	勝	分	敗	順位
城西		●3-4	●2-4	○15-2	1	0	2	2位
関東学園	○4-3		○13-2	○16-1	3	0	0	1位
山梨学院	○4-2	●2-13		●2-6	1	0	2	3位
高経B	●2-15	●1-16	○6-2		1	0	2	4位

※2～4位は大会規定による。

男子順位決定戦

◇1-2位決定戦：

高崎経済大学A 2-13 関東学園大学

◇3-4位決定戦：

信州大学 0-5 城西大学

◆5-6位決定戦：

千葉大学 7-12 山梨学院大学

◆7-8位決定戦：

都留文科大学 7-16 高崎経済大学B

女子 西横野リーグ

チーム	東海A	新島短期	山梨学院	関東学園	勝	分	敗	順位
東海A		○10-3	●1-4	●0-3	1	0	2	3位
新島短期	●3-10		●3-7	●0-3	0	0	3	4位
山梨学院	○4-1	○7-3		○18-1	3	0	0	1位
関東学園	○3-0	○3-0	●1-18		2	0	1	2位

女子 小日向リーグ

チーム	城西	松本	東北福祉	東海B	勝	分	敗	順位
城西		●0-10	●0-1	○5-2	1	0	2	4位
松本	○10-0		●1-3	●0-1	1	0	2	2位
東北福祉	○1-0	○3-1		○5-0	3	0	0	1位
東海B	●2-5	○1-0	●0-5		1	0	2	3位

※2～4位は大会規定による。

女子順位決定戦

◇1-2位決定戦:

山梨学院大学 6-4 東北福祉大学

◇3-4位決定戦:

関東学園大学 7-0 松本大学

◆5-6位決定戦

東海大学 A 3-3 東海大学 B

◆7-8位決定戦

新島短期大学 1-11 城西大学

【男子最終成績】

優勝: 関東学園大学 準優勝: 高崎経済大学A

第3位: 城西大学 第4位: 信州大学

第5位: 山梨学院大学 第6位: 千葉大学

第7位: 高崎経済大学B 第8位: 都留文科大学

【女子最終成績】

優勝: 山梨学院大学 準優勝: 東北福祉大学

第3位: 関東学園大学 第4位: 松本大学

第5位: 東海大学 A 第5位: 東海大学 B

第7位: 城西大学 第8位: 新島学園短大

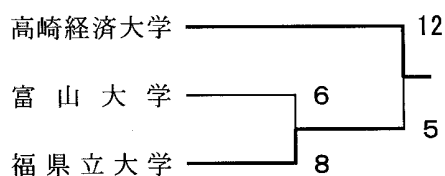
第6回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期: 平成21年6月13日(土)・14日(日)

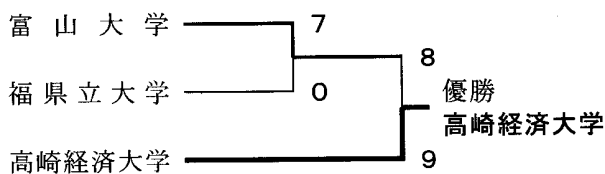
会場: 福井県敦賀市/きらめきスタジアム

男子大会結果

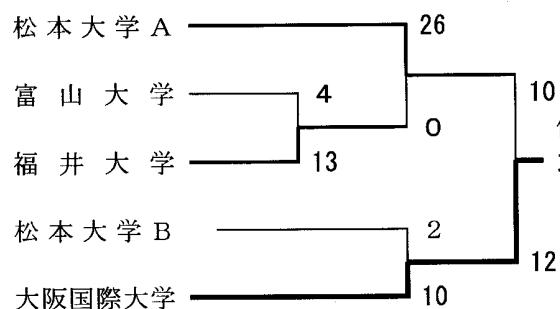
第1日



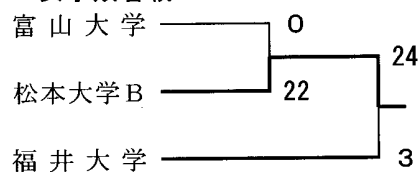
第2日



女子大会結果



女子敗者戦



関東大学ソフトボール連盟創立40周年記念式典兼祝賀会について

関東大学ソフトボール連盟理事長 丸山 克俊

平成21年11月5日（木）、午後6時30分から、関東大学ソフトボール連盟創立40周年記念式典兼祝賀会を、東京都板橋区・ハイレブプラザいたばしにおいて開催いたしました。これは、翌日から開催される「第40回関東大学ソフトボール選手権大会」に先立って挙行了したものです。

当日は、加盟70大学のうち62大学の代表者並びに連盟役員が約200名、全日本大学ソフトボール連盟、そして、1都7県ソフトボール協会の関係役員諸氏並びにボールメーカー2社の代表者が53名、更には、韓国・全羅南道ソフトボール協会から、「第40回関東大学ソフトボール選手権大会」を視察するために来日された5名（通訳2名）を招待して、総勢260名の参加者のもと賑々しく開催することができました。

記念式典では、武藤幸政会長（城西大学・全日本大学ソフトボール連盟副会長）が、40年にわたり本連盟の主催大会を支えていただいた1都7県ソフトボール協会役員諸氏に対して、また、ボールメーカーとしてご支援を頂戴してきた内外ゴム株式会社・ナガセケンコー株式会社様に深甚なる感謝を申し上げるとともに、『感謝状』を贈呈させていただきました。また、本連盟をその創設の頃より永年にわたってご指導いただいた以下の4名の先生に、『特別功労賞（クリスタル盾）』を贈呈させていただきました。

〔特別功労賞〕

- ・ 齋藤滋雄先生（元学習院大学）
- ・ 角田真一郎先生（元早稲田大学）
- ・ 松永尚久先生（元東海大学）
- ・ 吉武敦磨先生（元芝浦工業大学）

以上4名の先生のうち、齋藤・角田両先生には、ご出席を賜り、連盟設立当時からの黎明期のご苦労等についてのお話を伺うことができました。

また、全日本大学ソフトボール連盟からは、一谷宣宏会長の代理として常務理事（事務局長）・

森田啓之先生にご出席いただき、本連盟への温かい激励のメッセージを頂戴いたしました。ここに、改めて、厚く御礼申し上げます。

この記念式典兼祝賀会については、本連盟の中に記念事業実行委員会を立ち上げ、数回にわたる会議を通して、記念誌の刊行・記念品（タオル）の作製などを決定し、当日、関係各位に配布させていただきました。特に、『創立40周年記念誌』については、加盟大学の創部年、OB・OG総数、主な戦績等々を網羅し、各チーム代表者からのチーム紹介のメッセージを掲載いたしました。本連盟としては、40年の歴史の中で初めてのことであり、たいへん興味深い記念誌が刊行できたのではないかと存じ、ご協力いただいた関係各位に心より感謝いたします。

祝賀会の結びとして、岡田万嗣副会長（山梨学院大学・関東学生ソフトボール連盟会長）が、永年にわたりご指導、ご支援いただいた関係各位への敬意と感謝の意を表され、併せて、今後は更に本連盟を充実、発展させる強い決意を述べられたのが印象的でした。

連盟設立当初は、男女合わせて10チームに満たなかった選手権大会は、現在では、男女合わせて50チームに及ぼうとしています。260名の参会者が、星霜40年という歴史と伝統の重さを深く理解できた記念式典兼祝賀会であったと思います。

重ねて、ご協力、ご支援いただきました関係各位、ご来賓の皆様心から感謝を申し上げ、全日本大学ソフトボール連盟機関誌「ウインドミル」誌上をお借りしての、ご報告とさせていただきます。

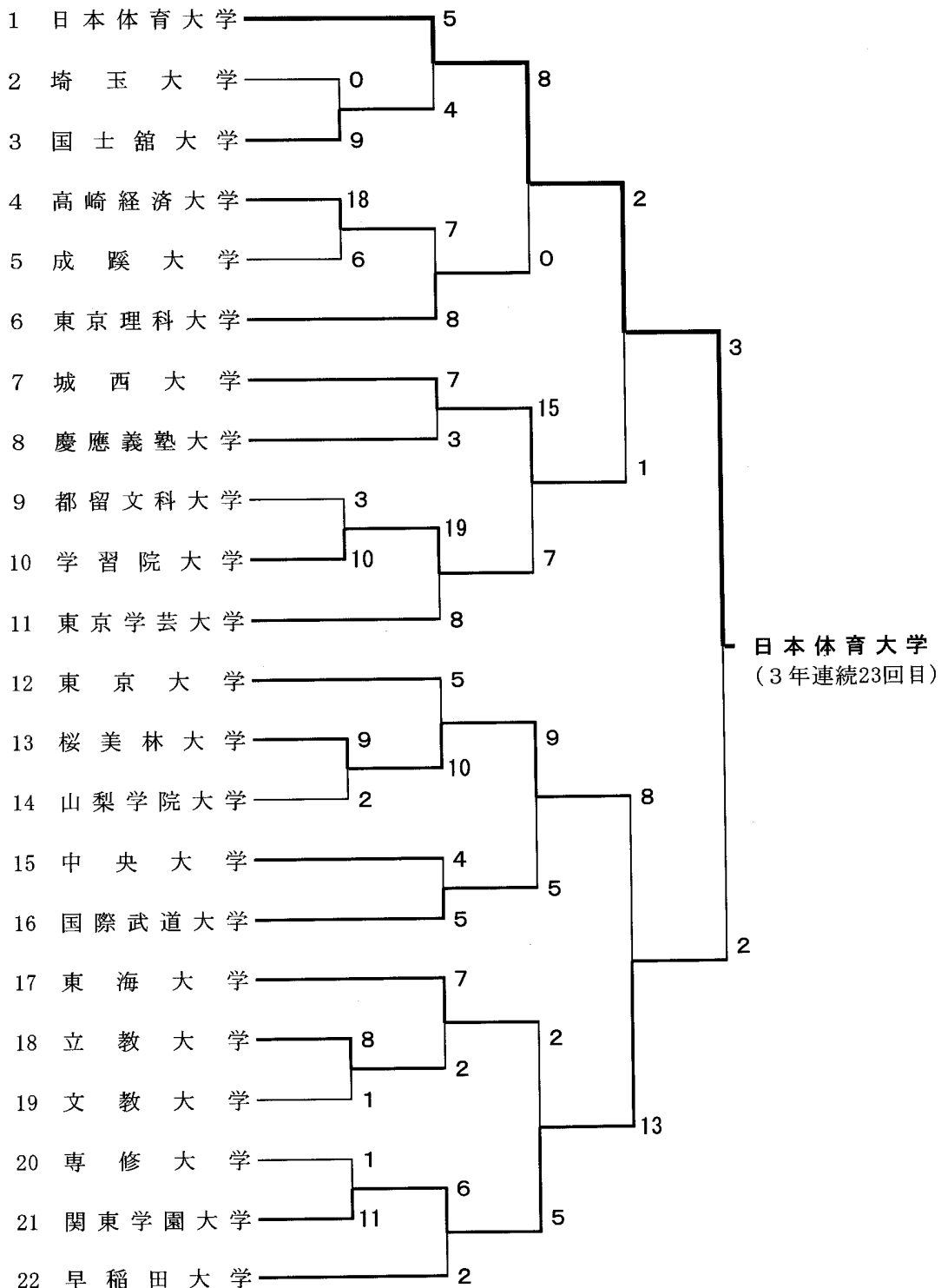


第40回関東大学ソフトボール選手権大会

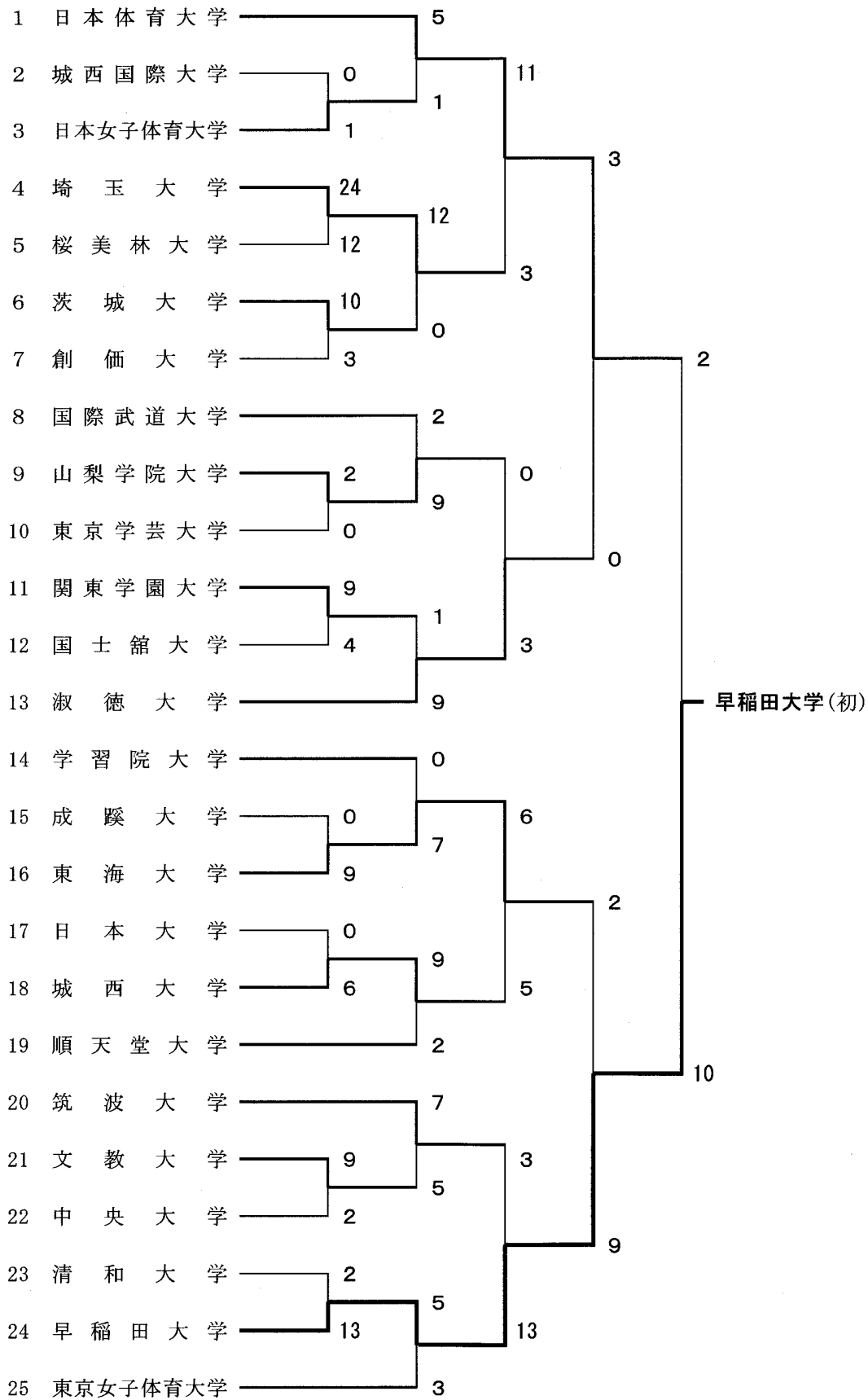
会期：平成21年11月6日（金）～8日（日）

会場：東京都板橋区／区立荒川戸田橋緑地野球場

【男子】



【女子】



大学実業団交流ソフトボール第1回秋季東海オープン

会期：平成21年11月21日（土）・22日（日）

会場：豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

大会趣旨

東海地区大学ソフトボール連盟は、トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯と称して「東海オープン」を春に開催してきたが、時期的に参加チームが限られて強化と交流の面から一段の工夫が求められていた。そこで、昨年秋に中京大学を会場に開催した研修会が好評で、これを発展さ

せてはという気運が盛り上がり、今般、愛知県内の女子実業団チームからのご協力も得られ、全国各地を代表する大学女子チームからも参加の希望があったので、出場機会が乏しかった実業団の若手選手と大学生の競技力向上、また実業団チームと大学チームの交流を目的とする大会（研修会）を企画し、開催の運びとなった。

大会結果

Aグループ	トヨタ	日 体	親 和	中 京	DENSO	園 田	淑 徳	東 院	勝	分	敗	順
ト ヨ タ	*	○ 14-1	○ 7-3	*	*	○ 3-0	○ 2-1	*	4	0	0	—
日本体育	● 1-14	*	*	● 3-5	● 3-8	*	*	○ 7-4	1	0	3	—
神戸親和	● 3-7	*	*	● 1-2	● 1-6	*	*	○ 2-0	1	0	3	—
中 京	*	○ 5-3	○ 2-1	*	*	○ 7-3	△ 1-1	*	3	1	0	—
デンソー	*	○ 8-3	○ 6-1	*	*	○ 8-0	○ 5-0	*	4	0	0	2位
園田学園	● 0-3	*	*	● 3-7	● 0-8	*	*	○ 5-0	1	0	3	—
淑 徳	● 1-2	*	*	△ 1-1	● 0-5	*	*	○ 3-0	1	1	2	—
東海学院	*	● 4-7	● 0-2	*	*	● 0-5	● 0-3	*	0	0	4	—

Bグループ	織 機	福 社	国 際	鈴 鹿	松 本	大 谷	I P U	東 園	勝	分	敗	順
豊田織機	*	○ 4-3	○ 3-0	*	*	○ 4-0	○ 9-0	*	4	0	0	優勝
東北福祉	● 3-4	*	*	○ 6-2	○ 2-1	*	*	● 3-5	2	0	2	—
大阪国際	● 0-3	*	*	○ 8-1	● 1-6	*	*	△ 2-2	1	1	2	—
鈴鹿国際	*	● 2-6	● 1-8	*	*	△ 0-0	● 3-4	*	0	1	3	—
松 本	*	● 1-2	○ 6-1	*	*	△ 5-5	● 3-17	*	1	1	2	—
大阪大谷	● 0-4	*	*	△ 0-0	△ 5-5	*	*	● 2-3	0	2	2	—
環太平洋	● 0-9	*	*	○ 4-3	○ 17-3	*	*	● 3-5	2	0	2	—
東海学園	*	○ 5-3	△ 2-2	*	*	○ 3-2	○ 5-3	*	3	1	0	—

※大会は90分時間制で行い、規定により勝ち数と失点率によって優勝と2位を決定した。

※個人表彰 最優秀選手賞：池原 恵（織機）、敢闘選手賞：岡村珠希（デンソー）

【北海道・東北地区】

第30回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 兼、第44回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

会期：平成21年5月23日(土)～24日(日)

会場：山形県南陽市／向山公園ソフトボール場

男子選手権

1. 仙 台 大 学	12									
2. 弘 前 大 学	1	2	11							
3. 北 翔 大 学	8			10						
4. 北 海 道 大 学	4	2								
5. 宮城教育大学	3									
6. 東北学院大学	6									
7. 八戸工業大学	3	10	1							
8. 日本大学工学部	10									
9. 東 北 大 学	4	0								
10. 福 島 大 学	5		5							
11. 盛 岡 大 学	3									

女子選手権

1. 東北福祉大学	9									
2. 富 士 大 学	3	8	19 東北福祉大学							
3. 弘 前 大 学	0									
4. 北 翔 大 学	9	9								
5. 盛 岡 大 学	0		1							
6. 仙 台 大 学	8									

インカレ出場は、東北福祉大学(7年連続7回目)と
北翔大学(19年ぶり6回目)



インカレ出場は、仙台大学(4年連続23回目)と
盛岡大学(2年ぶり9回目)

【関東地区】

第4回関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成21年5月4日(月)・6日(水)・9日(土)・10日(日)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場他

I 部リーグ

チーム	国際武道	東京理科	東 海	関東学園	高崎経済	文 教	城 西	順 位
国際武道		○ 4 - 1	○ 9 - 6	○ 2 - 1	○ 8 - 6	○15- 7	○ 7 - 0	優勝
東京理科	● 1 - 4		● 5 - 14	● 1 - 9	○11-10	●21-18	△ 6 - 6	4 位
東 海	● 6 - 9	○14- 5		● 2 - 6	● 9 - 12	● 5 - 11	● 3 - 11	7 位
関東学園	● 1 - 2	○ 9 - 1	○ 6 - 2		○ 7 - 0	○15-11	● 2 - 6	3 位
高崎経済	● 6 - 8	●10-11	○12- 9	● 0 - 7		△ 8 - 8	● 1 - 18	5 位
文 教	● 7 - 15	●18-21	○11- 5	●11-15	△ 8 - 8		● 3 - 15	6 位
城 西	● 0 - 7	△ 6 - 6	○11- 3	○ 6 - 2	○18- 1	○15- 3		2 位

※5-6位は大会規定による。

II 部リーグ

チーム	千 葉	茨 城	都留文科	日大生資	埼 玉	筑 波	勝	分	敗	順 位
千 葉		○16- 3	○14- 6	● 6 - 10	○ 8 - 7	△ 8 - 8	3	1	1	2 位
茨 城	● 3 - 16		○11- 4	○ 8 - 6	● 4 - 12	● 5 - 18	2	0	3	5 位
都留文科	● 6 - 14	● 4 - 11		●11-12	●17-18	● 0 - 20	0	0	5	6 位
日大生資	○10- 6	● 6 - 8	○12-11		● 8 - 18	○13- 1	3	0	2	4 位
埼 玉	● 7 - 8	○12- 4	○18-17	○18- 8		● 5 - 14	3	0	2	3 位
筑 波	△ 8 - 8	○18- 5	○20- 0	● 1 - 13	○14- 5		3	1	1	1 位

※1-2位、3-4位は大会規定による。

III 部リーグ

チーム	山梨学院	日大生産	芝浦工業	勝	分	敗	順 位
山梨学院		○10- 2 ○ 8 - 3	○ 8 - 2 ● 5 - 11	3		1	1 位
日大生産	● 2 - 10 ● 3 - 8		○19- 2 ● 3 - 8	1		3	3 位
芝浦工業	● 2 - 8 ○15- 5	● 2 - 19 ○ 8 - 3		2	0	2	2 位

I 部II 部入替戦（5月10日（日）：毛呂山町大類ソフトボールパーク

東海大学（I 部 7 位） 15- 9 筑波大学（II 部 1 位） ※東海大学は I 部残留

II 部III 部入替戦

都留文科大学（II 部 6 位） 4-11 山梨学院大学（III 部 1 位） ※山梨学院大学は II 部昇格

第4回関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成21年5月5日(月)・6日(火)・10日(土)・11日(日)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク他

Ⅰ部リーグ

チーム	淑徳	関東学園	城西国際	城西	東海	山梨学院	勝	分	敗	順位
淑徳		○8-7	○8-1	○15-0	○6-2	○3-0	5	0	0	優勝
関東学園	●7-8		△7-7	●3-6	●3-7	●0-4	0	1	4	6位
城西国際	●1-8	△7-7		●4-11	△1-1	●0-7	0	2	3	5位
城西	●0-15	○6-3	○11-4		●7-10	●1-8	2	0	3	4位
東海	●2-6	○7-3	△1-1	○10-7		●2-5	2	1	2	3位
山梨学院	●0-3	○4-0	○7-0	○8-1	○5-2		4	0	1	2位

Ⅱ部リーグ

チーム	清和	新島学園	国際武道	順天堂	筑波	勝	分	敗	順位
清和		○6-4	○6-4	○6-1	○10-4	4	0	0	1位
新島学園	●4-6		○3-2	○12-6	●3-9	2	0	2	3位
国際武道	●4-6	●2-3		△3-3	△5-5	0	2	2	4位
順天堂	●1-6	●6-12	△3-3		●2-11	0	1	3	5位
筑波	●4-10	○9-3	△5-5	○11-2		2	1	1	2位

Ⅲ部リーグ

チーム	文教	埼玉	日大生資	茨城	勝	分	敗	順位
文教		○7-4	○15-0	○13-0	3	0	0	1位
埼玉	●4-7		○12-1	○3-1	2	0	1	2位
日大生資	●0-15	●1-12		●4-8	0	0	3	4位
茨城	●0-13	●1-3	○8-4		1	0	2	3位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦

関東学園大学(Ⅰ部6位) 10-4 清和大学(Ⅱ部1位) ※関東学園大学はⅠ部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦

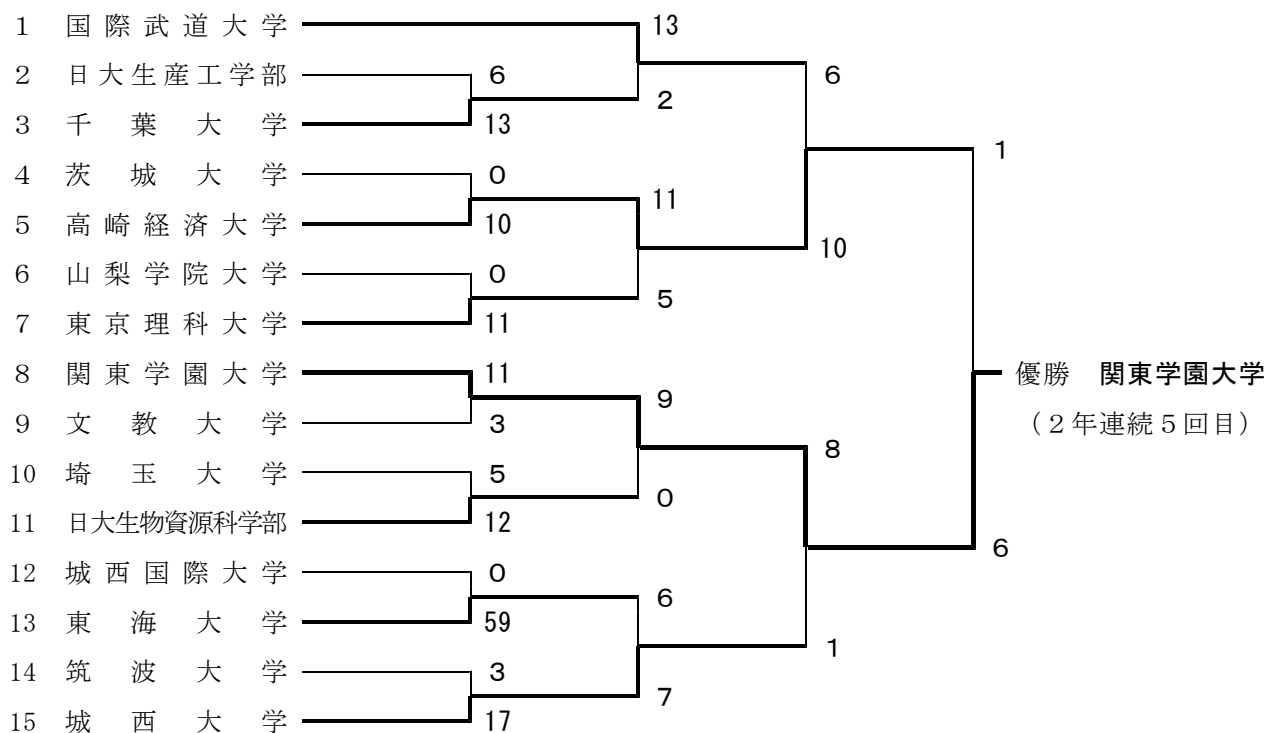
順天堂大学(Ⅱ部5位) 3-10 文教大学(Ⅲ部1位) ※文教大学はⅡ部昇格

第17回関東学生ソフトボール選手権大会 兼 第44回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

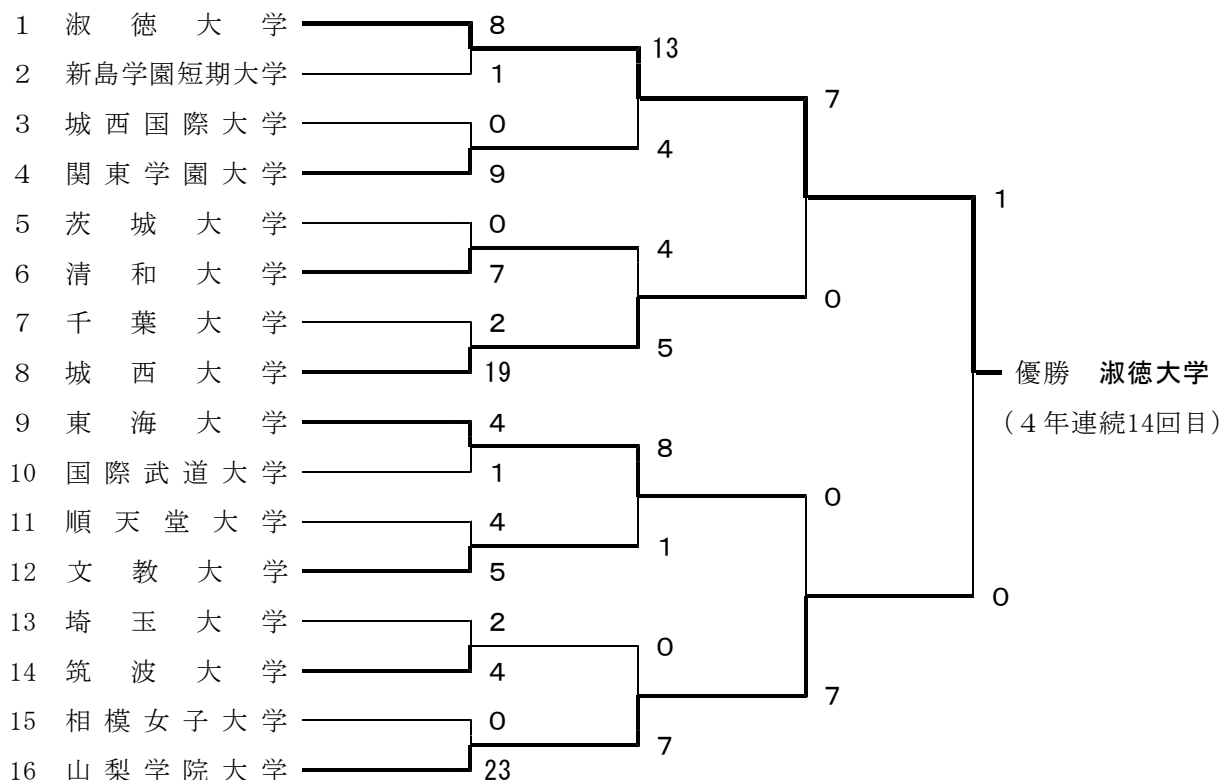
会期：21年5月30日(土)・31日(日)、6月1日(月)

会場：神奈川県相模原市／ひばり球場・昭和橋スポーツ広場

男子の部



女子の部



第9回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成21年10月10日（土）～12日（月）・17日（土）

会場：東松山市駒形公園ソフトボール場、毛呂山町西戸グラウンド 他

Ⅰ部リーグ

チーム	国際武道	城西	関東学園	東京理科	高崎経済	文教	東海	順位
国際武道		● 7－9	△ 5－5	● 4－5	○ 7－4	● 4－11	● 7－11	7位
城西	○ 9－7		○ 8－2	● 3－6	○ 5－3	● 6－7	○ 4－1	2位
関東学園	△ 5－5	● 2－8		△ 4－4	● 3－10	○ 8－1	○ 6－3	4位
東京理科	○ 5－4	○ 6－3	△ 4－4		● 6－7	● 2－5	○ 7－5	3位
高崎経済	● 4－7	● 3－5	○ 10－3	○ 7－6		● 2－9	● 2－4	6位
文教	○ 11－4	○ 7－6	● 1－8	○ 5－2	○ 9－2		○ 14－3	優勝
東海	○ 11－7	● 1－4	● 3－6	● 5－7	○ 4－2	● 3－14		5位

※5～6位は大会規定による。

Ⅱ部リーグ

チーム	筑波	千葉	埼玉	日大生資	茨城	山梨学院	勝	分	敗	順位
筑波		● 2－15	● 1－7	○ 7－6	○ 10－8	○ 10－4	3	0	2	2位
千葉	○ 15－2		● 6－16	○ 7－3	● 7－22	● 4－15	2	0	3	4位
埼玉	○ 7－1	○ 16－6		○ 8－3	○ 4－3	○ 13－6	5	0	0	1位
日大生資	● 6－7	● 3－7	● 3－8		△ 2－2	○ 11－10	1	1	3	6位
茨城	● 8－10	○ 22－7	● 3－4	△ 2－2		● 10－11	1	1	3	5位
山梨学院	● 4－10	○ 15－4	● 6－13	● 10－11	○ 11－10		2	0	3	3位

※3～4位、5～6位は大会規定による。

Ⅲ部リーグ

チーム	都留文科	芝浦工業	日大生産	城西国際	東京国際	中央学院	勝	分	敗	順位
都留文科		● 8－12	○ 10－7	○ 7－0	○ 19－0	● 2－6	3	0	2	3位
芝浦工業	○ 12－8		○ 13－4	○ 43－0	○ 16－0	● 1－9	4	0	1	2位
日大生産	● 7－10	● 4－13		○ 36－3	○ 13－5	● 7－8	2	0	3	4位
城西国際	● 0－7	● 0－43	● 3－36		● 3－19	● 2－14	0	0	5	6位
東京国際	● 0－19	● 0－16	● 5－13	○ 19－3		● 2－30	1	0	4	5位
中央学院	○ 6－2	○ 9－1	○ 8－7	○ 14－2	○ 30－2		5	0	0	1位

I 部 II 部入替戦

II 部 III 部入替戦

高崎経済大 (I 部 6 位) 9 - 4 埼玉大 (II 部 1 位) 茨城大 (II 部 5 位) 13 - 3 中央学院大 (III 部 1 位)

※高崎経済大学は I 部残留

※茨城大学は II 部残留

※国際武道大 (I 部 6 位) は II 部へ、日大生物資源科学部 (II 部 6 位) は III 部へ自動降格

第 9 回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成21年10月10日（土）～12日（月）・17日（土）

会場：毛呂山町大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市運動公園グラウンド

I 部リーグ

チーム	淑 徳	山梨学院	東 海	城 西	城西国際	関東学園	勝	分	敗	順 位
淑 徳		● 3 - 6	○ 3 - 1	○ 5 - 1	○ 7 - 1	○ 8 - 0	4	0	1	2 位
山梨学院	○ 6 - 3		○ 7 - 0	○ 6 - 3	○ 8 - 2	● 0 - 1	4	0	1	優勝
東 海	● 1 - 3	● 0 - 7		● 0 - 7	○ 10 - 2	○ 5 - 2	2	0	3	4 位
城 西	● 1 - 5	● 3 - 6	○ 7 - 0		△ 10 - 10	○ 2 - 0	2	1	2	3 位
城西国際	● 1 - 7	● 2 - 8	● 2 - 10	△ 10 - 10		● 3 - 11	0	1	4	6 位
関東学園	● 0 - 8	○ 1 - 0	● 2 - 5	● 0 - 2	○ 11 - 3		2	0	3	5 位

※ 1 ~ 2 位、4 ~ 5 位は得失点差による。

II 部リーグ

チーム	清 和	筑 波	新島学園	国際武道	文 教	勝	分	敗	順 位
清 和		○ 11 - 5	○ 3 - 2	○ 7 - 2	○ 8 - 0	4	0	0	1 位
筑 波	● 5 - 11		○ 5 - 4	△ 8 - 8	○ 4 - 3	2	1	1	2 位
新島学園	● 2 - 3	● 4 - 5		○ 9 - 6	○ 13 - 4	2	0	2	3 位
国際武道	● 2 - 7	△ 8 - 8	● 6 - 9		● 6 - 7	0	1	3	5 位
文 教	● 0 - 8	● 3 - 4	● 4 - 13	○ 7 - 6		1	0	3	4 位

※ 3 ~ 4 位は大会規定による。

III 部リーグ

チーム	関東学園	埼 玉	茨 城	日大生資	勝	分	敗	順 位
順 天 堂		○ 4 - 3	○ 2 - 1	○ 8 - 2	3	0	0	1 位
埼 玉	● 3 - 4		○ 10 - 2	○ 4 - 2	2	0	1	2 位
茨 城	● 1 - 2	● 2 - 10		○ 9 - 5	1	0	2	3 位
日大生資	● 2 - 8	● 2 - 4	● 5 - 9		0	0	3	4 位

I部II部入替戦

城西国際大(I部6位)11-9清和大(II部1位)

※城西国際大はI部残留

II部III部入替戦

国際武道大(II部5位)5-6順天堂大(III部1位)

※順天堂大はII部昇格

【北信越地区】

第15回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
(兼、文部科学大臣杯第44回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会期：平成21年5月23日(土)・24日(日)

会場：長野県伊那市／富士塚スポーツ公園

女子大会結果

松本大学	9				
信州大学	1			25	
富山大学	9				
福井大学	11			7	
金沢大学	2			0	
					松本大学

男子大会結果

信州大学	4				
富山大学	11			10	
長野大学	10				
金沢大学	7			4	
福井県立大学	25			1	
					富山大学

※富山大学(2年ぶり11回目)がインカレ出場権を獲得

女子敗者復活戦

金沢大学	2				
信州大学	16			10	
福井大学	2				
					信州大学

※松本大学(4年連続4回目)がインカレ出場権を獲得
※信州大学(2年ぶり7回目)がインカレ出場権を獲得

第16回北信越大学新人ソフトボール選手権大会

会期：平成21年9月19日(土)・20日(日)

会場：富山県富山市／富山県岩瀬スポーツ公園

男子

信州大学	14				
福井県立大学	23			7	
金沢大学	8			7	
長野大学	3				
富山大学	15			5	
					信州大学

金沢大学	16				
長野大学	4			13	
福井県立大学				6	
					3位 金沢大学

女子

金沢学院大学
松本大学 A
富山大学
金沢大学
信州大学
松本大学 B

0
19
0
10
18
17

0
12
0
0
1

9
松本大学 A
1

富山大学
信州大学
金沢学院大学
金沢大学

15
7
17
0

4
3位
金沢学院大
6

【東京地区】

平成21年度第43回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子 1 部

チーム	早 稲 田	日本体育	桜 美 林	国 士 舘	中 央	学 習 院	勝	分	敗	順 位
早 稲 田		○ 4 - 13	● 3 - 5	○ 11 - 2	○ 10 - 3	○ 22 - 8	4	0	1	優勝
日本体育	● 4 - 13		○ 5 - 1	○ 4 - 3	○ 12 - 2	○ 10 - 0	4	0	1	2 位
桜 美 林	○ 5 - 3	● 1 - 5		○ 4 - 1	○ 13 - 6	○ 7 - 3	4	0	1	3 位
国 士 舘	● 2 - 11	● 3 - 4	● 1 - 4		○ 9 - 2	○ 8 - 2	2	0	3	4 位
中 央	● 3 - 10	● 2 - 12	● 6 - 13	● 2 - 9		○ 23 - 6	1	0	4	5 位
学 習 院	● 8 - 22	● 0 - 10	● 3 - 7	● 2 - 8	● 6 - 23		0	0	5	6 位

※ 1 位～3 位は得失点差による。

男子 2 部

チーム	立 教	慶應義塾	明 治	専 修	東京学芸	成 蹊	勝	分	敗	順 位
立 教		○10－3	○10－3	○6－1	○8－0	○17－2	5	0	0	1 位
慶應義塾	●3－10		○6－3	○14－2	●8－9	○8－7	3	0	2	2 位
明 治	●3－10	●3－6		○9－5	○9－4	○9－4	3	0	2	3 位
専 修	●1－6	●2－14	●5－9		○5－3	○9－2	2	0	3	4 位
東京学芸	●0－8	○9－8	●4－9	●3－5		○20－5	2	0	3	5 位
成 蹊	●2－17	●7－8	●4－9	●2－9	●5－20		0	0	5	6 位

※ 2 位と 3 位、及び 4 位と 5 位は直接対決の勝敗による。

男子3部

チーム	日 本	東 京	東京農業	東 洋	帝 京	I C U	勝	分	敗	順 位
日 本		○3-1	○8-0	○6-2	○9-8	○11-4	5	0	0	1位
東 京	●1-3		○27-5	○11-1	○20-0	○12-1	4	0	1	2位
東京農業	●0-8	●5-27		○20-19	○11-6	○13-6	3	0	2	3位
東 洋	●2-6	●1-11	●19-20		○9-3	○7-6	2	0	3	4位
帝 京	●8-9	●0-20	●6-11	●3-9		○27-1	1	0	4	5位
国際基督教	●4-11	●1-12	●6-13	●6-7	●1-27		0	0	5	6位

男子4部

チーム	東京都市	文教湘南	日本歯科	一 橋	勝	分	敗	順 位
東京都市		○17-7	○22-3	○7-0	3	0	0	1位
文教湘南	●7-17		○27-11	○7-0	2	0	1	2位
日本歯科	●3-22	●11-27		○7-0	1	0	2	3位
一 橋	●0-7	●0-7	●0-7		0	0	3	4位

男子入れ替え戦

1部-2部

学習院大学(6位)13-4 立教大学(1位)

※学習院大学は1部残留

2部-3部

成蹊大学(6位)7-12 日本大学(1位)

※日本大学は2部昇格、成蹊大学は3部降格

3部-4部

国際基督教大学(6位)7-3 東京都市大学(1位)

※国際基督教大学は3部残留

女子1部

チーム	東京女体	日本体育	早 稲 田	日本女体	国 士 館	東京学芸	勝	分	敗	順 位
東京女体		○1-0	○13-6	○11-2	○7-0	○8-1	5	0	0	優勝
日本体育	●0-1		●0-6	○8-1	○5-1	○20-0	3	0	2	2位
早 稲 田	●6-13	○6-0		●3-4	○9-2	○16-2	3	0	2	3位
日本女体	●2-11	●1-8	○4-3		○13-7	○6-0	3	0	2	4位
国 士 館	●0-7	●1-5	●2-9	●7-13		○5-1	1	0	4	5位
東京学芸	●1-8	●0-20	●2-16	●0-6	●1-5		0	0	5	6位

※2位～4位は得失点差による。

女子 2 部

チーム	明 治	学 習 院	日 本	創 価	中 央	桜 美 林	勝	分	敗	順 位
明 治		○ 7 - 4	○ 8 - 7	○ 12 - 0	○ 10 - 3	○ 11 - 5	5	0	0	1 位
学 習 院	● 4 - 7		○ 4 - 1	○ 8 - 0	○ 11 - 6	○ 12 - 6	4	0	1	2 位
日 本	● 7 - 8	● 1 - 4		○ 6 - 4	○ 8 - 5	● 10 - 11	2	0	3	3 位
創 価	● 0 - 12	● 0 - 8	● 4 - 6		○ 17 - 11	○ 13 - 7	2	0	3	4 位
中 央	● 3 - 10	● 6 - 11	● 5 - 8	● 11 - 17		○ 18 - 13	1	0	4	5 位
桜 美 林	● 5 - 11	● 6 - 12	○ 11 - 10	● 7 - 13	● 13 - 18		1	0	4	6 位

※ 3 位と 4 位、及び 5 位と 6 位は直接対決の勝敗による。

女子 3 部

チーム	慶 応	成 蹊	専 修	実践女子	津 田 塾	I C U	勝	分	敗	順 位
慶 応		○ 10 - 9	○ 9 - 0	○ 10 - 8	○ 19 - 8	○ 22 - 7	5	0	0	1 位
成 蹊	● 9 - 10		○ 25 - 12	● 4 - 10	○ 22 - 5	○ 11 - 0	3	0	2	2 位
専 修	● 0 - 9	● 12 - 25		○ 8 - 4	○ 11 - 4	○ 22 - 2	3	0	2	3 位
実践女子	● 8 - 10	○ 10 - 4	● 4 - 8		○ 18 - 1	○ 22 - 5	3	0	2	4 位
津 田 塾	● 8 - 19	● 5 - 22	● 4 - 11	● 1 - 18		○ 9 - 0	1	0	4	5 位
国際基督教	● 7 - 22	● 0 - 11	● 2 - 22	● 5 - 22	● 0 - 9		0	0	5	6 位

※ 2 位～ 4 位は得失点差による。

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部：東京学芸大学 8 - 1 明治大学

2 部 - 3 部：桜美林大学 16 - 6 慶応大学

※東京学芸大学は 1 部残留

※桜美林大学は 2 部残留

平成21年度第44回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子 1 部

チーム	早 稲 田	日本体育	国 士 館	学 習 院	中 央	桜 美 林	勝	分	敗	順 位
早 稲 田		○ 10 - 8	● 5 - 13	○ 10 - 4	○ 12 - 2	○ 22 - 0	4	0	1	優勝
日本体育	● 8 - 10		○ 10 - 1	○ 7 - 0	○ 8 - 1	○ 9 - 0	4	0	1	2 位
国 士 館	○ 13 - 5	● 1 - 10		○ 15 - 2	○ 9 - 1	○ 3 - 1	4	0	1	3 位
学 習 院	● 4 - 10	● 0 - 7	● 2 - 15		○ 8 - 6	○ 9 - 5	2	0	3	4 位
中 央	● 2 - 12	● 1 - 8	● 1 - 9	● 6 - 8		○ 9 - 4	1	0	4	5 位
桜 美 林	● 0 - 22	● 0 - 9	● 1 - 3	● 5 - 9	● 4 - 9		0	0	5	6 位

※ 1 位～ 3 位は得失点差による。

男子2部

チーム	専 修	慶應義塾	明 治	立 教	日 本	東京学芸	勝	分	敗	順 位
専 修		○13-8	○3-2	○13-11	●6-11	○10-2	4	0	1	1位
慶應義塾	●8-13		○5-3	○13-1	○8-7	○9-2	4	0	1	2位
明 治	●2-3	●3-5		○18-3	○8-4	○13-9	3	0	2	3位
立 教	●11-13	●1-13	●3-18		○12-7	○11-0	2	0	3	4位
日 本	○11-6	●7-8	●4-8	●7-12		○6-5	2	0	3	5位
東京学芸	●2-10	●2-9	●9-13	●0-11	●5-6		0	0	5	6位

※1位と2位、及び4位と5位は直接対決の勝敗による。

男子3部

チーム	東 京	東京農業	成 蹊	東 洋	帝 京	I C U	勝	分	敗	順 位
東 京		○23-10	○11-4	○15-7	○8-7	○15-13	5	0	0	1位
東京農業	●10-23		○7-0	●3-20	○8-7	○15-14	3	0	2	2位
成 蹊	●4-11	●0-7		○14-6	○9-8	○7-0	3	0	2	3位
東 洋	●7-15	○20-3	●6-14		○7-0	●9-13	2	0	3	4位
帝 京	●7-8	●7-8	●8-9	●0-7		○14-7	1	0	4	5位
国際基督教	●13-15	●14-15	●0-7	○13-9	●7-14		1	0	4	6位

※2位と3位、及び5位と6位は直接対決の勝敗による。

男子4部

チーム	東京都市	文教湘南	日本歯科	勝	分	敗	順 位
東京都市		○20-6	○28-7	2	0	0	1位
文教湘南	●6-20		○13-12	1	0	1	2位
日本歯科	●7-28	●12-13		0	0	2	3位

男子入れ替え戦

1部-2部

桜美林大学(6位) 11-3 専修大学(1位)

※桜美林大学は1部残留

2部-3部

東京学芸大学(6位) 9-2 東京大学(1位)

※東京学芸大学は2部残留

3部-4部

国際基督教大(6位) 13-12 東京都市大学(1位)

※国際基督教大学は3部残留

女子 1 部

チーム	東京女体	早稲田	国士館	日本体育	日本女体	東京学芸	勝	分	敗	順位
東京女体		○ 5 - 4	○ 7 - 0	○ 12 - 0	○ 9 - 2	○ 9 - 1	5	0	0	優勝
早稲田	● 4 - 5		● 0 - 1	○ 8 - 4	○ 9 - 3	○ 10 - 1	3	0	2	2 位
国士館	● 0 - 7	○ 1 - 0		● 4 - 7	○ 6 - 1	○ 14 - 0	3	0	2	3 位
日本体育	● 0 - 12	● 4 - 8	○ 7 - 4		○ 5 - 1	○ 12 - 2	3	0	2	4 位
日本女体	● 2 - 9	● 3 - 9	● 1 - 6	● 1 - 5		○ 12 - 0	1	0	4	5 位
東京学芸	● 1 - 9	● 1 - 10	● 0 - 14	● 2 - 12	● 0 - 12		0	0	5	6 位

※ 2 位 ~ 4 位は得失点差による。

女子 2 部

チーム	学習院	中央	明治	桜美林	日本	創価	勝	分	敗	順位
学習院		○ 9 - 1	● 1 - 8	○ 26 - 2	○ 8 - 1	○ 7 - 1	4	0	1	1 位
中央	● 1 - 9		○ 5 - 4	○ 21 - 5	○ 15 - 7	○ 18 - 8	4	0	1	2 位
明治	○ 8 - 1	● 4 - 5		○ 13 - 2	○ 5 - 3	○ 7 - 1	4	0	1	3 位
桜美林	● 2 - 26	● 5 - 21	● 2 - 13		○ 4 - 3	○ 9 - 6	2	0	3	4 位
日本	● 1 - 8	● 7 - 15	● 3 - 5	● 3 - 4		○ 11 - 0	1	0	4	5 位
創価	● 1 - 7	● 8 - 18	● 1 - 7	● 6 - 9	● 0 - 11		0	0	5	6 位

※ 1 位 ~ 3 位は得失点差による。

女子 3 部

チーム	成蹊	慶應義塾	実践女子	専修	津田塾	I C U	勝	分	敗	順位
成蹊		○ 14 - 9	○ 13 - 11	○ 14 - 11	○ 19 - 0	○ 22 - 3	5	0	0	1 位
慶應義塾	● 9 - 14		○ 4 - 3	○ 11 - 9	○ 11 - 2	○ 22 - 0	4	0	1	2 位
実践女子	● 11 - 13	● 3 - 4		○ 11 - 10	○ 17 - 5	○ 21 - 0	3	0	2	3 位
専修	● 11 - 14	● 9 - 11	● 10 - 11		○ 12 - 4	○ 19 - 1	2	0	3	4 位
津田塾	● 0 - 19	● 2 - 11	● 5 - 17	● 4 - 12		○ 8 - 5	1	0	4	5 位
国際基督教	● 3 - 22	● 0 - 22	● 0 - 21	● 1 - 19	● 5 - 8		0	0	5	6 位

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部

東京学芸 (6 位) 11 - 3 学習院 (1 位)

※ 東京学芸大学は 1 部残留

2 部 - 3 部

創価大学 (6 位) 3 - 11 成蹊大学 (1 位)

※ 成蹊大学は 2 部昇格、創価大学は 3 部降格

【東海地区】

東海テレビ杯平成21年度春季第64回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第44回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第41回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成21年5月2・3・4・5・6・9日

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場他

一部リーグ戦

チーム	中京学院	中 京	常葉学園	日本福祉	愛知教育	岐阜聖徳	勝	敗	失点率	順
中京学院		○1-0	○8-0	○7-0	○8-1	○7-0	5	0	0.26	1
中 京	●0-1		○12-1	○7-0	○9-2	○7-0	4	1	1.04	2
常葉学園	●0-8	●1-12		●0-10	●0-7	●2-9	0	5	14.82	6
日本福祉	●0-7	●0-7	○10-0		○13-4	○6-3	3	2	7.11	3
愛知教育	●1-8	●2-9	○7-0	●4-13		○13-2	2	3	9.74	4
岐阜聖徳	●0-7	●0-7	○9-2	●3-6	●2-13		1	4	9.80	5

二部リーグ戦

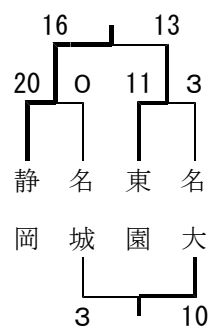
チーム	中 部	南 山	みずほ	愛 知	愛知学院	名古屋商	勝	敗	失点率	順
中 部		○5-4	○8-0	○10-3	○7-6	○11-5	5	0	4.06	1
南 山	●4-5		○11-4	●5-7	○12-6	○11-4	3	2	5.81	3
みずほ	●0-8	●4-11		●0-17	●0-8	●5-6	0	5	10.83	6
愛 知	●3-10	○7-5	○17-0		○20-4	○11-4	4	1	6.71	2
愛知学院	●6-7	●6-12	○8-0	●4-20		●2-12	1	4	11.38	5
名古屋商	●5-11	●4-11	○6-5	●4-11	○12-2		2	3	11.24	4

※失点率は、タイブレーカーの失点・守備回数を除く。

三部リーグ戦

予選リーグ	中 部	東 園	静 岡	名 城	勝	敗	順
名 古 屋		○ 11-1	● 5-9	○ 10-0	2	1	2位
東海学園	● 1-11		● 6-10	○ 6-4	1	2	3位
静 岡	○ 9-5	○ 10-6		○ 20-0	3	0	1位
名 城	● 0-10	● 4-6	● 0-20		0	3	4位

順位決定戦



一部・二部入れ替え戦

岐阜聖徳学園大(5位)8-9愛知大(2位)

※愛知大一部昇格、岐阜聖徳学園大二部降格

常葉学園大(6位)2-5中部大学(1位)

※中部大一部昇格、常葉学園大二部降格

二部・三部入れ替え戦

愛知みずほ大(6位)3-6静岡大(1位)

※愛知みずほ大三部降格、静岡大二部昇格

代表

第6回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第44回インカレ最終予選):

中京学院大学・中京大学・日本福祉大学・

愛知教育大学・愛知大学・中部大学・

常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学

第41回西日本大学ソフトボール選手権大会:

中京学院大学・中京大学・日本福祉大学・

愛知教育大学・愛知大学・中部大学

個人表彰選手

最優秀選手賞:岩田 守(中京学院大学)

一部首位打者賞:青柳 守(中京大学)

記録7割5分0厘

一部打点賞:嶋田 稔貴(中京大学)

田代 大悟(日本福祉大学)

太田 信(聖徳学園大学)

記録8

本塁打点賞:田代 大悟(日本福祉大学)

記録3

盗塁賞:芳川 祐輔(聖徳学園大学)

記録5

一部最優秀防御率賞:大森 優(中京学院大学)

記録0.00

二部優秀選手賞:山田 佳史(中部大学)

二部首位打者賞:小森 貴友(中部大学)

記録6割0分0厘

二部最優秀防御率賞:飯山 雅貴(中部大学)

記録1.24

三部優秀選手賞:前田 大(静岡大学)

三部首位打者賞:市川 康祐(静岡大学)

記録6割4分7厘

三部最優秀防御率賞:神尾 誠也(静岡大学)

記録6.67

ベストスコアラー賞:大嶋 祥子(愛知教育大学)

ベスト放送員賞:阿知波君恵(愛知教育大学)

ベストナイン

投手 望月 孝典(中京大学 2年)

捕手 秋屋 一樹(中京大学 3年)

一塁手:野田 郁雄(中京学院大学 3年)

二塁手:見市 達俊(岐阜聖徳大学 2年)

三塁手:嶋田 稔貴(中京大学 2年)

遊撃手:佐藤 貴史(中京学院大学 3年)

外野手:上村 直哉(中京大学 4年)

外野手:保田 大輔(愛知教育大学 3年)

外野手:藤井 敬介(日本福祉大学 4年)

DP・DEFO:鈴木 隆(中京学院大学 3年)

講評

光り輝き風薫るリーグ戦前半であったが、中盤からの悪天候に悩まされ、日程変更も余儀なくされた大会となってしまった。会場と審判員の確保に奔走していただいた豊田市協会にまずもって御礼申し上げます。

今回の一部リーグ戦は、全15試合中13試合が点差コールドゲームという大味なものになってしまった。優勝した中京学院大学、準優勝の中京大学以外のチームの投手力強化が喫緊の課題である。しかし、両チームの直接対戦の試合は素晴らしかった。雨中の第3試合、グラウンドコンディションは最悪であったが、両投手の緊迫した投げ合いとそれを盛り上げた両チームの失策0という守備力は賞賛に値する。リーグ戦史上の記憶に残る試合となった。

二部・三部リーグ戦は今季も混戦であった。入れ替え戦3試合は、いずれも下位チームが昇格するという結果がそれを端的に物語っている。常に高見を目指す気持ちと練習量が順位を決定する大きな要因であろう。特に、一部優勝・準優勝のチームのように、投手力を中心とする守備力の強化が望まれる。(東海学連理事長 水谷 博)

幸田町ソフトボール協会創立30周年記念

東海テレビ杯平成21年度春季第53回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第44回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第41回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：5月3・4・5・9・10日

会場：愛知県幸田町／深溝運動場

一部リーグ戦

チーム	東海学園	愛知教育	東海学院	中 京	中京女子	鈴鹿国際	勝分敗	失点率	順
東海学園		○5-2	○4-3	○5-3	○2-1	○3-0	5 0	1.80	1
愛知教育	●2-5		●0-7	●0-2	○1-0	●0-2	1 5	2.97	5
東海学院	●3-4	○7-0		●2-3	○5-2	△4-4	2 1 2	2.84	4
中 京	●3-5	○2-0	○3-2		○7-0	○5-0	4 1	1.44	2
中京女子	●1-2	●0-1	●2-5	●0-7		●0-7	0 5	5.02	6
鈴鹿国際	●0-3	○2-0	△4-4	●0-5	○7-0		2 1 2	2.63	3

※3位～4位は失点率による。

二部リーグ戦

チーム	桜花学園	名古屋	静岡	浜 松	中京学院	日本福祉	岐阜聖徳	順位
桜花学園		○10-3	●6-8	○13-4	●0-8			4位
名古屋	●3-10		●6-7	○14-5			○12-7	5位
静岡	○8-6	○7-6		○12-2		●1-8		2位
浜 松	●4-13	●5-14	●2-12					7位
中京学院	○8-0					●1-2	○9-1	3位
日本福祉			○8-1		○2-1		○8-3	1位
岐阜聖徳		●7-12			●1-9	●3-8		6位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一・二部入れ替え戦

愛知教育大学(5位)8-0静岡大学(2位)

※愛知教育大学一部、静岡大学二部残留

中京女子大学(6位)8-6日本福祉大学(1位)

※中京女子大学一部、日本福祉大学二部残留

代表

第6回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第44回インカレ最終予選)：

東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・

東海学院大学・愛知教育大学・中京女子大学・

日本福祉大学・静岡大学

第41回西日本大学ソフトボール選手権大会：

東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・
東海学院大学・愛知教育大学・中京女子大学

個人表彰選手

最優秀選手賞：澤入亜希子(東海学園大学)
一部首位打者賞：澤入亜希子(東海学園大学)
記録5割4分5厘
打点賞：岡部麻由美(東海学院大学)
記録5
本塁打賞：該当者なし
盗塁賞：該当者なし
一部最優秀防御率賞：矢田文香(鈴鹿国際大学)
記録1.05
優秀選手賞：的場万依(日本福祉大学)
二部首位打者賞：小南佳苗(中京学院大学)
記録7割1分4厘
二部最優秀防御率賞：加藤ひかり(中京学院大学)
記録0.00
ベストスコアラー賞：田中えり(中京大学)
ベスト放送員賞：該当者なし
ベストナイン
投手：小沢佳那子(中京大学 3年)
捕手：福元朱実(東海学院大学4年)
一塁手：山田あおい(東海学園大学4年)
二塁手：入野恵里(中京大学 2年)
三塁手：村井美保(東海学園大学2年)
遊撃手：稲垣ゆみこ(東海学園大学4年)
外野手：澤入亜希子(東海学園大学4年)
外野手：伊藤莉乃(鈴鹿国際大学2年)
外野手：上田恵(東海学園大学4年)
DP・DEFO 吉田早希(東海学院大学4年)

講評

8年ぶりの幸田町における開催となった本リー

グ戦は、同町ソフトボール協会創立30周年の記念行事として、町のご支援も得て盛大に開催された。あいにくの天候により、予備日以外にも日程を1日繰り延べなければならなかったが、協会と町の全面的なご協力により、無事全日程を終了できたことに對し、まずもって御礼申し上げます。

さて、一部リーグ戦は、東海学園大学が2季連続5回目の優勝で幕を閉じたが、昨春3位の悔しさを総合力で見事に晴らした。圧倒的な強さを見せつけたというのではなく、僅差ながら確実にひとつひとつの試合に勝利していく勝負強さは、他の追従を許さなかった。準優勝の中京大学は、チーム打率・失点率・防御率とも東海学園大学を上回りながら涙をのんだが、これは守備率の低さによるものだった。しかし、昨秋4位からの挽回は見事であった。また、昨年春に加盟した鈴鹿国際大学も、ホップ・ステップ・ジャンプで昨秋の6位から初の3位に躍進した。チーム一丸となったまとまりのある戦いぶりであった。

また、二部リーグ戦は、上位3チームによる厳しい戦いが「地獄の二部」と言われる所以であるが、今春はこれに静岡大学が加わり4チームによる熱戦が展開された。その中から日本福祉大学が一步抜け出したが、その差はわずかであろう。やはり、ソフトボールの勝敗を決するものは、守備力によるところが大きいと痛感された。最後に、今季も最下位に甘んじたが、昨秋に加盟した浜松大学は、今季も1勝もあげられなかったが、失点は確実に減っており、さわやかな戦いぶりは来季に期待を持たせるものであった。

春季リーグ戦は、インカレの一次予選を兼ねた厳しいリーグ戦であったが、各チームともそれぞれの次のステップに向けて、さらなる精進を期待するものである。(東海学連理事長 水谷 博)



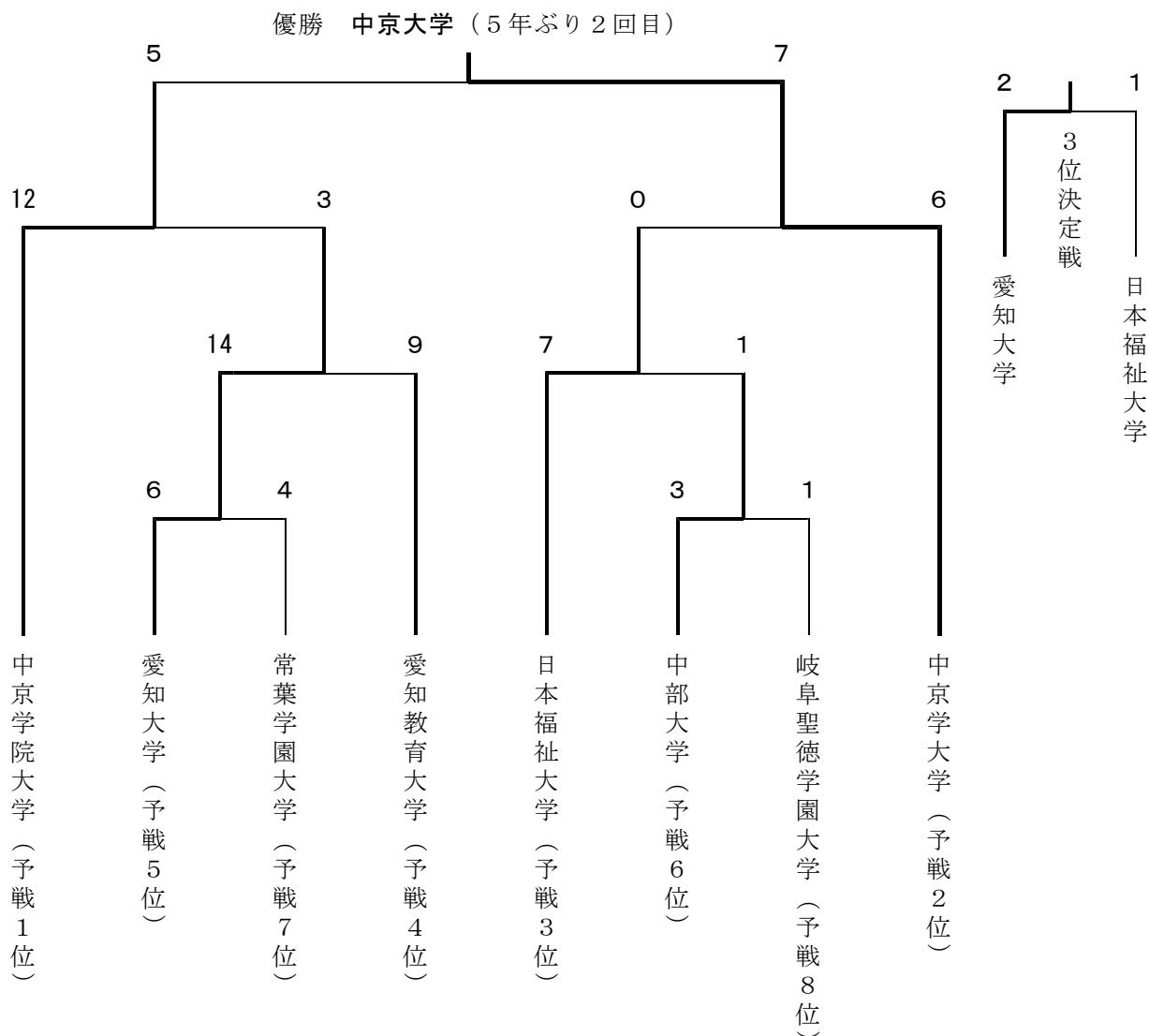
第6回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第44回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

会期：平成21年5月16日(土)・18日(月)

会場：静岡県富士市／富士川緑地公園ソフトボール場

男子



第44回全日本大学選手権大会代表権獲得于一人

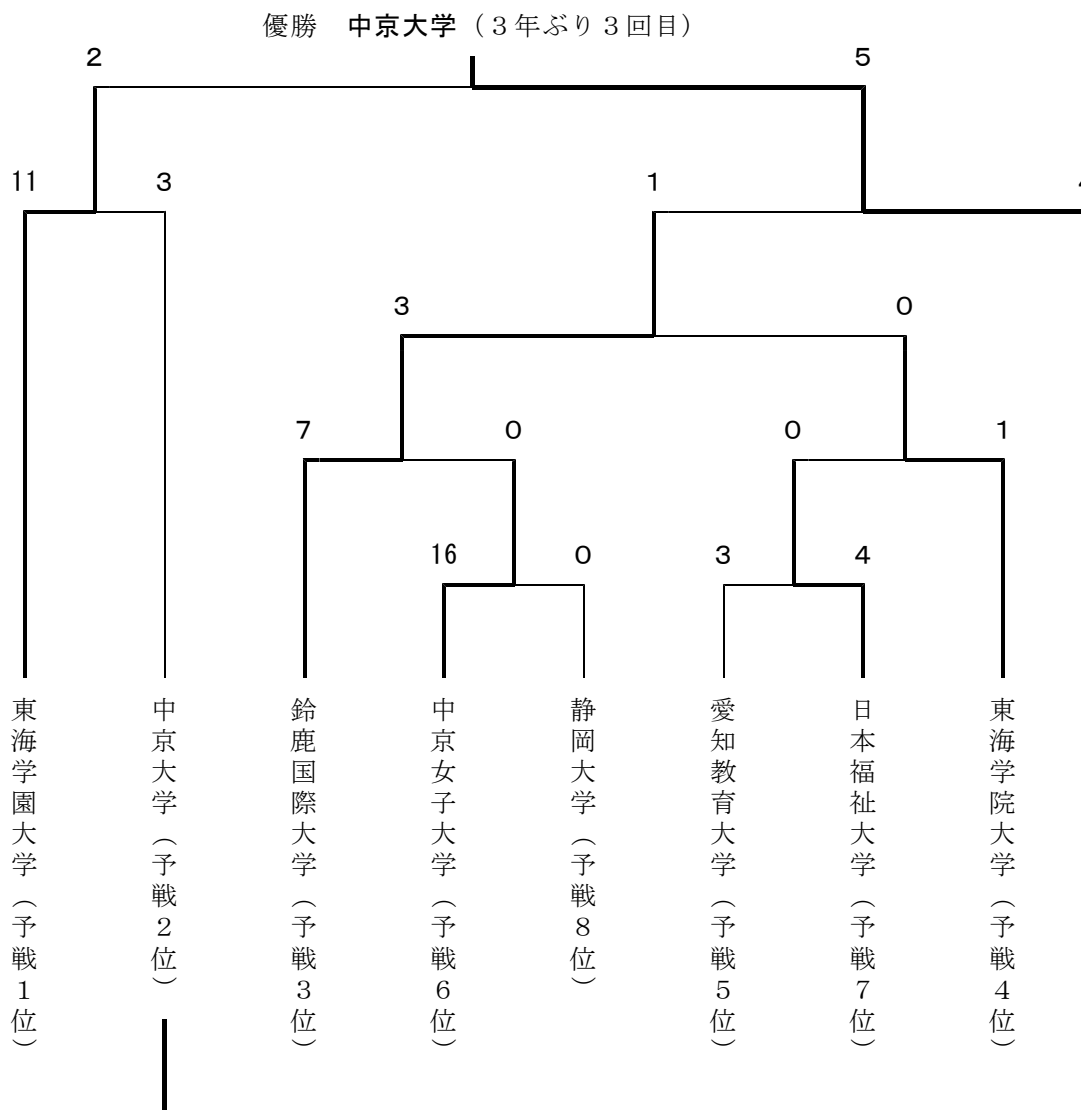
- ・中京大学（2年連続39回目）
- ・中京学院大学（5年連続6回目）
- ・愛知大学（8年ぶり18回目）
- ・日本福祉大学（2年ぶり3回目）

講評

点差コールドゲームの多かったリーグ戦とは異

なり、今大会は緊張感のある試合が目立った。特に、中京学院大の5連覇を阻んだ中京大の戦いぶりは見事であった。また、リーグ戦二部2位からインカレ出場権を獲得した愛知大も賞賛に値する。二部チームが出場権を獲得したのは初めてのことであり、リーグ戦の活性化に大いに貢献するものと思われる。出場権獲得チームのインカレでの活躍を期待する。(東海学連理事長 水谷 博)

女子



第44回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

- ・中京大学（25年連続34回目）
- ・東海学園大学（2年連続8回目）
- ・鈴鹿国際大学（初）

講評

日本一の山、富士山を仰いでインカレ出場を目指した厳しい戦いが展開された。終わってみれば女子も予選2位の中京大が東海学園大の連覇を阻んでリーグ戦での雪辱を果たし、アベック優勝を飾った。特に、トリプルとなった最終日、3位決定戦では逆転勝ちし、決勝戦は最終回に失点したものの、最後まで緊張感を切らない見事な試合であった。また、一次予選のリーグ戦では引き分

けた鈴鹿国際大と東海学院大は、最後の枠を懸けての戦いとなったが、初回に先制し2回に2点を追加した鈴鹿国際大の勢いが一歩優って、初の出場権獲得となった。東海学院大は昨年が続いて涙を飲んだが、今後の奮起を期待したい。なお、初戦で大敗したものの、今大会初出場の地元静岡大のさわやかさは見る者に感動を与えた。

出場権を獲得した3チームはこの結果に満足することなく、東海の代表としての力を全国に見せつけられるよう今後も努力を続けてもらいたい。

最後になりましたが、雨天順延の生じた本大会の開催にご尽力賜りました東海協会・静岡協会・富士市協会をはじめとする関係各位に御礼申し上げます。（東海学連理事長 水谷 博）

東海テレビ杯平成22年度秋季第65回東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成21年10月10・11・17・18日

会場：岐阜県中津川市／中津川公園公園夜明け前スタジアム他

一部リーグ戦

チーム	中京学院	中 京	日本福祉	愛知教育	愛 知	中 部	勝	分	敗	順 位
中京学院		● 1-10	○ 4-2	○ 11-1	○ 8-0	○ 11-0	4	0	1	2 位
中 京	○ 10-1		○ 15-3	○ 13-0	○ 7-3	○ 7-0	5	0	0	優勝
日本福祉	● 2-4	● 3-15		● 8-9	○ 9-0	○ 9-0	2	0	3	4 位
愛知教育	● 1-11	● 0-13	○ 9-8		○ 10-9	○ 9-3	3	0	2	3 位
愛 知	● 0-8	● 3-7	● 0-9	● 9-10		○ 8-3	1	0	4	5 位
中 部	● 0-11	● 0-7	● 0-9	● 3-9	● 3-8		0	0	5	6 位

二部リーグ戦

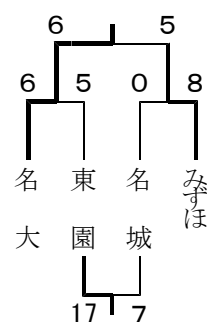
チーム	常葉学園	岐阜聖徳	南 山	名古屋商	愛知学院	静 岡	勝	分	敗	順位
常葉学園		● 9-10	● 8-12	○ 14-1	○ 9-2	● 9-11	2	0	3	4 位
岐阜聖徳	○ 10-9		○ 4-3	● 9-16	○ 4-1	○ 12-11	4	0	1	1 位
南 山	○ 12-8	● 3-4		● 12-15	△ 4-4	● 6-10	1	1	3	6 位
名古屋商	● 1-14	○ 16-9	○ 15-12		● 7-8	● 1-9	2	0	3	5 位
愛知学院	● 2-9	● 1-4	△ 4-4	○ 8-7		○ 8-11	2	1	2	3 位
静 岡	○ 11-9	● 11-12	○ 10-6	○ 9-1	● 11-8		3	0	2	2 位

※4～5位は直接対戦の結果による。

三部リーグ戦

予選リーグ	みずほ	東 園	名古屋	名 城	勝	敗	順
みずほ		○ 11-1	● 4-5	○ 15-0	2	1	2 位
東海学園	● 1-11		● 2-9	● 6-9	0	3	4 位
名 古 屋	○ 5-4	○ 9-2		○ 10-2	3	0	1 位
名 城	● 0-15	○ 9-6	● 2-10		1	2	3 位

順位決定戦



一部・二部入れ替え戦

愛知大(5位)17-10静岡大(2位)

※愛知大一部残留、静岡大二部残留

中部大(6位)10-6岐阜聖徳学園大(1位)

※中部大一部残留、岐阜聖徳学園大二部残留

二部・三部入れ替え戦

南山大(6位)7-10名古屋大(1位)

※南山大三部降格、名古屋大二部昇格

個人表彰選手

最優秀選手賞：青柳 守(中京大学)

一部首位打者賞：野田都雄(中京学院大学)

記録6割3分6厘

一部打点賞：山本佑馬(中京大学)

記録11

本塁打賞：青柳 守(中京大学)

記録3

盗塁賞：河村優樹(日本福祉大学)

記録5

一部最優秀防御率賞：望月孝典(中京大学)

記録1.62

二部優秀選手賞：佐竹直樹(聖徳学園大学)

二部首位打者賞：池田貴彦(南山大学)

記録6割2分5厘

二部最優秀防御率賞：平石純一(常葉学園大学)

記録5.60

三部優秀選手賞：三宝勝利(名古屋大学)

三部首位打者賞：三岡弘太(愛知みずほ大学)

記録6割1分5厘

三部最優秀防御率賞：松本尚憲(東海学園大学)

記録1.80

ベストスコアラー賞：松浦あずさ(中部大学)

ベスト放送員賞：太田涼子(南山大学)

ベストナイン

投手：大森 優(中京学院大学)

捕手：秋久 真哉(愛知教育大学)

一塁手：伊藤 圭佑(中京大学)

二塁手：濱崎 洋介(中京学院大学)

三塁手：面谷 幸平(愛知大学)

遊撃手：山本 佑馬(中京大学)

外野手：藤井 敬介(日本福祉大学)

外野手：宮平 佳太(中京大学)

外野手：大石 貴文(日本福祉大学)

DP・DEFO：砂川 拓博(中京学院大学)

講評

本リーグ戦は岐阜県での初の開催でありました。お引き受けいただいた岐阜県協会・同協会東濃支部・就中中津川協会に対し、また、素晴らしい試合会場をご提供いただきました中津川市をはじめとする関係各位に対し、まずもって御礼申し上げます。幸い天候にも恵まれ、日程通り無事終了することができました。当地区において、3週間にわたって土日に降雨がないことはきわめて珍しいことだそうで、主催者としても初の岐阜県大会が成功裏に終了したことを喜びたいと存じます。特に、昨年竣工したばかりの夜明け前スタジアムでの初の男子ソフトボール試合の実施は、球場管理者の方にも驚きと感動を持って迎えられたようでした。選手達も立派な球場で試合のできた喜びを感じたものと存じます。

さて、一部は、8季連続優勝をねらう中京学院大学と春季に今一步のところで涙を飲んだ古豪中京大学が他を寄せ付けずに最終日の対決で優勝を争ったが、予想外のコールドゲームで13季ぶりに古豪中京大学の復活となった。二部は、全勝・全敗チームがなく、最終試合まで入れ替え戦出場チームが決定しないといういつものような混戦になった。選手たちには楽しかったかもしれないが、10点前後で勝敗を争うという大味で長時間の試合が多く、ソフトボール独特の「緊張感」に欠けたリーグ戦であったことは否めない。投手力を中心とする守備力の強化が強く求められる。また、三部はかつては一部で戦った愛知みずほ大学と名古屋大学の争いになったが、OBを含めた総合力で名古屋大学が1位となった。入れ替え戦では、その名古屋大学が二部に昇格し、リーグ創立時からの所属チームである南山大学が初の三部降格となった以外、異動はなかった。一部チームの「絶対に降格はしたくない」という気持ちがプレイからひしひしと伝わった一・二部入れ替え戦であった。

最後に、今回は初のイエローボールでのリーグ戦であった。本塁打が多かったような印象があるが、今後その効果に関する分析が早急に望まれる。(東海学連理事長 水谷 博)

東海テレビ杯平成21年度秋季第54回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成21年10月10・11・17・18日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド他

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	鈴鹿国際	東海学院	愛知教育	中京女子	勝	分	敗	順 位
東海学園		● 2 - 4	● 0 - 1	○ 4 - 1	○ 8 - 0	○ 10 - 1	3	0	2	3 位
中 京	○ 4 - 2		○ 4 - 1	○ 7 - 1	○ 9 - 3	○ 11 - 1	5	0	0	優勝
鈴鹿国際	○ 1 - 0	● 1 - 4		○ 7 - 1	○ 7 - 0	○ 4 - 0	4	0	1	2 位
東海学院	● 1 - 4	● 1 - 7	● 1 - 7		○ 7 - 0	○ 7 - 0	2	0	3	4 位
愛知教育	● 0 - 8	● 3 - 9	● 0 - 7	● 0 - 7		○ 5 - 1	1	0	4	5 位
中京女子	● 1 - 10	● 1 - 11	● 0 - 4	● 0 - 7	● 1 - 5		0	0	5	6 位

二部リーグ戦

チーム	日本福祉	桜花学園	名 古 屋	浜 松	静 岡	中京学院	岐阜聖徳	順 位
日本福祉		○ 8 - 1	○ 7 - 0	○ 13 - 0		○ 9 - 0		1 位
桜花学園	● 1 - 8		● 3 - 6	○ 5 - 4	○ 8 - 6			5 位
名 古 屋	● 0 - 7	○ 6 - 3		○ 7 - 3			○ 12 - 2	3 位
浜 松	● 0 - 13	● 4 - 5	● 3 - 7					7 位
静 岡		● 6 - 8				● 1 - 10	● 4 - 5	6 位
中京学院	● 0 - 9				○ 10 - 1		○ 11 - 1	2 位
岐阜聖徳			● 2 - 12		○ 5 - 4	● 1 - 11		4 位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一・二部入れ替え戦

愛知教育大学(5位) 8 - 2 中京学院大学(2位)

※愛知教育大学一部残留、中京学院大学二部残留

中京女子大学(6位) 4 - 6 日本福祉大学(1位)

※中京女子大学二部降格、日本福祉大学一部昇格

個人表彰選手

最 優 秀 選 手 賞：小沢佳那子(中京大学)

一 部 首 位 打 者 賞：北林 彩 (中京大学)

記録 6 割 4 分 3 厘

打 点 賞：小沢佳那子(中京大学)

記録 9

本 塁 打 賞：該当者なし

盗 塁 賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：柏木 菜奈(鈴鹿国際大学)

記録 0. 0 0

優 秀 選 手 賞：嵯峨 愛永(日本福祉大学)

二 部 首 位 打 者 賞：桃平 瞳 (日本福祉大学)

記録 8 割 7 分 5 厘

二部最優秀防御率賞：渡邊 奈緒(日本福祉大学)

記録 0.00

ベストスコアラー賞：田辺 飛鳥(愛知教育大学)

ベスト放送員賞：小野目楓子(桜花学園大学)

ベストナイン

投手：小沢佳那子(中京大学)

捕手：山下那奈華(鈴鹿国際大学)

一塁手：北林 彩(中京大学)

二塁手：村瀬 夏奈(東海学園大学)

三塁手：村井 美保(東海学園大学)

遊撃手：宮澤 早紀(鈴鹿国際大学)

外野手：柴田 明里(中京大学)

外野手：河合紗也香(中京大学)

外野手：井上 美紀(中京大学)

DP・DEFO 高槻みのり(東海学院大学)

講評

本リーグ戦は4日間とも天候に恵まれ、すがすがしい秋晴れの中、高浜市連盟の献身的なご尽力により、全日程を無事終了することができた。

一部は、中京大学、鈴鹿国際大学、東海学園大学の3チームが最終日まで優勝争いに絡み、最終戦の結果によって、優勝～第3位の順位が決定するという大混戦となった。最終戦では、中京大学が東海学園大学に序盤に0-2でリードされたものの、6回表に追いつき、7回表に逆転するという接戦をものにして、5戦全勝で3季ぶり32回目の優勝を手にした。

中京大は最優秀選手賞と打点賞を獲得した小沢選手、首位打者の北林選手の活躍により、5試合で35得点という高い攻撃力を示した。得点機に確実にタイムリーを放つという確実性の高い攻撃は見事なものであった。その一方で、完封勝利がなく、5試合で8失点を喫しており、優勝チームとしては投手力にやや不安を感じさせた。

今回のリーグで特筆すべきことは、初の準優勝を手にした鈴鹿国際大学の躍進である。昨年は初めての参加となった春季リーグでいきなりの二部優勝、入れ替え戦にも勝って最短の一部入りを果

たした。一部としての最初のリーグである昨年秋季では最下位に終わったものの、今年春季では3位、そして今回は準優勝と、着実に順位を上げてきた。昨年秋季、今年春季の右腕・矢田投手に続き、左腕・柏木投手が最優秀防御率賞を受賞し、3季連続で鈴鹿国際大の投手が最終防御率賞を独占した。今回のリーグでは、5試合中3試合が完封勝ちであり、安定した投手力と守備力を見せていた。特に春の覇者である東海学園大学相手に、初回に挙げた1点を守りきり、1-0で勝利を収めた試合は、今回のリーグで一番緊迫した好ゲームであった。

中京大学と東海学園大学の2強に鈴鹿国際大学が完全に割り込み、3強の時代が今後続くことを予感させるリーグとなった。その一方で、この上位3チームと、下位3チームとの対戦はほとんどが大差の試合に終わり、上位と下位の力の差が際立っていた。5試合のコールドを含め、序盤で勝敗が決する試合も多く、活気あるリーグとはいえない切れなかった。全国大会で好成績を挙げていくためには、まずはリーグで厳しい試合を経験していく必要がある。そのためにも、上位チームがチーム力を強化していく以上に、下位チームの奮闘を期待したい。

二部は、日本福祉大学が他のチームを全く寄せ付けない圧勝で優勝を飾った。入れ替え戦でも勢いを保ち、6-4で中京女子大学を下して、平成19年秋季以来の一部復帰を果たした。初の一部入りの平成19年春季にはいきなり4位に入り、旋風を巻き起こしたが、来季にはそれ以上の活躍を期待したい。なお、浜松大学は桜花学園大学に4-5と健闘したものの、今回も勝利を掴むことができなかった。未だリーグ戦未勝利が続いているが、他チームとの差はかなり接近しており、初の1勝を挙げる日も近いものと期待している。

最後に、2年ぶりの開催となった高浜市、同市連盟をはじめとして、リーグ戦の開催にご尽力を賜った関係各位に対し御礼を申し上げ、講評としたい。(東海学連副理事長 矢澤久史)

【近畿地区】

平成21年度第41回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成21年4月6・13・20・29日、5月3・4・5・6日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	大阪経法	関西	立命館	京都産業	大阪産業	京都	勝	分	敗	順位
大阪経法	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
関西	—	—	●0-7	●3-9	○6-5	○6-3	2	0	2	3位
立命館	—	○7-0	—	○7-1	△2-2	●5-6	2	1	1	優勝
京都産業	—	○9-3	●1-7	—	●1-5	○9-1	2	0	2	2位
大阪産業	—	●5-6	△2-2	○5-1	—	●0-2	1	1	2	5位
同志社	—	●3-6	○6-5	●1-9	○2-0	—	2	0	2	4位

※立命館大学は4季ぶり11度目の優勝、大阪経済法科大学は全試合棄権で2部へ自動降格

2部リーグ戦結果

2部A	神戸学院	四天王寺	大阪	大阪工業	兵庫教育	勝	分	敗	順位
神戸学院	—	○8-3	●2-3	○15-0	○11-7	3	0	1	2位
四天王寺	●3-8	—	●5-8	○4-1	○7-0	2	0	2	3位
大阪	○3-2	○8-5	—	○6-0	○4-1	4	0	0	1位
大阪工業	●0-15	●1-4	●0-6	—	●1-5	0	0	4	5位
兵庫教育	●7-11	●0-7	●1-4	○5-1	—	1	0	3	4位

2部B	神戸	流通科学	龍谷	京都	甲南	勝	分	敗	順位
神戸	—	○5-0	●3-12	●2-8	○5-4	2	0	2	3位
流通科学	●4-5	—	●3-9	●3-7	●1-6	0	0	4	5位
龍谷	○12-3	○9-3	—	○2-0	○14-2	4	0	0	1位
京都	○8-2	○7-3	●0-2	—	○5-2	3	0	1	2位
甲南	●4-5	○6-1	●2-14	●2-5	—	1	0	3	4位

2部優勝決定戦

大阪工業大学 4-9 龍谷大学

※龍谷大学は2部優勝・1部自動昇格

2部9・10位決定戦

大阪工業大学 3-11 流通科学大学

※大阪工業大学は自動的に3部に降格

3部リーグ戦結果

3部A	姫路獨協	京都学園	関西学院	奈良教育	大阪体育	勝	分	敗	順位
姫路獨協		● 0 - 10	○ 10 - 8	○ 10 - 3	● 3 - 13	2	0	2	3位
京都学園	○ 10 - 0		○ 3 - 1	○ 10 - 1	○ 3 - 0	4	0	0	1位
関西学院	● 8 - 10	● 1 - 3		○ 8 - 4	● 2 - 12	1	0	3	4位
奈良教育	● 3 - 10	● 1 - 10	● 4 - 8		● 1 - 13	0	0	4	5位
大阪体育	○ 13 - 3	● 0 - 3	○ 12 - 2	○ 13 - 1		3	0	1	2位

3部B	甲南	府立	市立	順
近畿		● 1 - 8 ● 3 - 5	○ 11 - 3 ● 3 - 14	2
大阪府立	○ 8 - 1 ○ 5 - 3		○ 17 - 0 ○ 13 - 1	1
大阪市立	● 3 - 11 ○ 14 - 3	● 0 - 17 ● 1 - 13		3

3部C	経済	佛教	和歌山	順
大阪経済		● 2 - 19 ● 5 - 18	○ 12 - 10 ○ 14 - 0	2
佛教	○ 19 - 2 ○ 18 - 5		○ 7 - 3 ○ 10 - 0	1
和歌山	● 10 - 12 ● 0 - 14	● 3 - 7 ● 0 - 10		3

3部優勝決定戦

準決勝戦 京都学園大学 5 - 4 大阪府立大学

決勝戦 佛教大学 6 - 2 京都学園大学

※佛教大学は2部自動昇格

1部 - 2部入れ替え戦

大阪産業大学 4 - 1 大阪大学

※大阪産業大学は1部残留

2部 - 3部入れ替え戦

流通科学大学 4 - 8 京都学園大学

※流通科学大学は3部降格

京都学園大学は2部昇格

■西日本インカレ出場大学

(リーグ戦結果の上位10チームが出場)

立命館大学、京都産業大学、関西大学、同志社大学、大阪産業大学、龍谷大学、大阪大学、京都大学、神戸学院大学、四天王寺大学

■インカレ予選結果

Aブロック

関西大学	9	
神戸学院大学	9	1
京都学園大学	0	1
大阪工業大学	2	3
四天王寺大学	11	

Bブロック

同志社大学	8	
京都大学	8	10
甲南大学	1	0
大阪府立大学	4	0
佛教大学	7	

Cブロック

大阪産業大学	10	
兵庫教育大学	9	9
近畿大学	7	0
大阪大学	5	0
神戸大学	10	

Dブロック

龍谷大学	16			
大阪体育大学	14			
大阪市立大学	6	8		
流通科学大学	(棄権)	0		
大阪経済法科大	7	1		

※リーグ戦1部優勝、準優勝チームに併せて、各ブロックを制した4チームの計6チームが出場を決定!!

立命館大学、京都産業大学、関西大学、同志社大学、大阪産業大学、龍谷大学

総評

昨年度40周年を迎え、気持ちも新たに臨んだ第41回の関西男子春季リーグ戦。

ただ、残念ながら1部校の大阪経済法科大学が人数不足により大会を急遽欠場し、1部は5チームとなった。その内容は?という、勝敗表を見

れば分かる通り、大接戦で2勝1敗1分の優勝（立命館大学）となった。各チームの実力が均衡しているというよりも圧倒的な力を誇るチームが存在しないというのが正直なところである。

一方、2部はブロックを全勝で制した大阪大学と龍谷大学の決勝となった。龍谷大学は快勝し、久しぶりの1部復帰となっただけでなく、その後のインカレ予選でも勝利し、1部昇格とインカレ出場という2つの大きな喜びを手にした。

3部はチーム数の関係で変則な実施をしたが、佛教大学がブロック決勝まですべて全勝で、2部昇格を果たした。また、ブロック決勝で惜敗した京都学園大学も入れ替え戦で勝利し、2部昇格を果たした。

ここ数回のリーグ戦では、2部と3部の入れ替えが頻繁に起こっており、2部下位と3部上位の力の差はほとんどなくなったと言ってよいだろう。（理事長 森田啓之）

平成21年度第41回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成20年4月11、12、18、19、29日、5月2、3、4日

会場：園田学園女子大学・大阪大谷大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・四天王寺大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	立命館	大阪大谷	大阪国際	天理	神戸親和	武庫川	龍谷
園田学園		○7-3	○3-1	○7-1	○6-1	○3-0	○10-0	○7-2
立命館	●3-7		○1-0	●0-5	○4-1	○6-4	○4-0	●8-10
大阪大谷	●1-3	●0-1		○8-0	○3-1	○8-4	○4-2	○2-0
大阪国際	●1-7	○5-0	●0-8		○6-1	●1-3	●2-5	●4-6
天理	●1-6	●1-4	●1-3	●1-6		●0-2	○7-4	○8-4
神戸親和	●0-3	●4-6	●4-8	○3-1	○2-0		○2-0	○3-0
武庫川	●0-10	●0-4	●2-4	○5-2	●4-7	●0-2		●0-4
龍谷	●2-7	○10-8	●0-2	○6-4	●4-8	●0-3	○4-0	

1 部最終成績

優勝	園田学園女子大学（7勝0分0敗）
2位	大阪大谷大学（5勝0分2敗）
3位	立命館大学（4勝0分3敗）
4位	神戸親和女子大学（4勝0分3敗）
5位	龍谷大学（3勝0分4敗）
6位	大阪国際大学（2勝0分5敗）
7位	天理大学（2勝0分5敗）
8位	武庫川女子大学（1勝0分6敗）

※3・4位、6・7位は直接対戦の勝敗による。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	佐古井倫子	立命館大学	0.500
2位	杉山 里奈	神戸親和女子大学	0.454
3位	有時 杏奈	龍谷大学	0.428
4位	船田 ゆり	園田学園女子大学	0.416
5位	吉田 薫	龍谷大学	0.407
6位	下山 洋子	大阪大谷大学	0.391
7位	木村 光里	立命館大学	0.384
8位	加藤 文恵	園田学園女子大学	0.375
9位	青野 可奈	立命館大学	0.346
9位	黒田 湖歩	天理大学	0.346

2 部リーグ戦対戦成績

チーム	関西外語	大阪体育	大阪府立	びわこ成蹊	奈良教育	四天王寺	勝	分	敗	順位
関西外語		○2-1	○18-0	○8-1	○11-1	○11-0	5	0	0	1位
大阪体育	●1-2		○10-0	●7-8	○9-2	○10-1	3	0	2	3位
大阪府立	●0-18	●0-10		●0-14	○9-6	●6-13	1	0	4	5位
びわこ成蹊	●0-8	○8-7	○14-0		○13-3	●3-4	3	0	2	2位
奈良教育	●1-11	●2-9	●6-9	●3-13		○15-9	1	0	4	6位
四天王寺	●0-11	●1-10	○13-6	○4-3	●9-15		2	0	3	4位

※2・3位、5・6位は直接対戦の勝敗による。

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	藤井茉那美	びわこ成蹊スポーツ大学	0.590
2位	村上 己月	関西外国語大学	0.555

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	西岡 里恵	園田学園女子大学	0.72
2位	田家 由里	大阪大谷大学	1.07
3位	藤本 理沙	立命館大学	1.29
4位	中里見友紀子	大阪国際大学	1.57
5位	山田 麻未	神戸親和女子大学	1.63

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	森田 涼	遊撃手
大阪大谷大学	田家 由里	投手
立命館大学	落合 有佳	捕手
神戸親和女子大学	山田 麻未	投手
龍谷大学	吉田 薫	右翼手
大阪国際大学	細木 好美	外野手
天理大学	梶岡祐女也	投手
武庫川女子大学	西口 真紀	中堅手

盗塁賞：青野 佳奈 立命館大学

新井 賢紗 神戸親和女子大学

記録3

ホームラン賞：杉山 里奈 神戸親和女子大学
吉田 薫 龍谷大学

記録3

3位	入田 愛弓	四天王寺大学	0.535
4位	酒井結衣子	四天王寺大学	0.529
5位	鼻登 紗弥	奈良教育大学	0.523
6位	阿久香保里	奈良教育大学	0.473
7位	安井加奈子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.434

8位	松井美裕子	奈良教育大学	0.428
9位	上田 麻穂	四天王寺大学	0.416
10位	土肥 麻紀	四天王寺大学	0.413

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	檜垣 綾	関西外国語大学	2.50
2位	石崎菜穂子	びわこ成蹊スポーツ大	3.04
3位	北田 玲子	大阪府立大学	3.42

ベストプレー賞

3部対戦成績表

チーム	佛教神戸	兵庫教育	摂 南	京都女子	勝	分	敗	順 位
佛教神戸		● 1 - 11	● 9 - 19	● 5 - 16	0	0	3	4位
兵庫教育	○ 11 - 1		○ 19 - 16	○ 19 - 3	3	0	0	1位
摂 南	○ 19 - 9	● 16 - 19		○ 14 - 4	2	0	1	2位
京都女子	○ 16 - 5	● 3 - 19	● 4 - 14		1	0	2	3位

※佛教神戸：佛教大学・神戸学院大学の合同チーム

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	山田 理恵	摂南大学	0.692
2位	森本由香里	京都女子大学	0.667
3位	三宅佳奈子	兵庫教育大学	0.647
4位	中山 静香	摂南大学	0.526
5位	金田 明子	兵庫教育大学	0.526
6位	藤井 恵	兵庫教育大学	0.466
6位	関川 依子	佛教大学	0.466
8位	北川 裕美	兵庫教育大学	0.444
8位	松尾 有起	摂南大学	0.444
10位	酒井 郁美	摂南大学	0.437
10位	辻上 知佳	神戸学院大学	0.437

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	中山 静香	兵庫教育大学	10.3
2位	松田 美葵	京都女子大学	15.1
3位	三宅佳奈子	摂南大学	15.4

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
兵庫教育大学	櫻井 明菜	遊撃手

大 学	氏 名	守備位置
関西外国語大学	吉田華奈子	捕 手
びわこ成蹊スポーツ大	南 和花菜	捕 手
大阪体育大学	小鉄 絵美	一塁手
四天王寺大学	上田 麻穂	内野手
大阪府立大学	柏村 志織	三塁手
奈良教育大学	小口 真季	二塁手

盗塁賞：安井加奈子 びわこ成蹊スポーツ大学
記録10

摂南大学	松尾 有起	内野手
京都女子大学	林 真衣	一塁手
佛教大学・神戸学院大学	上田 陽	内野手
盗塁賞：金田 明子	兵庫教育大学	記録8

リーグ戦総評

【1部評価】

1部の試合ではインカレ5枠を争う白熱した試合ばかりであった。どの大学もインカレ出場権を獲る為にチーム一丸となり一球を追っていた。何か一つの目標に向かって努力する姿は観客にも感動を与えたであろう。

一次予選から二次部別の試合を全て勝ち取り、園田学園女子大学が全勝優勝を果たし、力を魅せつけた。インカレで関西地区からの日本一が出ることを期待する。

どこの大学もこのリーグ戦を終え、様々な思いがある。その思いを夏の大会、又は秋季リーグにぶつけて欲しい。そして各大学が互いに切磋琢磨し合うことで関西ソフトボール連盟の発展に繋がっていくことだろう。

文責： 森 尋美（園田学園女子大学）

【2部評価】

今回の春季リーグでは、各チームの良さがたくさん見られた試合ばかりだった。コールドゲームが多かったものの、最後まで諦めることなく、勝利に向かってチーム全員でプレーする姿を見て、改めてソフトボールの楽しさや、仲間がいることのありがたさを感じることができた。同じメンバーでソフトボールができる時間が減っていく中で、練習から、チームの仲間と心から楽しんでプレーしていきたい。そして、秋季リーグでは1部を目指してどのチームも白熱した戦いをくりひろげることを期待する。

文責： 清木 知子（大阪体育大学）

【3部評価】

3部の学校は少ない人数のチームが多く、2校合同のチームも見られました。人数は少ないけれど、どのチームも声が途切れることなく、チーム一丸となり、試合を盛り上げることができました。

守備では、バックが守備で投手を支え、攻撃では、投手に臆する事なく思い切ったバッティングが出来ていました。ですが、一つミスがあるとそこから崩れてしまうのも多く見られました。

今後秋リーグに向けて、どのチームも攻守ともに更なる技術・精神力の向上に期待したいです。

文責： 北川 裕美（兵庫教育大学）

平成21年度第41回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成21年10月4・11・12・18・25日、11月1・3日

会場：吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	京都産業	立命館	同志社	関西	大阪産業	龍谷	勝	分	敗	順位
京都産業		○6-2	○4-0	○4-1	○9-3	○7-3	5	0	0	優勝
立命館	●2-6		○9-1	△4-4	○11-1	○10-0	3	1	1	2位
同志社	●0-4	●1-9		○6-2	○7-6	○6-1	3	0	2	3位
関西	●1-4	△4-4	●2-6		○13-2	○8-7	2	1	2	4位
大阪産業	●3-9	●1-11	●6-7	●2-13		○7-1	1	0	4	5位
龍谷	●3-7	●0-10	●1-6	●7-8	●1-7		0	0	5	6位

※京都産業大学は3季ぶり20度目の優勝

2部リーグ戦結果

2部A	兵庫教育	神戸学院	四天王寺	佛教	大阪経法	勝	分	敗	順位
兵庫教育		●9-10	●2-8	●3-8	○4-3	1	0	3	4位
神戸学院	○10-9		●0-2	○10-0	○19-3	3	0	1	2位
四天王寺	○8-2	○2-0		●3-4	○9-0	3	0	1	1位
佛教	○8-3	●0-10	○4-3		○11-2	3	0	1	3位
大阪経法	●3-4	●3-19	●0-9	●2-11		0	0	4	5位

※1位～3位は大会規定による。

2部B	京 都	甲 南	大 阪	京都学園	神 戸	勝	分	敗	順 位
京 都		○ 5 - 2	● 4 - 5	○ 10 - 5	● 4 - 5	2	0	2	3 位
甲 南	● 2 - 5		● 3 - 5	△ 4 - 4	○ 7 - 4	1	1	2	4 位
大 阪	○ 5 - 4	○ 5 - 3		● 4 - 6	● 3 - 4	2	0	2	2 位
京都学園	● 5 - 10	△ 4 - 4	○ 6 - 4		● 1 - 7	1	1	2	5 位
神 戸	○ 5 - 4	● 4 - 7	○ 4 - 3	○ 7 - 1		3	0	1	1 位

※1位～2位は直接対戦の勝敗による。

2部優勝決定戦

四天王寺大学 0 - 3 神戸大学

※神戸大学は2部優勝・1部自動昇格

2部9・10位決定戦

大阪経法大学 4 - 5 京都学園大学

※大阪経法大学は自動的に3部に降格

3部リーグ戦結果

3部A	大阪府立	関西学院	和 歌 山	大阪工業	大阪体育	勝	分	敗	順 位
大阪府立		○ 14 - 0	○ 10 - 2	○ 8 - 1	● 4 - 9	3	0	1	2 位
関西学院	● 0 - 14		● 4 - 7	● 4 - 12	● 0 - 7	1	0	3	5 位
和 歌 山	● 2 - 10	○ 7 - 4		● 0 - 15	● 1 - 15	1	0	3	4 位
大阪工業	● 1 - 8	○ 12 - 4	○ 15 - 0		● 5 - 10	2	0	2	3 位
大阪体育	○ 9 - 4	○ 7 - 0	○ 15 - 1	○ 10 - 5		4	0	0	1 位

※4位～5位は直接対戦の勝敗による。

3部A	近 畿	大阪経済	大阪市立	奈良教育	流通科学	勝	分	敗	順 位
近 畿		● 10 - 13	○ 4 - 2	○ 6 - 2	● 0 - 7	2	0	2	3 位
大阪経済	○ 13 - 10		○ 11 - 4	○ 6 - 2	○ 7 - 2	4	0	0	1 位
大阪市立	● 2 - 4	● 4 - 11		○ 13 - 2	● 5 - 8	1	0	3	4 位
奈良教育	● 2 - 6	● 2 - 6	● 2 - 13		● 0 - 7	0	0	4	5 位
流通科学	○ 7 - 0	● 2 - 7	○ 8 - 5	○ 7 - 0		3	0	1	2 位

3部優勝決定戦

大阪体育大学 4 - 14 大阪経済大学

※大阪経済大学は2部自動昇格

※京都学園大学は3部降格

※大阪体育大学は2部昇格

1部－2部入れ替え戦

大阪産業大学 3 - 1 四天王寺大学

※大阪産業大学は1部残留

総評

まずこの秋季リーグで特筆すべきは、「イエローボールの採用」であった。従来から飛び過ぎると言われたボール、そして狭い万博会場でリーグを行ってきたが、イエローボールの採用でどれく

らいホームランが減るのだろうか、投手や野手に影響がどれくらいあるのかに自然と注目が集まった。

1部は、松本（立命館）、菅村（京都産業）、開田（大阪産業）という好投手が抜けた中で、各チームがどのような戦いを見せるかが鍵であった。結果は、総合力に勝る京都産業大学が全勝で優勝を果たした。2部から昇格した龍谷大学は残念ながら、1季で降格となった。

2部は、Aブロックが神戸学院大学と四天王寺大学が得失点差争いで最終日までつれたが、チームとしてまとまりのあった四天王寺大学が1位となった。Bブロックは、投手力で頭一つ抜けていた神戸大学が同じく1位となり、その勢いでブロック決勝でも完封し、十数年ぶりの1部復帰を果たした。また、残念ながら、今回復帰した大阪

経済法科大学は全敗で3部降格となった。実績のあるチームゆえに今後の巻き返しを期待したい。

3部は、大阪体育大学と大阪経済大学がそれぞれブロックを制し、入れ替え戦も含め、両チームとも2部昇格となった。春にも2部・3部は2チームの入れ替えだったが、今季も同じくである。3部のチームはすべてのチームにチャンスがあると言ってもよく、来季も見逃せない。

リーグ戦全体を総括すると、イエローボールの導入によって、明らかに投手の投球に影響が出ていた。高い縫い目にまだ馴染めずコントロールに苦しむ場面が多く見られた。また、「手打ちのホームラン」は確かに減った感はある。来年への課題は、このイエローボールへの対応（「投」と「打」）をどれくらいチームで行うかであろう。

（理事長 森田啓之）

平成21年度第41回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成21年9月12・13・19・20・21日、10月3・4・10・11日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	立 命 館	大阪国際	神戸親和	龍 谷	大阪大谷	天 理	関西外語
園田学園		○10-0	●0-3	○1-0	○5-3	△2-2	○6-1	○5-0
立 命 館	●0-10		○6-5	○1-0	○2-0	○3-2	○4-1	○6-5
大阪国際	○3-0	●5-6		●4-6	●1-4	○4-3	○3-2	○3-0
神戸親和	●0-1	●0-1	○6-4		○4-2	●1-3	○3-0	○12-5
龍 谷	●3-5	●0-2	○4-1	●2-4		○3-0	○9-0	○13-0
大阪大谷	△2-2	●2-3	●3-4	○3-1	●0-3		○10-0	○6-0
天 理	●1-6	●1-4	●2-3	●0-3	●0-9	●0-10		●3-6
関西外語	●0-5	●5-6	●0-3	●5-12	●0-13	●0-6	○6-3	

1部最終成績

優勝 立 命 館 大 学（6勝0分1敗）

2位 園田学園女子大学（5勝1分1敗）

3位 神 戸 親 和 大 学（4勝0分3敗）

- 4位 龍谷大学(4勝0分3敗)
 5位 大阪国際大学(4勝0分3敗)
 6位 大阪大谷大学(3勝1分3敗)
 7位 関西外国語大学(1勝0分6敗)
 8位 天理大学(0勝0分7敗)

※3～5位は直接対戦の勝敗による。

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	得真莉菜	大阪大谷大学	0.680
2位	西山遥子	大阪国際大学	0.579
3位	近藤琴美	園田学園女子大学	0.540
4位	島津あゆみ	龍谷大学	0.522
5位	末方杏実	神戸親和女子大学	0.500
6位	田井静香	龍谷大学	0.500
7位	安部詩織	龍谷大学	0.474
8位	山中優美	立命館大学	0.423
9位	村上己月	関西外国語大学	0.410
9位	前出由佳	龍谷大学	0.409

投手成績

2部リーグ戦対戦成績

チーム	武庫川	びわこ成蹊	大阪府立	大阪体育	兵庫教育	四天王寺	勝	分	敗	順位
武庫川		○10-0	○10-0	○2-1	○10-0	○11-1	5	0	0	1位
びわこ成蹊	●0-10		○7-2	●1-9	○9-1	○9-7	3	0	2	3位
大阪府立	●0-10	●2-7		●3-16	●1-5	●2-11	0	0	5	6位
大阪体育	●1-2	○9-1	○16-3		○3-1	○8-0	4	0	1	2位
兵庫教育	●0-10	●1-9	○5-1	●1-3		○11-4	2	0	3	4位
四天王寺	●1-11	●7-9	○11-2	●0-8	●4-11		1	0	4	5位

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	藤井茉那美	びわこ成蹊スポーツ大学	0.631
2位	松下優子	びわこ成蹊スポーツ大学	0.526
3位	山本瞳依	大阪体育大学	0.523
3位	酒井結衣子	四天王寺大学	0.523
5位	上野加央里	びわこ成蹊スポーツ大学	0.500
5位	小杉はるな	四天王寺大学	0.500

順位 氏名 大学 防御率

1位	西岡里恵	園田学園女子大学	0.59
2位	田家由里	大阪大谷大学	0.81
3位	中里見友紀子	大阪国際大学	1.13
4位	島津あゆみ	龍谷大学	1.24
5位	笹山あやか	神戸親和女子大学	2.03

ベストプレイ賞

大学 氏名 守備位置

立命館大学	坂本香苗	三塁手
園田学園女子大学	西岡里恵	投手
神戸親和女子大学	大塚潤	捕手
龍谷大学	島津あゆみ	投手
大阪国際大学	大村恵利佳	内野手
大阪大谷大学	得真梨菜	中堅手
関西外国語大学	堺絵莉子	捕手
天理大学	小森田真衣	一塁手

盗塁賞：近藤琴美 園田学園女子大学 記録5

ホームラン賞：谷池紫穂 園田学園女子大学

堺絵莉子 関西外国語大学

記録3

7位 竹森久美 武庫川女子大学 0.478

8位 上田麻穂 四天王寺大学 0.470

9位 青木万里子 大阪体育大学 0.450

9位 清木知子 大阪体育大学 0.450

9位 入田愛弓 四天王寺大学 0.450

投手成績

順位 氏名 大学 防御率

1位	夏川麻沙子	大阪体育大学	0.32
2位	河邊まな美	びわこ成蹊スポーツ大学	3.13

3位 前田有希子 大阪府立大学 4.26

ベストプレー賞

大 学 氏 名 守備位置

武庫川女子大学 大島あずさ 一塁手

大阪体育大学 澤田美和子 外野手

3部対戦成績表

チーム	奈良教育	摂 南	京都女子	佛 教	勝	分	敗	順 位
奈良教育		○11-4	○10-0	○11-1	3	0	0	1位
摂 南	●4-11		○12-6	○13-12	2	0	1	2位
京都女子	●0-10	●6-12		●14-15	0	0	3	4位
佛 教	●1-11	●12-13	○15-14		1	0	2	3位

3部個人表彰

打撃成績

順位 氏 名 大 学 打率

1位 山口 千智 京都女子大学 0.818

2位 阿久香保里 奈良教育大学 0.714

3位 鼻登 紗弥 奈良教育大学 0.583

4位 森田 恵 佛教大学 0.562

5位 谷川 美緒 奈良教育大学 0.545

6位 松尾 有起 摂南大学 0.416

7位 伊野 梓 奈良教育大学 0.400

7位 大橋 由佳 奈良教育大学 0.400

7位 山本美智子 奈良教育大学 0.400

7位 古尾 有香 佛教大学 0.400

投手成績

順位 氏 名 大 学 防御率

1位 中山 静香 摂南大学 3.63

2位 鼻登 紗弥 奈良教育大学 4.34

3位 関川 依子 佛教大学 9.42

ベストプレー賞

大 学 氏 名 守備位置

奈良教育大学 大橋 由佳 外野手

摂南大学 長南 悠 内野手

佛教大学 関川 依子 内野手

京都女子大学 植山明日香 中堅手

盗塁賞：金山 恵理子 佛教大学 記録5

びわこ成蹊スポーツ大学 秋山真里菜 トレーナー

兵庫教育大学 畠山 晶子 右翼手

四天王寺大学 上田 麻穂 捕 手

大阪府立大学 岩崎 智子 外野手

盗塁賞：森上 真衣 武庫川女子大学 記録6

上田 陽 佛教大学 記録5

森田 恵 佛教大学 記録5

1部リーグ戦総評

秋季リーグでは新チームで迎える大学や引退生を含め、最後の試合となった大学もあった。各チーム様々な思いで戦った9日間となった。予選リーグを全勝で勝ち抜いた、園田学園女子大学と立命館大学。立命館大学は秋季リーグより新チームになり、勢いを見せ付けた。最後まで力を見せ付け優勝を飾った。

この秋季リーグを終えて各チーム様々な課題ができ、実りある大会となったのではないかな。次のシーズンに向け、互いに切磋琢磨することで関西リーグの更なる発展に繋がることを願う。（文責：森 尋美 園田学園女子大学）

2部リーグ戦総評

各チーム共、元気に精一杯のプレーをしていた。ただ、各校に力の差があり、コールドゲームが多く見られたのが残念だ。

今後、各チームのレベルアップを期待し、関西リーグ全体を盛り上げていきたい。（文責：山中 繭子 武庫川女子大学）

3部リーグ戦総評

3部の試合は、全体的に点の取り合いだったと思う。守備でのミスが多く、少ない失点で、相手チームを抑えるという場面が少なかった。次のリ

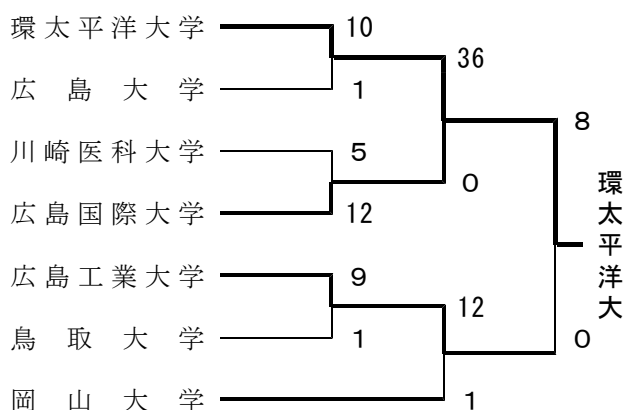
ーグでは、守備でのミスを減らし、守備で良い流れを作り、それを攻撃に繋げていけるようにしたい。（文責：松尾 彩香 奈良教育大学）

第44回全日本大学・第41回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

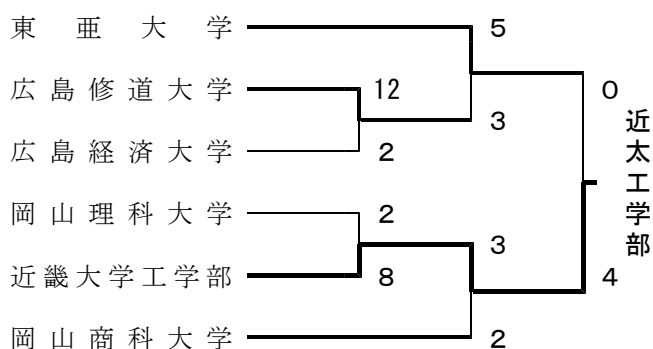
会期：平成21年5月23日（土）・24日（日）

会場：鳥取県倉吉市／鳥取短期大学他

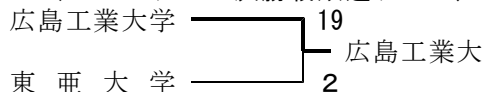
男子Aゾーン



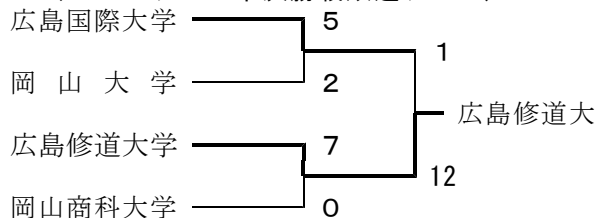
男子Bゾーン



全日本大学選手権大会第三代表決定戦 (A・Bゾーン決勝戦敗退チーム)



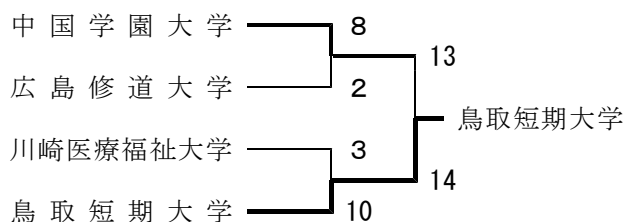
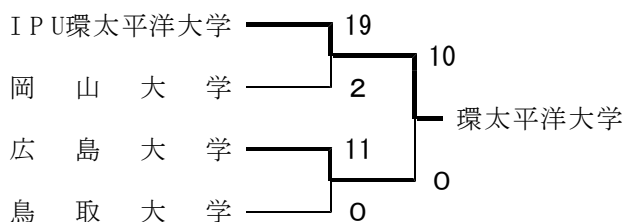
西日本大学選手権大会五代表決定戦 (A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム)



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学・近畿大学工学部・広島工業大学

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学・近畿大学工学部・広島工業大学・東亜大学・広島修道大学

女子



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学・鳥取短期大学

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学・鳥取短期大学・広島大学・中国学園大学

第9回中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成21年11月 7 日(土)・8 日(日)

会場：広島市／広島修道大学グラウンド、他

男子

広島修道大学 17
 広島国際大学 2
 岡山理科大学 6
 近畿大学工学部 7
 鳥取大学 0
 岡山商科大学 0
 広島工業大学 3
 広島経済大学 4
 環太平洋大学 7
 岡山大学 2
 広島大学 1

講評 第9回中国地区大学選手権大会は、広島市ソフトボール協会のご協力を得、広島修道大学と出島西公園に会場を分け開催した。当初、大会エントリー数は、男子12、女子8であったが、東亜大学（男子）と広島大学（女子）の2チームが新型コロナウイルスのため、急遽出場を取り止め、

女子

環太平洋大学 14

広島修道大学 0

中国学園大学 12

川崎医療福祉大学 15

岡山大学 2

鳥取短期大学 17

鳥取大学 1

6

1

8

7

4

男子11、女子7チームの大会となった。

結果は、男女ともに環太平洋大学が圧倒的な強さを見せつけ優勝を果たした。全般的には、大味な試合が多く（点差コールドゲームが16試合中9試合）、今オフにおける来春に向けてのチーム強化が課題となる大会であった。（鳥取短期大学 逢坂秀樹）

平成21年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

会期：平成21年4月25日(土)・26日(日)

会場：愛媛県新居浜市／国領川河川敷グランド

香川大学 5
松山大学 6
高知大学 5
愛媛大学 6
四国学院大学 2

抽選
5
0
優勝 愛媛大学
6
12

3位決定戦
香川大学 7
高知工科大学 6

高知工科大学 ————— 2

※25日雨天のため、26日にトーナメント戦を実施

第44回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会 —兼、第41回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会—

会期：平成21年5月17日(土)・18日(日)

会場：高知県香南市／野市青少年センターグラウンド

男子

高知大学	5				
香川大学	16	2	1		
松山大学	4				
四国学院大学	4				
高知工科大学	11	3	10		
愛媛大学				15	

香川大学	12	
高知工科大学	5	

3位 香川大学

全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学・
高知大学

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛大学・
高知大学・
香川大学

女子

チーム	香川大学	愛媛短大	四国大学	勝	敗	順位
香川大学		● 0-18	○ 10-0	1	1	2位
愛媛女子短期大学	○ 18-0		○ 9-2	2	0	優勝
四国大学	● 0-10	● 2-9		0	2	3位

全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学

西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学・
香川大学

平成21年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成21年10月17日(土)・18日(日)

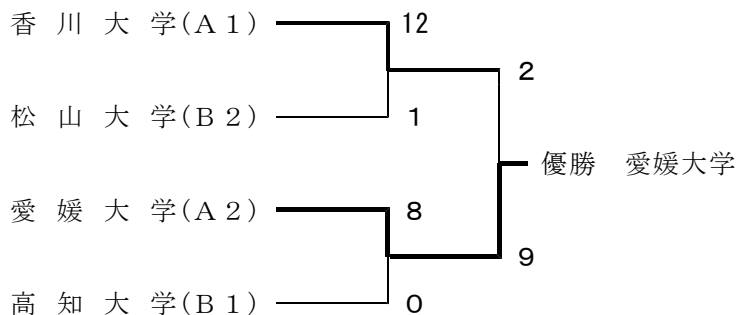
会場：香川県坂出市／トクヤマ坂出グラウンド・林田運動公園

男子予選リーグ

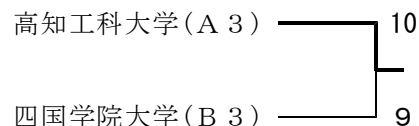
Aグループ	愛媛	香川	高工	順
愛媛		● 1-14	○ 4-1	2
香川	○ 14-1		△ 7-7	1
高知工科	● 1-4	△ 7-7		3

Bグループ	高知	四学	松山	順
高知		○ 11-1	△ 7-7	1
四国学院	● 1-11		● 4-10	3
松山	△ 7-7	○ 10-4		2

男子決勝トーナメント



5・6位決定戦



女子

チー ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順 位
愛媛女子短期大学		○15-0	○20-2	2	0	優勝
香川大学	●0-15		○15-3	1	1	2位
四国大学	●2-20	●3-15		0	2	3位

第27回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
（兼、第43回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

会期：平成21年5月30日（土）・31日（日）日

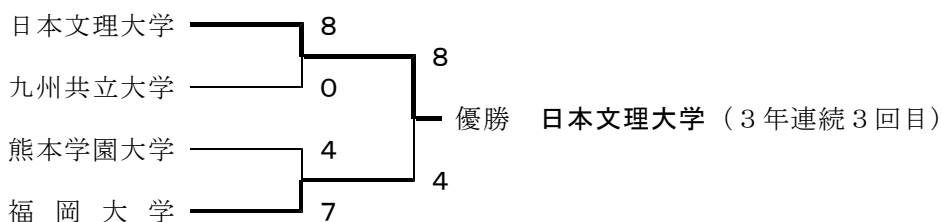
会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

女子

予選リーグA	熊 学	九 共	名 桜	順位
熊本学園大学		● 4-5	○ 9-0	2位
日本文理大学	○ 5-4		○ 13-0	1位
名桜大学	● 0-9	● 0-13		3位

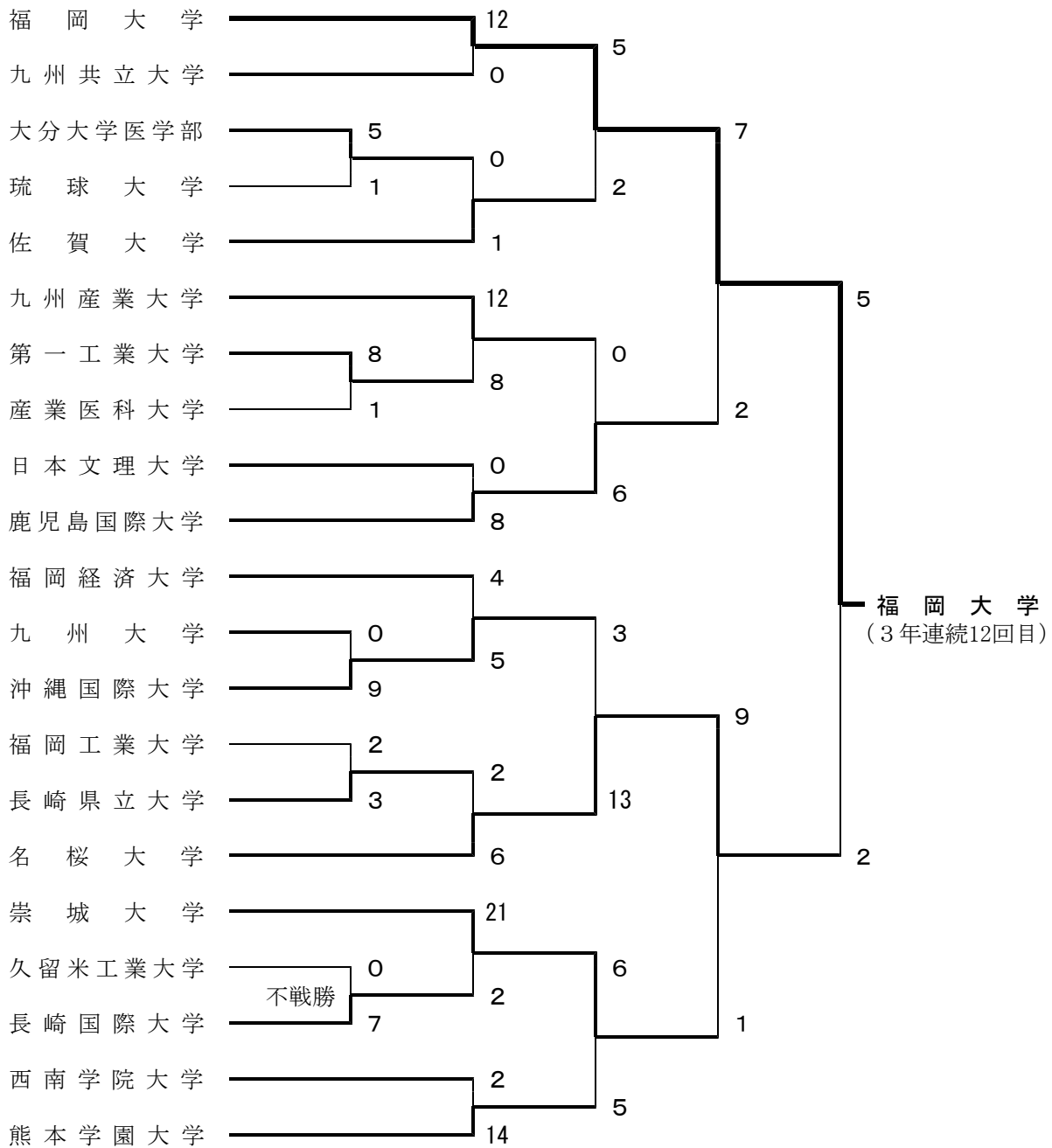
予選リーグB	九 共	福 岡	沖 国	順位
九州共立大学		● 4-6	○ 8-0	2位
福岡大学	○ 6-4		○ 10-3	1位
沖縄国際大学	● 0-8	● 3-10		3位

決勝トーナメント

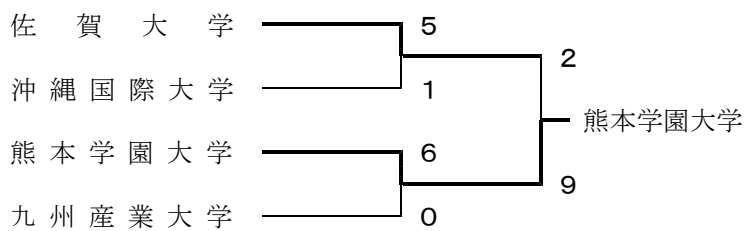


※3年連続3回目の優勝を果たした日本文理大学が全日本大学選手権の出場権獲得

男子



第5代表決定戦



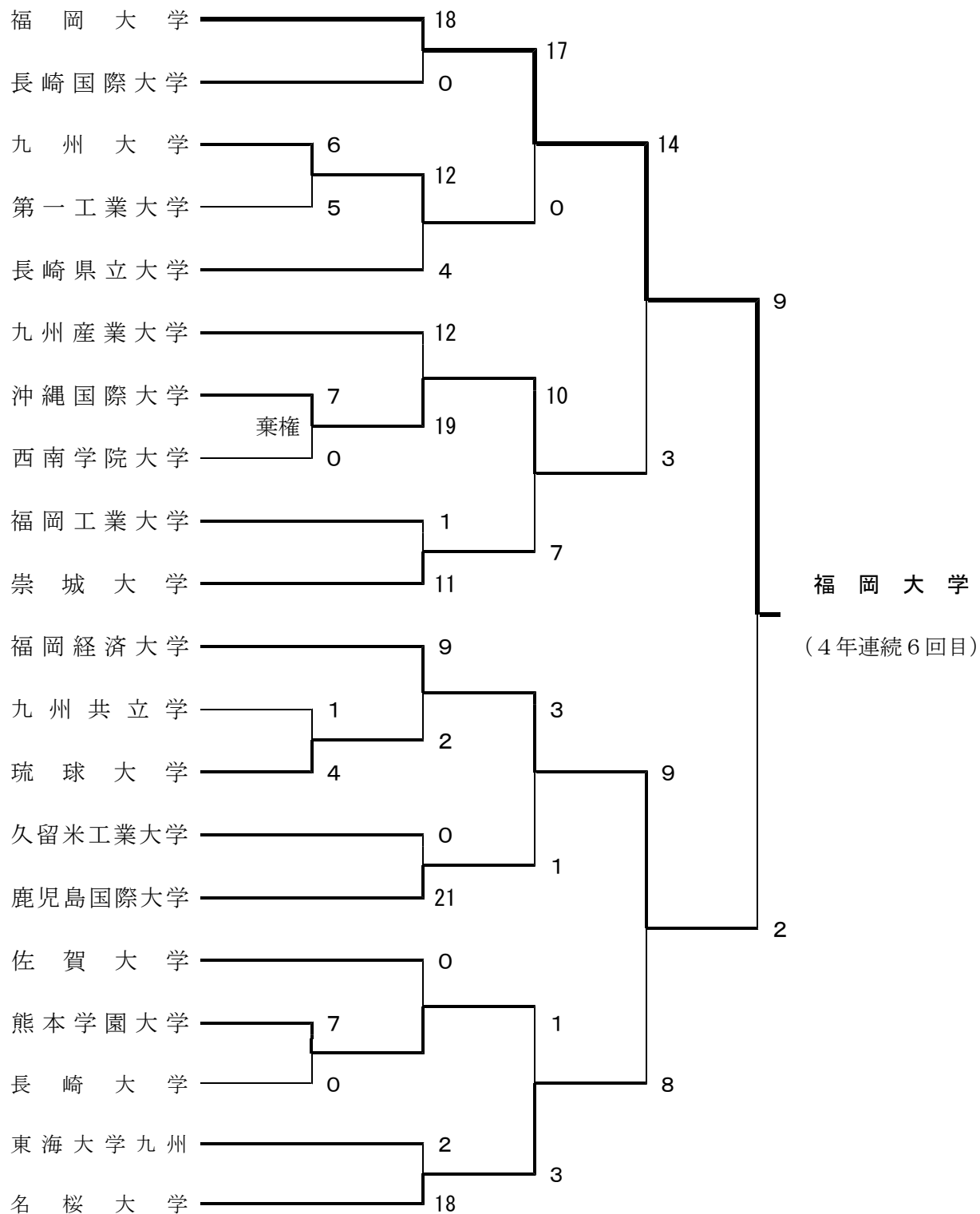
※第44回全日本大学(男子)選手権大会出場権獲得校：福岡大学・名桜大学・鹿児島国際大学・崇城大学・熊本学園大学

第9回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

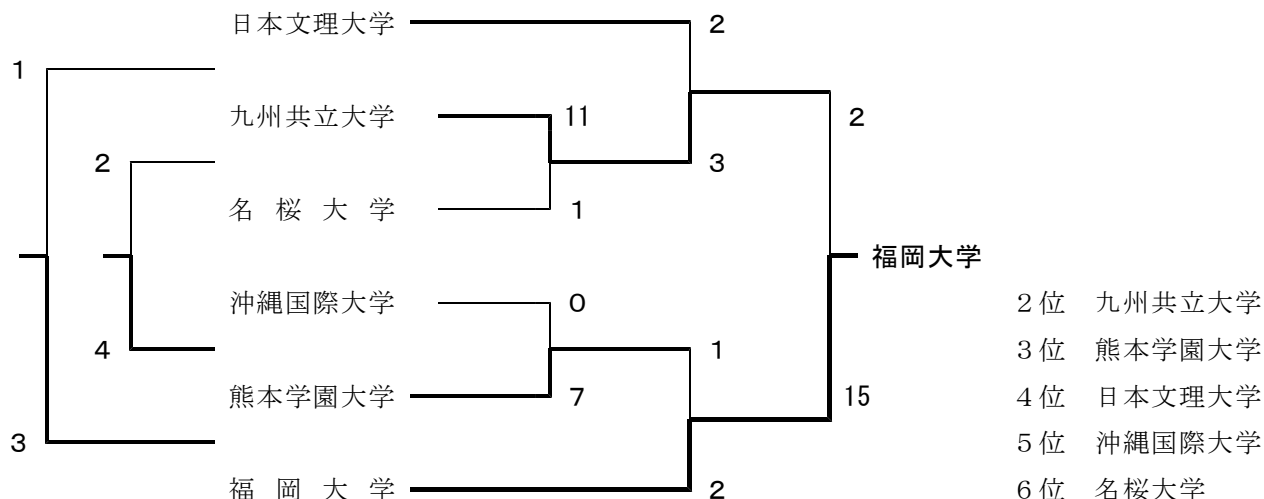
会期：平成21年11月7日（土）・8日（日）

会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場他

男 子



女 子



－平成21年度－

大学連盟加盟チームによるソフトボール普及活動の実績報告

理事長 末井 健 作

大学連盟は、加盟大学チームの競技力の向上を図ることは最も重要な柱としていますが、競技種別を問わず地域社会においてソフトボールを普及するための活動も重要な責務と考えています。この度初めて連盟として加盟大学のソフトボールの普及活動を把握いたしました。これからも多くの加盟大学が地域社会と連携し普及活動を行っていきたいと考えています。なお、以下に掲載したのは実施予定事業も含めて、今回各地区より報告があったものです。

【近畿地区】

◎大阪大谷大学

事業名：ソフトボール教室（柏原市教育委員会）

日程：平成21年5月31日

会場：大阪大谷大学グラウンド

対象：こども会ソフトボールチーム約200名

概要：ソフトボールの基本技術の指導。

事業名：ソフトボール教室

日程：平成21年11月29日

会場：大阪大谷大学グラウンド

対象：中学生・高校生約100名

概要：基本技術、並びに発展的技術の指導

◎大阪国際大学

事業名：守口市との教育連携事業

概要：平成21年より守口市の中学校（2校）へ学生指導者を派遣。基本は週に2～3回、時間は2時間ほどで内容はソフトボールの実技指導。

事業名：北河内中体連ソフトボール部実技講習会

日程：平成21年12月5日

会場：門真市立第六中学校

概要：北河内地区の中学生200名を対象とした、ウォーミングアップ・ピッチング・守備・打撃の実技講習会に協力

事業名：大阪市第5ブロックソフトボール部実技

講習会

日程：平成22年1月9日

会場：新生野中学校

概要：大阪市第5ブロックの中学生80名を対象とした、ウォーミングアップ・ピッチング・守備・打撃の実技講習会に協力

◎神戸親和女子大学

事業名：中学生交流研修会

日程：平成21年7月4・5日

会場：神戸親和女子大学グラウンド

概要：中学生約80名を対象に、ポジション別での基本練習会と他府県チームとの交流試合、並びに技術指導

事業名：神戸サマーキャンプ

日程：平成21年8月1～4日

会場：神戸親和女子大学グラウンド、神戸親和女子大学鈴蘭台西グラウンド

概要：高校生150名を対象に、高校生の新チームでの練習会。基本練習組み、実践練習組みに分かれての合同練習（学生が企画・運営・指導）

事業名：NPO法人アマ、バンド&スポーツ（通称名ABS）主催「ジュニアのためのベースボール・トレーニングクリニック」（ABSの事業を受けて本学との共催で開催）

日程：平成21年11月28日、12月5、19日

会場：神戸親和女子大学グラウンド

対象：延べ参加人数は小・中・高校生210名。

概要：スポーツ（野球・ソフトボール）活動を通しての、青少年の健全なる育成をテーマとして、専門的な指導を受け、子どもたちのモチベーションを高めながら技術向上を目的とする講習会

外部講師である矢野眞司氏（アスリートジャングル代表・ベースボールトレーニングが専門）を招聘し、学生がアシスタントを務める。

事業名：NPO法人アマ、バンド&スポーツ（通称名ABS）主催、第2回「ソフトボールフ

ェステバルIN KOBE」（ABSの事業を受けて本学との共催で開催）

日程：平成22年1月30・31日

会場：神戸総合運動公園野球技場

対象：延べ参加人数小・中・高校生約800名

概要：「兵庫県出身の実業団選手及び兵庫県国体成年男子チーム」を中心に講師として迎えての、ソフトボール教室・指導者向けクリニック・選手と子どもの交流会
本学学生が企画・運営

◎園田学園女子大学

事業名：大学コンソーシアムひょうご神戸 キッズオープンキャンパス『スポーツフェスタ』

日程：平成21年10月24日

会場：園田学園女子大学

対象：幼児・小学生30名

概要：ボールを使って打つ・投げるを体験し、ソフトボールの楽しさや、体を動かす楽しさを学ばせる。

事業名：京都府中体連競技力向上ソフトボール講習会

日程：平成21年12月12・13日

会場：京都府洛南中学校

対象：中学生300名

概要：二日間にわたっての指導を実施（初日は基本練習、2日目はポジションに分かれての個別指導など）

事業名：園田学園女子大学・県立但馬ドーム共催地域貢献事業『ソフトボールクリニック』

日程：平成22年2月6・7日

会場：兵庫県立但馬ドーム

対象：小・中学生200名（6日）、高校生・一般100名（7日）

概要：6日は投・捕・打についての基本的技能習得のための様々な練習方法の指導を行う。7日は初心者、中・上級者のレベルに応じた技術練習及び指導を行う（初心

者には、キャッチボール・ゴロ捕球の色々な練習方法やトス・ティーバッティングを中心に的確にミートするポイントを指導。中・上級者には、試合により近い形での守備練習やより遠くに鋭い打球を飛ばすためのアドバイスをを行う。

事業名：尼崎ソフトボール協会『ソフトボールクリニック』

日程；平成22年2月28日

会場；園田学園女子大学

対象；小・中学生100名

概要；投・捕・打についての基本的技能習得のための様々な練習方法の指導を行う。

◎天理大学

事業名：ソフトボール講習会

日程；平成21年2月21日

会場；亀岡高校

対象；亀岡高校・亀岡中学ソフトボール部部員30名

概要；ソフトボールの基本技術、並びに各ポジション別の技術指導

事業名：ソフトボール講習会

日程；平成22年2月頃予定

会場；天理大学

対象；亀岡中学ソフトボール部員約20名

概要；基本技術、並びに各ポジション別の技術指導

【四国地区】

◎愛媛女子短期大学

事業名：総合型スポーツクラブソフトボール教室

会場；愛媛女子短期大学学内グラウンド

対象；宇和島市内小中学生男女

概要；毎月1～2回程度、を対象に、ソフトボール教室を開催し普及活動に取り組んでいる（飽きないように遊びの要素を多く取り入れ、球技の特性や発達段階に応じた、投げる・打つ・走るの基本的な動作を、安全に楽しく指導している）。

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。（研究調査委員会 小川幸三・森田啓之）

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX：（0795）44-2227

E-mail:hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年 7 月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含．抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白25mm・左

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録委員会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、大内敬哉前会長（中京大学）に対し、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜りましたので、平成21年3月8日の総合役員会において「功労表彰」を贈りました。

また、第8回ワールド・ゲームズ2009（高雄）出場選手（6ページ参照）に対し、優秀な成績を収められたので、平成21年8月27日のインカレ開会式終了後、その成果と努力を讃えて「優秀選手表彰」を贈りました。



トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第9回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場のお申し込みは、次の大会要項をご覧のう
え、お願いいたします。

なお、出場の申し込みは学連HP [http://ww](http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/)

[w.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/](http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/) 上のみから、
受け付けています。「大会要項」必ず熟読してか
らお願いいたします。

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第9回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主 催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会
3. 後 援 全日本大学ソフトボール連盟・安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・
(株)中日新聞社
4. 協 賛 トヨタ自動車(株)・(株)豊田自動織機・(株)デンソー・(株)東海理化
5. 特別協賛 ダイワマルエス(株)
6. 大会期間 平成22年3月16日(火)・17日(水)・18日(木)、予備日3月19日(金)
7. 大会会場 安城市総合運動公園(6球場)
8. チーム数 男子12、女子12、計24チーム
9. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチー
ム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
また、監督会議から予備日を含めて全日程に参加できること。
なお、出場申し込み多数の場合は、主催者が各地区における秋季大会の成績と地域性
などを参考に選抜する。
10. 出場資格 主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された選手に限る。
このうち、試合ごとにベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1
名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名、主務1名
の計32名以内とする。
なお、新1年生の出場については、出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認め
る。
11. 参 加 料 1チーム30,000円、登録選手1名につき500円
12. 申込方法 E-mailアドレス mztn@chujo-u.ac.jp へmailの件名を「〇〇大学東海オープン加申込」
とし、1月末日までに申込書を請求すること。また、出場が認められた後、申込書フ
ァイルを返信し、参加料を次の振込口座へ2月12日(金)までに振り込むこと。
【振込口座】
銀行：三菱東京UFJ銀行大府支店 口座番号(普通)1529547
名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博
13. 競技方法 男女各12チームを3チームずつ4グループに分けて予選リーグ戦を1日で実施し、翌

日1位グループ・2位グループ・3位グループ各4チームによる順位決定トーナメント戦を行う。

14. 競技規則 2010年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。
本大会においては、「投手の20秒ルール」と「打者の10秒ルール」を試験的に採用する。
なお、第一日の予選リーグ戦においては、90分を過ぎて次のイニングに入らない。また、サスペンデッドゲームを採用する。
15. 使用球 ダイワマルエス社製公認革ボールとし、主催者が提供する。
16. 審判員 (財)日本ソフトボール協会公認審判員
17. 記録員 (財)日本ソフトボール協会公認記録員
18. 表彰 優勝チームに対し賞状とトヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯を、準優勝・第3位のチームに対し賞状と盾を授与する。なお、トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯は持ち回りとする。
最優秀選手賞と敢闘選手賞として男女各1名に賞状と盾を授与する。
19. 組合抽選 2月19日(金)午後4時から安城市体育館において公開代理抽選を行う。
20. 監督会議 3月16日(火)午後2時から安城市総合運動公園体育館会議室において行う。
21. 開会式 3月16日(火)午後4時から安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
22. 閉会式 全試合終了後、安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
23. 費用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
24. 傷病等 主催者・主管者は大会期間中における傷害・疾病並びに事故等について一切の責任を負わない。損害賠償保険にも加入し、保険証を持参すること。
25. 宿泊弁当 主催者は幹旋しない。ただし、宿泊については関係機関を紹介する。
26. 備考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
27. 交流試合 大会が順調に終了した場合、予備日に最大8試合の交流試合を実施する。なお、この対戦チームについては、希望は伺うものの、主催者に一任されたい。
28. 問合せ先 中京女子大学 水谷 博 E-mail mztn@chujo-u.ac.jp



平成20・21年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	—	
副 会 長	武 藤 幸 政	城西大学	中 野 紀 明	国士舘大学
	中 野 元	熊本学園大学	—	
顧 問	坂 井 正 郎	国士舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	学習院大学名誉教授
	大 内 敬 哉	中京大学名誉教授	—	
理 事 長	末 井 健 作	兵庫県立大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長） hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大和田 寛	仙台大学	小 川 幸 三	日本体育大学
	黒 田 重 靖	富山大学	水 谷 博	中京女子大学
	久保田 豊 司	大阪国際大学	宮 尾 直 海	愛媛女子短期大学
	濱 貴 一	熊本学園大学	—	
理 事	小 嶋 高 良	八戸工業大学	大 塚 健 樹	盛岡大学
	岡 田 万 嗣	山梨学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	吉 野 みね子	東京女子体育大学

理 事	木 藤 盛 雄	成蹊大学	岩 間 英 明	松本大学
	山 本 英 弘	朝日大学	矢 澤 久 史	東海学院大学
	丸 山 悟	日本福祉大学	石 井 賀一郎	中京学院大学
	児 玉 公 正	大谷女子大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	山 本 孔 一	IPU環太平洋大学	新 垣 實	沖縄国際大学
	富 田 国 興	(広島修道大学)	舟 山 健 一	東北福祉大学
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	大 塚 隆	東海大学
	櫻 井 佳代子	新島学園短期大学	石 井 雅 章	城西大学
	高 橋 流 星	日本体育大学	友 坂 敏 信	富山大学
	合 津 正之助	常葉学園大学	廣 田 真 史	名古屋大学
	谷 口 佳津宏	南山大学	磯 野 徹	愛知大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	太 田 貴久男	佛教大学
	秋 澤 俊 史	摂南大学	鈴 木 正 明	IBU四天王寺大学
	落 合 功	広島修道大学	山 中 卓	鹿児島国際大学
監 事	平 野 義 明	関西大学	細 田 きみ子	東京女子体育大学
事 務 局	〒670-0092 姫路市新在家本町1－1－12 兵庫県立大学環境人間学部			
	F A X : (0 7 9 2) 9 3 - 5 7 1 0		E-mail : suei@shse.u-hyogo.ac.jp	
学 生 委 員 長	田邊裕貴 (中京大学)			
学 生 副 委 員 長	田中 琢朗(成蹊大学)・尾関 克也(関西大学)・平野 礼奈(国士舘大学)			

平成21年度 男子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	11	仙台大学 東北大学 東北学院大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北翔大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	5	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井県立大学	
東 京	22	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	17	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	13	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学	
四 国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 松山大学	
九 州	23	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一工業大学 東海大学九州C 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 日本文理大学 福岡大学 福岡経済大学 福岡工業大学 名桜大学 琉球大学	

平成21年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	17	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	7	金沢大学 金沢学院大学 上越教育大学 信州大学 富山大学 福井大学 松本大学	
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 津田塾大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 桜花学園大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿国際大学 中京大学 中京学院大学 中京女子大学 東海学院大学 東海学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 浜松大学	
近 畿	19	大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大阪大谷大学 関西外国語大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 神戸学院大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 天理大学 兵庫教育大学 佛教大学 奈良教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	8	岡山大学 川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学	
四 国	3	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	6	沖縄国際大学 熊本学園大学 福岡大学 日本文理大学 九州共立大学 名桜大学	
男 子	146大学		
女 子	98大学		
合 計	244大学		平成2009年 7 月21日現在

編 集 後 記

昨年の漢字は「新」でした。学連にとっては大学女子日本代表チームのワールドゲームズでの優勝という輝かしい年でしたので、「輝」とか「喜」でしょうか。しかし、喜んではいられません。ソフトボールのオリンピック種目への復帰は叶いませんでした。「悔」の一字に尽きます。商業主義的で貴族趣味的なところがある I O C の体質改善を望むのは私たちだけではないと思います。特に、環境オリンピックを掲げる I O C がゴルフを選択したのはどうしても納得できません。「新」しい時代の到来を祈念します。

ところで、本号では「研究報告」を 1 編、「卒論紹介」を 3 編掲載しました。ソフトボールに関する研究を紹介し、これを推進・発展させていくことは大学連盟に課せられた大きな責務であると考えています。今後とも着実に実施していきます。

最後になりましたが、本号に原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げ、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙写真：ワールドゲームズ 2009 IN 高雄

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第13号

2010年 1 月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail : mztn@chujo-u. ac. jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町 1 - 1 - 12

兵庫県立大学環境人間学部気付

F A X (0 7 9 2) 9 3 - 5 7 1 0

E-mail : suei@shse. u-hyogo. ac. jp

印 刷 西濃印刷㈱

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

T E L (0 5 8) 2 6 3 - 4 1 0 1

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財団法人日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する
ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

「夢」や「希望」を支える力。

Rawlings® & asics®
Est. 1887

フィールドに立つ者すべてが「夢」や「希望」を抱き、願うその強い想い。その思いに応えるために、ローリングスは、人の五感を意識したモノづくりにこだわり、トッププレーヤー達とともに生まれた「アシックス」の技術や開発力が注ぎ込まれている。そしてこれからも、ソフトボールを愛するすべての人々が、「夢」や「希望」を持ち続けてプレーするための支える力であり続けたい。



asics®
sound mind, sound body

株式会社 アシックス ベースボールマーケティング部 TEL (078) 303-1164

<http://www.asics.co.jp/baseball/>



ウインドミル No. 13 (2009)

ISSN 1343-439X